

令和 6 年度
(第 51 期)
事業報告

作成日：令和 7 年 5 月 24 日

自 令和 6 年 04 月 01 日

至 令和 7 年 03 月 31 日

社会福祉法人 さつき会

1 全体総括

(1) はじめに

令和6年度は、第6期中期経営3か年計画（2022～2024）の最終年度にあたる。社会福祉法人さつき会は、本年度も中期経営計画に掲げた4つの重点目標、1) 多様な人材の採用および次世代経営幹部候補・中核人材の育成と、安心・希望を持ち長く働ける職場環境の整備、2) 業務の可視化・効率化と介護ロボット・ICTの活用による省力化の推進、3) 利用者・家族・地域住民の健康と生きがいの創出、ならびに良質で高度なチームケアの提供、4) 適正利益の確保と内部統制の強化を基軸に、各事業所および委員会の事業活動を展開した。結果として、一定の成果を収めた反面、継続的な課題も浮き彫りとなった。

(2) 法人経営

社会福祉法人さつき会は、法人設立後、これまで51年間にわたり、「地域の福祉ニーズに柔軟に 대응する」ことを使命として、「利用者本位」の原則の下、社会福祉事業を経営してきた。

本年度は、法人全体としての離職率は5.4%となり、前年の4.3%に比してやや上昇したが、依然として全国平均（13.1%/令和4年度）を大きく下回っており、研修制度・リフレッシュ休暇・面談制度など職員定着施策の一定の成果を維持している。また、デイサービスセンターの利用者増加および業績改善が顕著であり、目標対比114.6%、前年比121.2%と大きく向上した点は特筆に値する。

一方で、特別養護老人ホーム鷹栖さつき苑において新型コロナウイルスおよびノロウイルスの集団感染が発生し、施設運営に影響を及ぼした。また、法人全体での目標収益は未達成（-5,708千円）に終わり、目標収益を達成した部門は10部門中3部門にとどまった。サービス活動増減差額は、45,055千円（対前年比+26,940千円）と改善を見せたものの、施設部門・小規模多機能ホームにおける稼働率の低下が法人全体に与える影響は小さくなく、今後の運営改善に向けた重点課題とする必要がある。

また、ホームヘルパー・調理員などの慢性的な人材確保難や、インターンシップによる人材育成施策の未着手が続いており、人的資源の再配分及び戦略的な外国人介護人材・ケアアシスタントの就労率向上と食事サービス方法の見直しが急務である。

(3) 施設運営

施設運営面では、感染症対策の見直しが進むなか、入所者の安全と安心を守りつつ、再び地域やボランティアとの交流機会を模索する取り組みが進められた。介護過程の展開、多職種協同による重度化対応・重症化予防、ICT・介護ロボットの利活用に加え、日常的なアクティビティや行事の再開を通じて、利用者の生活の質の向上に努めた。

一方で、特養・グループホーム・サ高住の空床期間の増加、ショートステイ・小規模多機能ホームの稼働率の低迷が続き、経営的な課題を残した。また、感染症対応や事故防止、科学的介護の実践といった安全対策の実効性、及び職員教育・研修の強化が引き続き求められる状況である。

(4) 次年度の向けて

本年度は中期経営計画の締めくくりの年として、多くの成果とともに、課題が浮き彫りとなった年でもあった。今後は、第7期中期経営計画策定に向け、「次世代の経営を担う人材育成」「介護DX・ICT活用による業務改善とサービスの質向上」「選ばれる施設づくり」「適正利益の固守」を重点事項とし、法人全体で持続可能な福祉サービスの提供体制を構築していくことが喫緊の課題である。次年度は、これまでの成果を土台としつつ、未解決の課題への戦略的な対応を講じ、法人の持続的成長を実現すべく尽力する。

2 部門別事業実績（概要）

事業名 (課)	事業(課)の目的及び内容	利用 定員	職 員 数	実 績	サービス活動 増減差額 (千円)
法人本部	理事会・評議員会の運営 内部監査の実施 法人全体の企画・調整 各施設・事業所の経営及び統括 経営企画に関する諸会議の運営 許認可・申請事務 特命事項 職員の教育・研修 実習、研修等の受入・調整 デイ・なごみ・えんの給食管理・実務 ボランティア・家族会の運営 地域包括支援センターへの人材派遣	—	5	理事会 5回(6) 評議員会 1回(2) 監事監査 4回(4) 経営改善会議 36回(33) 全体会議・研修 2回(2) 実習受入(実件数) 6件(7) (延べ人数) 24名(48) 健康料理教室 5回(4) 地域食堂 12回(9)	△3,348 (△6,509)
総務課	総務・人事・会計の管理・実務 施設運営の企画 施設設備の維持管理 施設内の衛生管理 他部署に属さない業務	—	8	施設整備 非常用照明器具取替等 9件(8) 総事業費 995 (1,843) 器具備品費 車両・機械浴槽等 18件(11) 総事業費 20,504 (10,777)	—
介護老人福祉施設 業さつき苑	要介護と認定された、ねたきり、認知症等により在宅での生活が困難な方に対して、施設において「自立」と「生活の質の向上」を図りながら、快適で安心して生活できるよう生活援助・ケアサービスの提供に努めた。	50名	38	新規入居者 男5名(2)、女11名(7) 計 16名(9) 退居者 男2名(2)、女15名(7) 計 17名(9) 総延べ入院日数 314日(169日) ベッド稼働率 96.2%(98.5%) 入居待機者 21名(25)	17,826 (15,795)
短期入所生活 介護事業	在宅でねたきり、認知症及び虚弱のおとしりを介護されている家族が、介護疲れ、病気、事故などにより、一時的に介護することができなくなった場合に、一定期間そのおとしりに特別養護老人ホームに入居していただき、家族の介護負担の軽減に努めた。	10名	38	実利用者数 36名(34) 実件数 161件(140) 延利用者数 2,844名(2,977) 一日平均 7.8名(8.2) ベッド稼働率 78.2%(81.8)	2,116 (3,211) 生きがいショート委託費 573 (519)
通所介護 はびねす	在宅のねたきり、認知症及び虚弱等の要介護等認定者に対して、1)自立生活の助長、2)心身機能の維持向上、3)社会的孤立感の解消、4)家族の介護負担の軽減を図るために通所して頂き、入浴・食事・送迎サービス、趣味・レク活動、健康チェック、養護、日常生活の相談・助言を行うことで要介護等状態の悪化予防に努めた。	30名	15	開催日数 309日(309) 実利用者数(月平均) 118.1名(91.6) 延利用者数 9,221名(7,253) 生きがいデイ 0(0) 新規利用者 67名(51) 週6日開館、1日平均 29.9名(23.5) 稼働率 100%(78.0)	11,955 (1,900)

事業名 (課)	事業(課)の目的及び内容	利用 定員	職 員 数	実 績	サービス活動 増減差額 (千円)
居宅介護支援事業	在宅でねたきり、認知症及び虚弱のおとしよりが「住み慣れた自宅で最後まで暮らし続けることができるよう」、本人及び家族のニーズに即したケアプランを作成するとともに、ケアプランに基づく各種サービスや社会資源が確保・活用されるよう事業者・関係機関との連絡調整に努めた。	—	7	月平均利用者数 介護 127.1(125.6) 予防 76.3 名 (62.1) 計 203.3 名(187.7) 新規利用 100 名(91) 停止者 54 名(60) 入院者延べ人数 222 名(210)	△1,155 (589)
共同生活介護事業 認知症対応型	認知症により自宅での生活が困難な方に対して、グループホームにおいて「自立と尊厳を支え」と「生活の質の向上」を図りながら、快適で安心して生活できるよう「利用者中心」の生活援助・ケアサービスの提供に努めた。	18 名	19	新規入居者 男 2 名(0)、女 5 名(3) 計 7 名(3) 退居者 男 1 名(0)、女 6 名(3) 計 7 名(3) 総延べ入院日数 106 日(11 日) ベッド稼働率 95.5%(99.7%) 入居待機者 8 名(16)	2,173 (3,997)
小規模多機能型居宅介護事業 なごみの家	在宅の認知症及び虚弱のおとしよりができる限り住み慣れたわが家で暮らしが続けられるように、可能な限り自宅やそれに替わる場所において「普通の暮らし」が営めるような環境と継続的・総合的なケアを提供するため、日々の「通い」を中心に、本人の心身状態と家族の状況に応じて、「訪問」や一時的な「泊まり」を組み合わせ、継続的・総合的なケアの提供に努めた。	(通い) 15 名 ----- (泊まり) 6 名 ----- (訪問) 一名	11	開催日数 365 日(365) 平均登録者数 19.8 名(20.6) 実利用者数 30 名(34) 延利用者数 3,375(3,785) 新規利用者 10 名(14) 停止者 10 名(14) 1 日平均 9.2 名(10.3) 稼働率 61.6%(69.2%) ----- 実利用者数 13 名(18) 延利用者数 874 名(1,588) 1 日平均 2.4 名(4.4) 稼働率 39.9%(72.4%) ----- 実利用者数 19 名(19) 延利用者数 2,989 名(2,846) 1 日平均 8.2 名(7.8)	3,666 (617)
ユニット型地域密着型 介護老人福祉施設事業	鷹栖町在住の要介護と認定された、ねたきり、認知症等により在宅での生活が困難な方に対して、施設において「自立」と「生活の質の向上」を図りながら、快適で安心して生活できるよう生活援助・ケアサービスの提供に努めた。	20 名	22	新規入居者 男 3 名(0)、女 2 名(7) 計 5 名(7) 退居者 男 2 名(1)、女 3 名(5) 計 5 名(6) 総延べ入院日数 196 日(156 日) ベッド稼働率 96.0%(95.4%) 入居待機者 7 名(17)	4,467 (△9,655)
小規模多機能型居宅介護 事業ぬくもりの家えん	在宅の認知症及び虚弱のおとしよりができる限り住み慣れたわが家で暮らしが続けられるように、可能な限り自宅やそれに替わる場所において「普通の暮らし」が営めるような環境と継続的・総合的なケアを提供するため、日々の「通い」を中心に、本人の心身状態と家族の状況に応じて、「訪問」	(通い) 15 名	9	開催日数 357 日(358) 平均登録者数 21.7 名(22.7) 実利用者数 31 名(27) 延利用者数 3,720 名(3,609) 新規利用者 9 名(8) 停止者 12 名(6) 1 日平均 10.2 名(10.0) 稼働率 67.9%(66.8)	5,420 (3,988)

事業名 (課)	事業(課)の目的及び内容	利用 定員	職 員 数	実 績	サービス活動 増減差額 (千円)
	や一時的な「泊まり」を組み合わせ、 継続的・総合的なケアの提供に努めた。	(泊まり) 6 名		実利用者数 17 名(16) 延利用者数 1,188 名(1,089) 1 日平均 3.2 名(3.0) 稼働率 54.2%(50.4)	
		(訪問) 一名		実利用者数 18 名(17) 延利用者数 5,400 名(6,069) 1 日平均 14.8 名(16.9)	
住宅事業 めくもりの家 たかほ サービス付き 高齢者向け	主に虚弱・要支援等の高齢者の早めの 住み替えニーズに応じた安心・安全 な住宅サービス・相談援助サービス等 を提供し、出来る限り長く住み慣れた 地域社会で生活を続けていくことの支 援に努めた。	18 名	11	新規入居者 男 3 名(1)、女 1 名(2) 計 4 名 退居者 男 4 名(1)、女 2 名(2) 計 6 名 月平均入居者数 17.0 名 稼働率 95.4%(98.6) 総延べ入院日数 144 日(112) 入居待機者(令和 7 年度 3 月末) 7 名(7)	△1,972 (△545)
訪問 介護 事業	在宅で虚弱、ねたきり、認知症のおと しより等の要介護等認定者および難 病患者の家庭等に対して、自立とより 質の高い在宅生活の継続が図られる よう、生活援助、身体介護、相談・助 言を主とする生活支援サービスの提 供に努めた。	—	9	派遣世帯数(年間) 125 世帯(122) 訪問延回数 9,691 回(10,335) 活動延時間 7,535 時間(8,184) 内、生きがいヘルプ 0(0) 内、難病疾患ヘルプ 0(0) 新規利用者 24 名(32)	5,099 (5,342) 生きがいヘルプ 委託費 0(0) 難病患者ヘルプ 委託費 0(0)
フィットネス 倶楽部コレカラ 総合事業	在宅の主一般高齢者を対象に、虚 弱化・要介護の予防を目的に、フィット ネス倶楽部コレカラの運営、介護予防 体操(あったかすリハビリ体操)の普 及、介護予防体操指導士(あったかす リハビリ体操指導士)の養成、介護予 防サポーター(コレカラサポーター)の 養成、住民主体の通いの場の立ち上 げ、介護予防運動教室の運営に努め た。	—	2	開催日数 307 日(307) 登録者数 475 名(426) 総延べ利用人数 8,098 名(7,691) 各教室の内訳 サーキット 5,234 名 レッドコード教室 2,864 名 月平均利用者数 675 名(641) 1 日平均利用者数 23.0 名(21.6) 新規利用者 29 名(14) 停止者(利用 0 回) 278 名(260)	
移送 サー ビス 事業	心身の障がい・病気により、ねたきりや 車いす上で生活されている方が、通 院等の理由により外出しなければなら なく、一般の車両への乗降が難しい時 に、さつき苑に配置されている寝台、 若しくは車いすのまま乗り込むことが できる専用車両で、自宅から目的地ま での送迎を行い、利用者の外出支援 に努めた。	—	—	実利用者数 9 件(3) 延利用件数 75 件(18) (内訳...町内 0 件、町外 75 件)	33 (39) 委託費収入のみ

事業名 (課)	事業(課)の目的及び内容	利用 定員	職 員 数	実 績	サービス活動 増減差額 (千円)
(生きがいデイサービス) 介護予防事業	在宅の介護認定非該当の虚弱なおとしよりに対して、1)自立生活の助長、2)心身機能の維持向上、3)社会的孤立感の解消を図るため、デイセンター(はびねす)に通所して頂き、入浴・食事・送迎サービス、趣味・レク活動、健康チェック、養護等のサービスを提供し、要介護状態にならないように努めた。	—	—	実利用者数 0名(0) 延利用者数 0名(0) 新規利用者 0名(0)	0 (0) 委託費収入のみ

※1 職員数に施設長は含めず

※2 実績及びサービス活動増減差額欄の()内は前年度実績

令和6年度 業績概況

3 業績の状況

(1) サービス活動収益の目標対比

単位:円

事業名	第2次補正予算 (A)	決算 (B)	差異 (B)-(A)	達成率 (B)/(A)	備考
法人本部	17,319,000	17,125,685	▲ 193,315	0.0%	
小 計	17,319,000	17,125,685	▲ 193,315	0.0%	
介護老人福祉施設事業	227,500,000	226,409,757	▲ 1,090,243	99.5%	
短期入所生活介護事業	31,937,000	31,213,809	▲ 723,191	97.7%	
小 計	259,437,000	257,623,566	▲ 1,813,434	99.3%	
通所介護事業(はびねす)	75,188,000	74,345,176	▲ 842,824	98.9%	
居宅介護支援事業	29,147,000	28,937,950	▲ 209,050	99.3%	
小 計	104,335,000	103,283,126	▲ 1,051,874	99.0%	
認知症対応型共同生活介護事業	89,535,000	89,129,508	▲ 405,492	99.5%	
小規模多機能型事業(なごみの家)	60,882,000	60,947,931	65,931	100.1%	
小 計	150,417,000	150,077,439	▲ 339,561	99.8%	
ユニット型地域密着型介護老人福祉施設事業	107,712,000	107,362,107	▲ 349,893	99.7%	
小規模多機能型事業(ぬくもりの家えん)	63,114,000	63,088,556	▲ 25,444	100.0%	
小 計	170,826,000	170,450,663	▲ 375,337	99.8%	
サービス付き高齢者向け住宅事業	29,664,000	29,625,855	▲ 38,145	99.9%	
訪問介護事業	34,281,000	34,962,550	681,550	102.0%	
小 計	63,945,000	64,588,405	643,405	101.0%	
合 計	766,279,000	763,148,884	▲ 3,130,116	99.6%	

(2) サービス活動収益の前年度対比

単位:円

事業名	令和5年度 (A)	令和6年度 (B)	差異 (B)-(A)	伸長率 (B)/(A)	備考
法人本部	16,832,592	17,125,685	293,093	0.0%	
小 計	16,832,592	17,125,685	293,093	0.0%	
介護老人福祉施設事業	226,233,093	226,409,757	176,664	100.1%	
短期入所生活介護事業	33,665,874	31,213,809	▲ 2,452,065	92.7%	
小 計	259,898,967	257,623,566	▲ 2,275,401	99.1%	
通所介護事業(はびねす)	61,357,677	74,345,176	12,987,499	121.2%	
居宅介護支援事業	27,472,930	28,937,950	1,465,020	105.3%	
小 計	88,830,607	103,283,126	14,452,519	116.3%	
認知症対応型共同生活介護事業	93,082,433	89,129,508	▲ 3,952,925	95.8%	
小規模多機能型事業(なごみの家)	59,277,504	60,947,931	1,670,427	102.8%	
小 計	152,359,937	150,077,439	▲ 2,282,498	98.5%	
ユニット型地域密着型介護老人福祉施設事業	103,031,799	107,362,107	4,330,308	104.2%	
小規模多機能型事業(ぬくもりの家えん)	59,780,924	63,088,556	3,307,632	105.5%	
小 計	162,812,723	170,450,663	7,637,940	104.7%	
サービス付き高齢者向け住宅事業	30,243,387	29,625,855	▲ 617,532	98.0%	
訪問介護事業	37,514,780	34,962,550	▲ 2,552,230	93.2%	
小 計	67,758,167	64,588,405	▲ 3,169,762	95.3%	
合 計	748,492,993	763,148,884	14,655,891	102.0%	

令和6年度 業績概況

(3) サービス活動増減差額の目標対比

単位:円

事業名	第2次補正予算 (A)	決算 (B)	差異 (B)-(A)	達成率 (B)/(A)	備考
法人本部	▲ 4,476,000	▲ 3,348,132	1,127,868	74.8%	
小 計	▲ 4,476,000	▲ 3,348,132	1,127,868	74.8%	
介護老人福祉施設事業	22,064,000	17,825,881	▲ 4,238,119	80.8%	
短期入所生活介護事業	3,194,000	2,116,193	▲ 1,077,807	66.3%	
小 計	25,258,000	19,942,074	▲ 5,315,926	79.0%	
通所介護事業(はびねす)	15,838,000	11,954,968	▲ 3,883,032	75.5%	
居宅介護支援事業	278,000	▲ 1,155,231	▲ 1,433,231	208.9%	
小 計	16,116,000	10,799,737	▲ 5,316,263	67.0%	
認知症対応型共同生活介護事業	3,660,000	2,173,080	▲ 1,486,920	59.4%	
小規模多機能型事業(なごみの家)	4,556,000	3,666,347	▲ 889,653	80.5%	
小 計	8,216,000	5,839,427	▲ 2,376,573	71.1%	
ユニット型地域密着型介護老人福祉施設事業	13,045,000	4,466,719	▲ 8,578,281	34.2%	
小規模多機能型事業(ぬくもりの家えん)	10,116,000	5,420,069	▲ 4,695,931	53.6%	
小 計	23,161,000	9,886,788	▲ 13,274,212	42.7%	
サービス付き高齢者向け住宅事業	▲ 626,000	▲ 1,972,203	▲ 1,346,203	315.0%	
訪問介護事業	2,576,000	5,098,919	2,522,919	197.9%	
小 計	1,950,000	3,126,716	1,176,716	160.3%	
合 計	70,225,000	46,246,610	▲ 23,978,390	65.9%	

(4) サービス活動増減差額の前年度対比

単位:円

事業名	令和5年度 (A)	令和6年度 (B)	差異 (B)-(A)	伸長率 (B)/(A)	備考
法人本部	▲ 6,509,015	▲ 3,348,132	3,160,883	51.4%	
小 計	▲ 6,509,015	▲ 3,348,132	3,160,883	51.4%	
介護老人福祉施設事業	15,794,602	17,825,881	2,031,279	112.9%	
短期入所生活介護事業	3,211,213	2,116,193	▲ 1,095,020	65.9%	
小 計	19,005,815	19,942,074	936,259	104.9%	
通所介護事業(はびねす)	1,899,993	11,954,968	10,054,975	629.2%	
居宅介護支援事業	589,298	▲ 1,155,231	▲ 1,744,529	220.4%	
小 計	2,489,291	10,799,737	8,310,446	433.8%	
認知症対応型共同生活介護事業	3,997,379	2,173,080	▲ 1,824,299	54.4%	
小規模多機能型事業(なごみの家)	616,848	3,666,347	3,049,499	594.4%	
小 計	4,614,227	5,839,427	1,225,200	126.6%	
ユニット型地域密着型介護老人福祉施設事業	▲ 9,654,732	4,466,719	14,121,451	-46.3%	
小規模多機能型事業(ぬくもりの家えん)	3,987,772	5,420,069	1,432,297	135.9%	
小 計	▲ 5,666,960	9,886,788	15,553,748	-174.5%	
サービス付き高齢者向け住宅事業	-544,857	-1,972,203	▲ 1,427,346	362.0%	
訪問介護事業	5,342,104	5,098,919	▲ 243,185	95.4%	
小 計	4,797,247	3,126,716	▲ 1,670,531	65.2%	
合 計	18,730,605	46,246,610	27,516,005	246.9%	

令和6年度 法人本部事業報告

1. 総括

本年度は、職員の成長支援、外国人スタッフの受け入れ体制整備、魅力ある職場づくり、介護ロボット・ICTの活用推進、事業継続計画の策定、そして法令遵守体制の強化に努めた。

職員研修においては、計画に基づいた研修を実施し、基礎介護力向上研修の見直しや人材育成システムによる研修・資格情報の一元管理を実現。これにより、職員のスキルアップと資格管理の効率化を図ることができた。

外国人スタッフの受け入れ支援においては、B-Proとしての活動は引越し支援のみであったが、買い物や外出、行政手続きなど外国人スタッフへのサポートは継続し、一緒に働くスタッフによる支援へと展開することができた。また、餅つきイベント等の企画を通じて、交流を図ることができた。

魅力ある職場づくりと多様なリクルート活動においては、公式LINEの開設やホームページの管理・運用を進めたが、ホームページのリニューアルは次年度に持ち越しとなった。働きやすい職場作りの取り組みは計画通り実施し、企業価値を高めるための認定資格取得に向けた情報収集も行うことができた。しかし、リクルート活動においては、大学・専門学校訪問を実施したものの、就職希望者の獲得には至らなかった。

非常災害時の事業継続計画（BCP）については、計画に基づいた実地研修を実施し、計画書の更新を行うことができた。これにより、緊急時においても事業を継続できる体制の強化を図ることができた。

制度・法令に基づく法人運営においては、関係法令や制度改正に合わせた規程等の整備と職員への周知を概ね計画通りに行うことができた。また、監事監査、理事会、評議員会、役員会も予定通り開催することができた。

全体として、計画通りに進捗した項目がある一方で、ホームページのリニューアルやリクルート活動、介護ロボット・ICTの活用など、次年度に注力すべき課題も明らかとなった。

令和6年度の経営状況として、当初掲げていた業績管理目標を達成したのは、デイサービスセンターはびねす、特別養護老人ホームぬくもりの家えん、小規模多機能ホームぬくもりの家えんのみであった。法人全体の事業活動収入は776,934千円（当初予算779,445千円）、事業活動収支差額79,278千円（当初予算72,944千円）、サービス活動増減差額は45,055千円（前年度18,115千円）となった。

2. 展望（次年度に向けて）

令和7年度は、基本方針に掲げられた「次世代の経営を担う人材育成」「DX・ICT・介護ロボットの導入・活用」「職員の主体的な活躍」「施設の大規模修繕・リノベーション」「安定した経営基盤の確立」という6つの柱を中心に、重点目標の達成を目指し、持続的な成長と質の高い介護サービスの提供を実現する。

（1）人材育成と組織活性化

「職員の成長を実感できる研修の運営」においては、ハラスメント対策、チームビルディング、セルフケア、ストレスマネジメント、フォローアップ研修といった多様な社内研修を計画的に実施し、職員の成長を多角的に支援する。基礎介護力向上研修の内容を見直し、エルダー指導項目の改善を図ることで、より質の高いOJTを実現する。

「次世代経営幹部の育成」に向けては、さつき会の未来を考える勉強会を定期的に開催し、先進施設視察による知見の獲得と改善活動を推進いたします。個々の能力開発を支援し、マネジメント・経営に関する研修機会を提供することで、次世代のリーダー育成に注力する。

「働きやすく、働きがいのある職場づくりと多様なリクルート活動の展開」では、SNS（LINE、ブログ、FB、インスタグラム）の連携による情報発信の強化、ホームページのリニューアルによる魅力的な情報提供、オンライン就職説明会の開催、インターンシップの受け入れ体制整備など、多様なリクルート活動を展開する。計画的な人員配置と要員計画に基づいた採用活動を行うとともに、社内副業制度の創設や限定正職員制度の見直し・拡充を図り、多様な働き方に対応できる柔軟な職場環境を整備する。また、くるみん、えるぼし認定の取得を目指し、法人としてのブランド価値向上を図る。労働者の各種制度の情報提供と活用を推進し、同一労働同一賃金への対応と業務記述書の整備、ハラスメント対策の推進など、職員が安心して働きがいを感じられる職場づくりを推進する。

（2）DX・ICT・介護ロボットの推進

「介護ロボット・ICTの活用により介護の質の向上と生産性の向上」に向けて、介護情報システムの効果的な活用を推進し、最新のICT機器に関する情報収集と導入、活用促進、効果検証を行います。デジタル中核人材の育成とICT活用促進のためのわかりやすいマニュアル作成を通じて、全施設・部署でのDXを推進し、生産性の向上と質の高いケアの提供を目指す。

（3）法人運営と事業基盤の強化

「制度・法令の遵守と安定した法人運営」においては、制度改正や介護保険制度改定に関する情報を迅速かつ正確に収集し、社内規程等の整備と職員への周知を徹底する。

「特養さつき苑大規模改修、リノベーションに向けた取り組みと中期修繕計画の策定」では、大規模修繕・リノベーションに向けた情報収集とコンセプト・設計・資金計画等の策定を行い、補助金申請の準備を進める。また、なごみの家、ぬくもりの家えん、ぬくもりの家たかほの中長期的な修繕計画を策定し、安定した事業運営と質の高い居住環境の維持を図る。活用できる補助金の調査も積極的に行う。

これらの展望に基づき、職員一同、より一層の努力を重ね、地域社会に貢献できる質の高い介護サービスの提供と、持続可能な法人運営を目指す。

3. 運営状況

(1) 理事会の開催状況

回	期 日	議決事項等	出席者
1	5月25日 (土) 15:00～ 15:50	報告第1号 理事長専決事項について 議案第1号 令和5年度経過報告並びに事業報告・業業報告について 議案第2号 令和5年度決算報告について 議案第3号 監事監査結果報告について	理事4名 監事2名
2	8月24日 (土) 15:00～ 16:00	報告第1号 理事長専決事項について 1.人事関係 2.寄付金について 3.外国人語学力向上にかかわる祝い金要綱の制定について 報告第2号 令和6年度第一四半期経過報告について 報告第3号 令和6年度第一四半期業績・収支報告について 報告第4号 監事監査結果報告について 議案第1号 給与規定の一部改正について（オンコール待機手当） 議案第2号 給与規定の一部改正について（「訪問介護事業所サービス提供責任者手当」の創設） 議案第3号 就業規則の一部改正（年次有給休暇）について 議案第4号 育児・介護休業等に関する規程の一部改正について	理事6名 監事2名
3	11月16日 (土) 15:00～ 16:15	報告第1号 理事長専決事項について 報告第2号 令和6年度第二四半期経過報告について 報告第3号 令和6年度第二四半期業績・収支報告について 報告第4号 監事監査報告について 報告第5号 令和6年度運営指導等の結果報告について（ヘルパー、たかほ、グループホーム） 議案第1号 運営規定の改定（案）について	理事4名 監事2名
4	2月22日 (土) 15:00～ 16:15	報告第1号 理事長専決事項について 報告第2号 令和6年度第3四半期経過報告について 報告第3号 令和6年度第3四半期業績・収支報告について 報告第4号 監事監査結果報告について 議案第1号 給与規程の一部改定（案）について（クラスター現場対応手当の新設） 議案第2号 就業規則の一部改定（案）について（子の看護等休暇の見直しほか） 議案第3号 評議員選任候補者の推薦（案）について 議案第4号 評議員選任・解任委員会の開催（案）について 議案第5号 リクライニング式シャワー入浴装置購入における随意契約について	理事5名 監事2名

回	期 日	議決事項等	出席者
		議案第 6 号 施設整備等積立金の取崩し（案）について 議案第 7 号 周年記念事業積立金の取崩し（案）について 議案第 8 号 令和 6 年度第 1 次補正予算(案) について	
5	3 月 22 日 (土) 15:00 ～ 16:30	報告第 1 号 理事長専決事項について 議案第 1 号 積立金の計上（案）について 議案第 2 号 令和 6 年度 第 2 次補正予算（案）について 議案第 3 号 第 7 次〈2025－2027〉中期経営計画（案）について 議案第 4 号 令和 7 年度経営（事業）計画並びに当初予算（案）について 議案第 5 号 特別養護老人ホーム鷹栖さつき苑の居住環境・労働環境改善に対する基本本方針と推進計画（案）について 議案第 6 号 評議員選任・解任委員会の開催（案）について その他 決算賞与について 次年度の理事会日程について	理事 6 名 監事 2 名

(2) 評議員会の開催状況

回	期 日	議決事項等	出席者
1	6 月 15 日 (土) 15:50 ～ 17:20	議案第 1 号 令和 5 年度 事業報告について 議案第 2 号 令和 5 年度 決算報告について（監事監査報告含） 議案第 3 号 令和 6 年度 経営（事業）計画並びに当初予算（案）について	評議員 4 名

(3) 監査等の実施状況

① 監事監査

回	期 日	主な監査実施項目	監査実施者
1	5 月 16 日(木) 15:00～ 15:45	令和 5 年度経過報告並びに事業報告について 令和 5 年度業績報告並びに決算報告について 入居者預り金の管理状況について 総括	監事 2 名
2	8 月 20 日(火) 15:00 ～ 15:45	令和 6 年度第 1 四半期業績報告について 令和 6 年度第 1 四半期収支報告について 入居者預り金の管理状況について 総括	監事 2 名
3	11 月 6 日(水) 14:55 ～ 15:45	令和 6 年度第 2 四半期業績報告について 令和 6 年度第 2 四半期収支状況報告について 入居者預り金の管理状況について 総括	監事 2 名

4	2月13日(木) 15:00 ~ 15:40	令和6年度第3四半期業績報告について 令和6年度第3四半期収支状況報告について 入居者預り金の管理状況について 総括	監事2名
---	------------------------------	---	------

(4) 入職者状況

単位：人

入職者			紹介元					
	入職者数	内 正職員	職員紹介	人材紹介	ハローワーク	学校推薦	求人広告	技能実習生
介護職員	7	6	0	4	1	0	0	0
介護職員以外	12	2	2	2	1	1	1	0

(5) 退職者状況

単位：人

入職者		
	退職者数	内 正職員
介護職員	7	7
介護職員以外	10	3

(6) 令和7年4月1日入職者

単位：人

入職者			紹介元					
	入職者数	内 正職員	職員紹介	人材紹介	ハローワーク	学校推薦	求人広告	技能実習生
介護職員	2	2	0	1	0	1 (在留介護)	0	0
介護職員以外	0	0	0	0	0	0	0	0

(7) 介護職員（正職員）離職率

単位：%

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
離職率	4.8	8.5	7.2	4.6	9.5	7.8	4.3	6.8	4.3	5.4

(8) 資格保有・取得状況

単位：人

	介護福祉士	介護支援専門員	看護師	准看護師	保健師	管理栄養士	理学療法士	社会福祉士（精神保健福祉士）	2級ヘルパー（介護職員初任者研修含む）	社会福祉主事
正職員	62 (+1)	29 (+2)	7	1	2	2	2	10【2】	29	22
パート職員	15	3	4	2	0	栄養士 1	0	1	18	1
計	77	32	11	3	2	3	2	11【2】	47	23

註：令和7年3月31日現在の在籍者 精神保健福祉士は【 】で表示

註：下段（ ）内は令和6年度取得者数

(9) 諸会議

① 経営改善会議

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎週水曜日 10:10～11:00	安定的かつ効率的な施設・事業所経営を図るため、経営・運営上における課題や重要事項について協議・決議することを目的とする。	施設長 各部長 各課長	36 回

② 財政健全化推進チーム・地域包括ケア推進チーム会議

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第 4 水曜日 13:15～15:00	・収入と支出のバランスが取れた安定的な財政構造の実現を図るために必要な推進（計画策定・実行・評価）を行う。 ・新たな地域ケア（地域包括ケア）に取り組むために必要な事業所の運営改善を図る。	施設長 各部長 各課長 各主任 介護支援 専門員等	10 回

③ 衛生委員会

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第 4 水曜日 13:00～13:15	・職員の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関する事 ・職員の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関する事 ・労働災害の原因調査及び再発防止対策で衛生に係る者に関する事 など	施設長 各部長 各課長 各主任 介護支援 専門員等	7 回

④ 広報委員会

開催日時	目 的	出席者	開催実績
2 ヶ月に 1 回開催 17:45～18:15	地域・家族・利用者の方々に広報誌等を見てもらうことで、施設の取り組みを知ってもらい、ボランティアや地域の方々との交流につなげるきっかけをつくる。 主な内容 ・経営（事業）計画、決算報告 ・満足度調査結果報告 ・各事業所の季節行事 ・入社式、永年勤続表彰、各種表彰 ・長寿のお祝い会 ・その他	部長 尾上健介 大矢敏之 和泉千春 林由美 谷口尚弘 河田真美子 舟根佳奈	6 回

⑤感染症対策委員会・担当者会議

開催日時	目 的	出席者	開催実績
(感染症対策委員会) 毎週水曜日 10:10～11:00	・感染症対策に関すること ・感染症予防ワクチン接種に関すること ・その他	施設長 部長 (2) 課長 (3)	36 回
(担当者会議)	・感染症予防研修について ・感染症予防ワクチン接種に関すること	施設長 課長 看護師	2 回

⑥職員全体研修・会議

開催日時	目 的	出席者	開催実績
1. 全体研修	①感染対策研修会（対象：全職員～各事業所単位で実施） 講師：谷水さおり・藤川朋恵）	全職員	全体研修 各事業所 1 回
	②セルフケア研修 令和 7 年 2 月 28 日 講師：倉雅彦 社会保険労務士	5 年目ま での職員 および希 望者	1 回
	③パワーハラスメント研修 令和 7 年 3 月 12 日 講師：倉雅彦 社会保険労務士	主任 課長 部長 施設長	1 回
	④基礎介護力向上研修 令和 6 年 9 月～令和 7 年 1 月 初級 5 分野 各 2 回 中級 5 分野 各 2 回	全職員	10 回
2. 全体会議	開催日時 令和 6 年 5 月 31 日（金）6 月 3 日（月）18:00～20:00 開催場所 サンホールはびねす 1 階大ホール 開催内容（2 回とも同じ内容） 1) 令和 6 年度社会福祉法人さつき会経営計画・事業計画について 2) 介護職員処遇改善について 3) BCP（業務継続計画）について 4) 有給休暇の取得について 5) ハラスメントについて 6) 交通安全について 7) その他 出席者：2 回合計 110 名	全職員	2 回

⑦ 中期経営 3 か年計画策定会議

開催日時	目 的	出席者	開催実績
第 1 回 11 月 13 日 (水) 11 : 00～17 : 00	・第 6 次中期経営 3 か年計画策定方針・スケジュールの説明・協議 ・第 6 次中期経営 3 か年計画の中間総括 ・外部環境分析 人口構造の変化・社会福祉法・介護保険制度・労働法の動向・社会情勢等の共有 ・内部環境分析①「法人・自部門の強み・弱みの可視化」	施設長 部長 (2) 課長 (3)	4 回
第 2 回 11 月 18 日 (月) 11 : 00～17 : 00	・内部環境分析②「法人・自部門の強み・弱みの可視化」 ・内部環境分析③「強み・困っていること・取り組みたいことの可視化」		
第 3 回 11 月 27 日 (水) 11 : 00～17 : 00	・中期経営 3 か年計画（基本方針・職場目標・重点目標・重点事項）の原案を作成 ・中期経営 3 か年計画（案）の完成		
第 4 回 12 月 11 日 (水) 11 : 00～17 : 00	・中期経営 3 か年計画（基本方針・職場目標・重点目標・重点事項）の原案を職員へ提示し、意見を集約する。		

(10) 法人創立 50 周年記念事業

回	期 日	活動内容	出席者
1	10 月 29 日(火) 17:30 ～19:00	・オリジナルグッズ製作チームメンバー紹介とリーダー選考 ・制作チームの目的、役割 ・記念グッズの内容の決定 ・役割分担 ・記念事業のスケジュール決定	5 名
2	12 月 2 日(月) 17:45 ～19:00	・記念グッズの選定 ・記念グッズのデザインの企画・制作 ・記念グッズの発注、納品後の管理 ・制作請負業者との打ち合わせ・価格交渉 ・その他、オリジナルグッズ製作に必要なこと	5 名
3	1 月 24 日(金) 17:30 ～18:10	・記念グッズの見積、予算の確認 ・今後の流れ	3 名

(11) サービス向上発表会

令和 6 年度 未開催

(12) 広報誌の発行（町内全戸配布）

発行回数	発行部数
年 6 回発行	各 3, 000 部発行

(13) 実習生等受入状況

実習日程	人数	実習名	実習生所属学校等
6 月 17 日～7 月 27 日	2	介護実習（2 年生）	旭川福祉専門学校
7 月 30 日～8 月 7 日	15	介護現場実習	特別養護老人ホーム長寿園職員
8 月 26 日～9 月 7 日	2	介護実習（1 年生）	旭川福祉専門学校
8 月 13 日～9 月 18 日	2	相談援助実習（3 年生）	旭川市立大学保健福祉学部 コミュニティ福祉学科
10 月 3 日～4 日	15	介護職員初任者研修 介護実習	北海道鷹栖高等学校
11 月 25 日～12 月 21 日	2	介護実習（1 年生）	旭川福祉専門学校
2 月 7 日～18 日	1	社会福祉士養成課程ソーシ ヤルワーク実習Ⅰ（2 年生）	旭川市立大学保健福祉学部 コミュニティ福祉学科
人 数	39		

(14) 苑外研修参加状況

月	日	研修・会議名	開催地	参加者
4	20～21	第 15 回全国先端ケア研究会	オンライン	波潟ほか 16 名
5	22	技能実習指導員講習	オンライン	室橋
6	17～19	全国老施協第 52 回総会 全国高齢者ケア研究会制度改正・報酬改定情 報交換会 特養改築に関わる情報収集・施設見学	東京都	波潟
	21	全基連 オンライン生活指導員講習	オンライン	谷本
7	1～2	北海道老施協広報委員会 北海道老施協役員情報交換会・政策懇談会	札幌市	波潟
	9	安全運転管理者講習	旭川市	谷
	15	第 59 回日本理学療法学会学術研修大会	オンデマンド	大矢、大河原
	22～23	北海道老施協正副会長会議 北海道老施協幹事会 北海道老施協役員情報交換会・政策懇談会	札幌市	波潟

	30	令和 6 年度北海道主任介護支援専門員更新研修前期(実務未経験者)	オンライン	松嶋
	31	新任職員介護職員研修	旭川市	堀井、サム
8	3	令和 6 年度北海道主任介護支援専門員フォローアップ研修会	オンライン	山本裕
	6～7	令和 6 年度全道ホームヘルプサービス研究発表会	札幌市	米澤、深瀬
	6～7	2024 年度認知症介護実践研修	旭川市	林
	7～8	介護支援専門員更新研修	オンライン	秋保
	9	学卒者採用向け学校訪問	名寄、東川、剣淵、鷹栖	尾上
	21	令和 6 年度北海道主任介護支援専門員更新研修後期(実務未経験者)	オンライン	松嶋
	21～23	2024 年度認知症介護実践研修	旭川市	林
	26～27	学卒者採用向け学校訪問	札幌、江別	尾上
9	30～31	テーナオンラインセミナー	江別市	波潟、谷本、室橋
	3～5	全国老施協役員・北海道老施協役員情報交換会・政策懇談会	札幌市	波潟
	11～12	全道老人福祉施設研究大会(第 43 回老人福祉施設研究発表会)	札幌市	室橋、和泉、谷口、久保田、澤田
	29	令和 6 年度第 2 回福祉職場説明会	札幌市	尾上
	30	北海道介護支援専門員更新研修	オンライン	谷
10	30～10/1	ケアスタディ間野代表視察随行情報交換会	美瑛町	波潟
	4	2024 年度認知症介護実践研修	旭川市	林
	9	デイサービス事業継続等相談支援研修	オンライン	谷、藤川、大矢
	10～11	道北地区老施協生活相談員・ケアマネジャー研修	美瑛町	谷、大矢、古田、
	15～16	令和 6 年度北海道主任介護支援専門員更新研修	オンライン	坂林
	22	先進施設視察	江別市	藤川、大河原、成田、沖、レタシヤ
	24	北海道介護支援専門員更新研修	オンライン	谷
	26	秋の合同就職説明会	名寄市	尾上
	29	令和 6 年度全道ヘルパー研修	札幌市	伊藤、藤木
11	30	道北地区老施協看護職員研修	旭川市	藤川、谷水
	5	デイサービス事業継続等相談支援研修	オンライン	谷、藤川、大矢

	13～14	令和 6 年度北海道主任介護支援専門員更新研修	オンライン	坂林
	16	多職種協同による自立支援と重度化対応研修 ①	オンライン	室橋、和泉、鈴木、己上、森、大倉、松原、谷水、能登、谷、藤川、大矢
	20～24	第 3 回全国老人福祉施設大会・研究大会～JS フェスティバル in 滋賀～ 法人経営・施設運営改善に関わる視察見学	滋賀県	波潟、設楽、松原
	28～29	第13回健康寿命をのばそう！アワード表彰式	東京都	尾上
12	9	令和 6 年度アイムジャパン受入企業懇談会	札幌市	尾上
	10	デイサービス事業継続等相談支援研修	オンライン	谷、藤川、大矢
	12～13	WJU勉強会	東京都	波潟
	15～17	全国老施協第 53 回総会 全国高齢者ケア研究会 制度改正・報酬改定情報交換会	東京都	波潟
	18～20	特別養護老人ホームささず苑かすが視察研修	富山県	波潟
1	8	デイサービス事業継続等相談支援研修	オンライン	谷、藤川、大矢
	8～9	令和 6 年度北海道主任介護支援専門員研修	オンライン	山本正
	23～24	北海道老施協 役員情報交換会・政策懇談会	札幌市	波潟
	24	施設長研修セミナー	札幌市、 オンライン	谷本、谷
	28	北海道介護支援専門員実務研修	オンライン	澤田
	31	全国老施協版介護ICT導入モデル普及事業南 幌みどり苑視察	南幌町	波潟、尾上、谷 本、室橋、和泉
2	7	デイサービス事業継続等相談支援研修	オンライン	谷、藤川、大矢
	12～13	令和 6 年度北海道主任介護支援専門員研修	オンライン	山本正
	15	令和 6 年度北海道ホームヘルプサービス協議 会 上川・留萌地区別資質向上研修	旭川市	小笠原、鈴木み
	20	令和 6 年度サービス提供責任者講習	札幌市	深瀬
	20	学内企業セミナー	札幌市	尾上
3	6～7	全国老施協 令和 6 年度デイサービス事業継 続等相談支援研修会 東京会場集合研修	東京都	谷、藤川、大矢
	8	第 1 回介護人材戦略フォーラム	オンライン	波潟
	15	多職種協同による自立支援と重度化対応研修 ②	オンライン	室橋、和泉、鈴木、己上、森、大倉、谷水、能登、谷、藤川、大矢
				述べ 131 名

令和6年度 総務課事業報告

1. 総括

令和6年度は、基本方針である『良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る』に基づき、重点目標に掲げた「笑顔とやさしさ・思いやりのある心のこもった窓口対応」「チームワークとICT活用等を通じた総務サービスの質向上」「利用者本位の生活空間の提供」「働きやすい職場環境づくり」の実現に向け、各項目において計画的に取り組んだ。

まず、接遇と施設環境の整備向上においては、接遇研修を継続的に実施することで、職員一人ひとりの接遇意識の向上を図ることができた。また、特養さつき苑の正面玄関及び大ホールの清掃と環境整備を毎週継続し、来訪者や職員にとって気持ちの良い空間づくりに努めた。災害対策・感染症対策では、非常災害時の物品保管場所の見直しや非常用発電機の方法の共有化を図り、防災体制の強化に努めた。仕事の見える化・効率化の推進では、各担当が業務マニュアルを作成し、事務処理の標準化と効率化を推進。既存システムの活用による業務効率化にも取り組んだが、社内サーバーの集約は次年度に持ち越した。働きやすい職場づくりは、衛生委員会を概ね定期的に開催し、職場環境の改善に努めた。会計事務の適切処理においては、経理規程に基づいた適正な事務処理を遂行し、各事業所の予算管理や経費削減を支援した。職員全体研修会においては、法人として初めてパワーハラスメント研修を開催するなど、計画に基づいた研修を実施することができた。

職員の資質向上においては、外部研修への参加や課内会議・研修会を定期的に開催し、総務事務の改善と職員のスキルアップを図ることができた。

全体として、概ね計画通りに事業を推進することができたが、一部課題も残った。次年度は、これらの成果と課題を踏まえ、より質の高い総務サービスの提供と、働きがいのある職場づくりを目指す。

2. 展望（次年度に向けて）

次年度は、基本方針である『良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る』に基づき、重点目標に掲げた「笑顔とやさしさ・思いやりのある心のこもった窓口対応」「DX推進とスタッフの協働・連携による生産性向上とサービスの質向上」「働きやすく働きがいのある職場環境づくり」「健全経営の推進」の実現に向け、以下の項目に重点的に取り組む。

（1）心温まるおもてなしと快適な環境づくり

電話対応・接遇マニュアルの更新と研修を実施し、職員一人ひとりの心温まるおもてなしの向上を目指す。5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）を徹底し、業務効率と安全性の向上を図るとともに、特養さつき苑の正面玄関、大ホールの季節に合わせた質の高いしつらえにより、来訪者や職員に快適な空間を提供する。

（2）DX推進による生産性向上と質の高いサービス提供

既存のシステム（TKC/Iほのぼの）を最大限に活用し、生産性向上を目指したDX化（電子決裁、勤怠管理）を推進する。職員がスムーズに運用できるよう、分かりやすいマニュアル作成と丁寧な相談対応に努める。日用品購入の一元化やペーパーレス化（会議関係書類の電子化、文書保存から電子保存への切り替え）、請求書・領収書の電子化を推進し、業務効率の向上を図る。また、各業務のマニュアル化を進め、業務の標準化と効率化を図る。

（３）働きやすく働きがいのある職場づくり

課内の有給休暇の計画的な取得を推進し、目標取得率 40%を目指す。衛生委員会を定期的に開催し、事故の予防と職場環境の向上を図る。多様な働き方のための制度活用に関する情報発信と相談対応を行い、職員一人ひとりのニーズに合わせた働き方を支援する。大ホールの職員休憩スペースの環境改善・向上を図り、職員がリフレッシュできる空間を提供する。働きがいに関する職員からの意見・要望等を把握し、職場環境改善に繋げる。また、緊急時等における介護現場のサポート体制を整備し、職員間の連携を強化する。

（４）職員の資質向上とチームワークの醸成

総務課全体または個人の目標に合わせた外部研修への参加や他施設見学を推奨し、新たな知識や視点を獲得することで、チームおよび個々の成長を目指す。定期的に課内研修（総務課の仕事の目的・目標の共有、チームワークの向上、伝達研修など）を開催し、職員間のコミュニケーションを促進し、チームワークの向上を図る。

（５）健全な会計事務の推進

経理規程に基づき、適正な事務処理を徹底します。ネット購入、クレジットカード払い、自動引き落としの活用など、効率的な会計事務について積極的に提案・実行を図る。

（６）経営分析に基づいた対策と補助金の活用

定例の課内会議において月次の収支状況を確認し、経営分析に基づいた対策を検討・実施します。補助金等をリスト化し、基本資料の準備と計画的な活用を図る。コストの見える化を推進し、職員のコスト意識向上を目指す。次年度の経営目標として、全事業所事業活動収支差率 10%、経費比率（事務費・事業費）26%以下を目指す。

（７）安心・安全な事業運営のための災害・感染症対策

防災用品・備蓄品・災害機器の完備と定期的な点検を行い、各種災害訓練を計画的に実施する。地域住民・行政等との連携を強化し、実効性のある災害対策組織を構築する。感染症対応事務を適切に推進し、感染症対策物品の確保・整備を行う。BCP に基づいた非常時の訓練を実施し、事業継続体制の強化を図る。

上記の重点目標に基づき、総務課職員一同は、さらなる連携と協力を図りつつ、効率的かつ質の高い業務遂行に努め、法人の安定的な運営と持続的な発展に貢献する。

3. 運営状況

(1) 職員の状況

単位：人

役職・職種 区分		令和6年度 期 首	令和6年度 期 末	増 減
施設長		1	1	0
副施設長(施設長兼務)		(1)	(1)	0
地域密着型サービス事業部長		1	1	0
施設・在宅サービス事業部長		1	1	0
事務員	正 職 員	3	3	0
生活相談員	正 職 員	3	4	1
	パート職員	1	1	0
ケアマジャー	正 職 員	5	6	1
出向ケアマネジャー	正 職 員	1	1	0
計画作成担当者	正 職 員	4	4	0
サービス提供責任者	正 職 員	3	3	0
介護員	正 職 員	59	55	▲4
	パート職員	22	21	▲1
ケアアシスタント	パート職員	5	7	2
ホームヘルパー	正 職 員	2	1	▲1
	パート職員	3	4	1
	登 録	2	1	▲1
看護職員	正 職 員	5	5	0
	嘱 託 職 員	0	1	1
	パート職員	4	5	1
理学療法士	正 職 員	2	2	0
管理栄養士	正 職 員	2	2	0
調理員	正 職 員	1	1	0
	パート職員	14	15	1
運転員	パート職員	2	2	0
用務員	正 職 員	1	1	0
夜間管理当直員	パート職員	7	8	1
嘱託医		1	1	0
合 計		155	157	2

注) 兼務職員については、主たる職務へカウントする。

(2) 賞与支給状況

時 期	支給月数
	正職員
6 月	1.0～1.8
12 月	1.5～2.2
計	2.5～4.0

(3) 寄付金関係

単位：円

区 分	件 数	総 額	摘 要
寄付金	10	370,000	法人・各事業所運営のため

(4) 環境整備・苑内修繕状況(10 万円以上)

単位：円

月	環 境 整 備 ・ 修 繕 名	整備・修繕先	費用	実施施設名
5	エレベーター部品交換、制御盤内ブレーキ・各バッテリー交換	フジテック	121,000	たかほ
	人感センサー取付工事	亀谷電設	209,000	なごみ
7	防災用自家発電装置フィルター修理	ホクレン油機サービス	166,320	なごみ
	ウッドデッキ建替	ゼストシステム	1,050,000	ぬくもりの家えん
8	E 型修理	ホームマック	154,371	デイサービス
9	ナースコール取替	山崎電機	861,300	さつき苑
	非常用電池取替	五光トータル	143,000	なごみ
10	ボイラー部品交換	東和	279,400	さつき苑
	浴室床マット取替工事	盛永組	528,000	さつき苑
	ff 暖房機 メンテナンス整備	東光設備	632,500	たかほ
11	ユニット床貼り修理	インテリアサンワ	196,152	さつき苑
	看板修理	ウッドパーツ	187,000	なごみ
12	屋根修理	盛永組	352,000	なごみ
1	トイレ換気扇ウォッシュレット取替	齋藤工業所	156,200	さつき苑
	ベッド照明取替	山崎電機	412,500	さつき苑
合計			5,448,743	

(5) 苦情・意見に対する改善状況

部 署	受付月	苦情・意見の内容	改善状況
本部・総務課		なし	
特養さつき苑	4 月 9 月 2 月	内出血の報告が面会の直前のタイミングだったため不信感をもった。 おやつ購入の経緯について家族へきちんと伝えられなかったため伝えてほしい。 補聴器が正しく装着されていなかった。また電池がないときもあった。聞こえるよう適切に使用してほしい。	事故状況を速やかに共有し報告する体制へ見直す。 家族状況をふまえ正確な情報を確実にご家族へ伝わるようにする。 装着の状況、聞こえを確認する。
ショートステイ さつき苑		なし	
デイサービス はびねす		なし	
ヘルパーステーション さつき苑	1 月	職員に家族を疑うような言動（態度）があり、気分を害した。また、家族の在宅中にヘルパーの訪問ができないというのはおかしい。	当時の職員の対応について確認し接遇・対応について指導する。 同居家族の訪問対応については改めて説明しご理解いただく。
介護センター さつき苑		なし	
グループホーム なごみの家		なし	
小規模 なごみの家	11 月	デイサービスからサービス移行した後に身体機能が低下した。	ご家族の要望とニーズを正確に把握し状況にあった適切なサービスを提供できるよう情報共有・体制を整える。
特養 ぬくもりの家えん		なし	
小規模 ぬくもりの家えん		なし	
サ高住たかほ		なし	

(6) 総務課外部職員研修

開催年月日	講師	研修会名	参加職員数
11 月 26 日	介護福祉経営士 神内秀之介氏	道北地区老施協事務職員研修会	3
1 月 30 日	特定社会保険労務士 辻田亜 紀子氏	育児・介護休業法説明会	2

(7) 総務課 課内会議・研修

毎月 1 回開催：業務確認等実施

開催年月日	議題	研修
4 月 17 日	・各職員の重点業務・情報共有、改善、提案・行事予定・その他	接遇研修⑨「思いやりを伝える態度・所作」
5 月 15 日	・各職員の重点業務・情報共有、改善、提案・行事予定・その他	モチベーション研修 「自己効力感とスモールステップ」
6 月 19 日	・各職員の重点業務・情報共有、改善、提案・行事予定・その他	
7 月 25 日	・各職員の重点業務・情報共有、改善、提案・行事予定・嵐山神輿渡御について	言葉遣い研修 「相手への思いやりを言葉に」
9 月 20 日	・各職員の重点業務・情報共有、改善、提案・行事予定・物価高騰対策について・BCP 訓練の必要性について・次年度予算の経費実績について・新任職員現場研修について	緊急災害時における本部・総務課の初動訓練① 災害想定停電発生時復旧訓練
10 月 16 日	・各職員の重点業務・情報共有、改善、提案・行事予定・新任職員現場研修報告・令和 6 年度事業計画活動計画中間評価	緊急災害時における本部・総務課の初動訓練② PPE 脱着訓練
3 月 27 日	・各職員の重点業務・情報共有、改善、提案・行事予定・社訓と行動目標について・メール設定について・収支状況の確認と経営分析と対策の検討・令和 7 年度事業計画について	

令和 6 年度 特別養護老人ホーム鷹栖さつき苑・ショートステイさつき苑 事業報告

1. 総括（今年度の取り組みの成果）

令和 6 年度は、新型コロナウイルスおよびノロウイルスによるクラスターの発生により、ショートステイの受け入れ制限や入院者の増加といった影響を受けた。入院者数は 26 名（前年度 14 名）、延べ入院日数は 314 日（前年度 169 日）と、いずれも約 2 倍に増加した。特に、パーキンソン病によるリハビリ目的の長期入院や肺炎の罹患が主要な要因であった。

入居者の平均年齢は 89 歳と、前年度より 1 歳若返ったものの、全体としては重度化が進行している。退去者は 17 名（前年度 9 名）であり、そのうち 14 名（82%）が施設内での看取りケアを受けた。通院件数は 205 件（前年度 179 件）と微増しており、特に歯科、皮膚科、泌尿器科の受診が多く、継続的な通院対応を要した。

事故件数については、昨年度より減少を目指したものの、236 件（前年度 216 件）と 20 件の増加となった。事故の詳細については別添の事故件数報告を参照されたい。中でも、薬剤関連事故は 49 件（前年度 76 件）と減少傾向にあるが、全体の 21%を占めており、依然として注意が必要である。転倒は 26 件（前年度 49 件）、転落は 45 件（前年度 26 件）であり、転落の増加が顕著であった。これらの事故は入居者の生活の質を大きく損なうため、防止策の徹底が急務である。

食事および栄養管理に関しては、「口から美味しく食べる」を基本に、嗜好や食形態、食事量の調整を行い、管理栄養士が日々全体のラウンドと食事介助を実施、多職種と連携して支援体制を強化した。年度末には、委託業者と協働し、タンパク質強化を目的とした新たな献立の導入に着手した。

職場環境においては、働きがいと魅力ある職場づくりを目指し、リフレッシュ休暇を最大 10 連休まで拡大した。しかし、退職者や感染症による勤務制限の影響もあり、全職員の取得には至らなかった。退職者は 6 名（前年度 5 名）で、その内訳は新卒介護職員 1 名、看護師 2 名、転職による退職者 2 名、外国籍職員の帰国 1 名である。新卒者は業務への適応および体力面に課題が見られた。また、転職者については業務の役割、やりがい、夜勤負担、重介護などが離職理由となった。

行事・レクリエーション・面会については、新型コロナウイルス感染症の流行が一段落したことから、前年度に再開した「さつき祭」をさらに拡充し、家族や地域住民との交流の場を創出した。敬老の日の「長寿を祝う会」についても、従来は対象入居者と家族のみの参加であったが、本年度は全入居者を対象とし、共に祝うことができた。

業務効率化の取り組みとしては、定期的なオムツ形態の見直しおよびセンサー付きベッド 10 台の増設を行い、ケアの質向上と職員の負担軽減を図った。

ショートステイ事業については、要介護 3 に該当しない方であっても、一人暮らしや家族不在による昼夜独居状態、また認知症により在宅生活の継続が困難な方、退院後に自宅復帰が難しい方の利用が多かった。定期利用者も増加しており、自宅では把握しにくい排泄状況や夜間の睡眠、栄養状態などが明らかとなり、在宅生活継続や介護負担軽減につながっている。ただし、長期利用者が多く、入居への移行時に空床が発生することから、次の利用者の受け入れに時間を要し、

稼働率低下の要因となった。

事業実績については、特養事業において目標稼働率 98.0%に対し、実績は 96.2%（前年度 98.5%）となり、目標の介護保険収入 228,981,000 円に対し、実績は 226,230,000 円であった。ショートステイ事業においては、目標稼働率 95.0%に対し、実績は 78.2%（前年度 81.8%）と大幅に下回り、介護保険収入は目標 33,894,000 円に対し、実績は 31,214,000 円であった。

2. 展望（次年度に向けて）

令和 7 年度は、「入居者および職員が楽しく過ごす時間をつくる」ことを目標とし、日常の中での楽しみを増やす取り組みを強化する。具体的には、家族との交流や行事、外出の機会を拡充し、入居者の生活の質向上を図る。

設備面では、老朽化した建物・設備の大規模修繕・リノベーションの基本計画を作成するとともに、業務の効率化・負担軽減につながる ICT・介護ロボットを全館全室に導入することを計画化する。また、各職種が専門性を高め、相互に連携することで、職員が誇りとやりがいを持って働ける職場づくりを推進する。これにより、人材の定着と育成を図り、職員が休暇をしっかりと取得しながら、良質高度なケア・サービスを提供できる環境を整えていく。

さらに、支出面においては、電気代や燃料費の高騰が引き続き見込まれるため、必要な節約を徹底し、経費の削減と業務の効率化・適正化に努めていく。

3. 運営状況

（1）事業収入（介護保険収入・介護予防事業委託費）

事業名	目標収入 (A)	実際収入 (B)	達成率 (B)÷(A)×100	前年度収入 (C)	伸長率 (B)÷(C)×100
特別養護老人ホーム事業	228,981千円	226,230千円	98.8%	226,133千円	100.1%
短期入所生活介護事業	33,894千円	31,214千円	92.1%	33,666千円	92.7%

（2）ベッド稼働率

事業名	目標ベッド 稼働率(A)	実際ベッド 稼働率(B)	達成率 (B)÷(A)×100	前年度ベッド 稼働率(C)	伸長率 (B)÷(C)×100
特別養護老人ホーム事業	98.0%	96.2%	98.2%	98.5%	97.7%
短期入所生活介護事業	95.0%	78.2%	82.3%	81.8%	95.6%

（3）特養ホーム月別稼働率

単位：％

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
R6 年度	97.5	99.9	97.5	98.6	98.1	99.9	91.5	92.6	94.9	91.5	93.7	98.6	96.2
R5 年度	99.5	99.4	99.9	99.9	99.9	99.4	100	99.1	96.2	97.1	93.5	97.5	98.5

(4) 短期入所月別稼働率

単位：％

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
R6年度	77.3	81.7	81.3	72.3	71.6	82.3	65.5	89.3	85.5	73.9	73.9	83.2	78.2
R5年度	88.0	91.0	81.3	79.4	86.1	90.3	75.8	88.7	76.8	72.6	71.0	80.3	81.8

(5) 延べ入居者人数

事業名	目標延べ 入居者数(A)	実際延べ 入居者数(B)	達成率 (B)÷(A)×100	前年度実際延べ 入居者数(C)	伸長率 (B)÷(C)×100
特別養護老人ホーム事業	17,885人	17,560人	98.2%	18,114人	96.9%
短期入所生活介護事業	3,468人	2,844人	82.0%	2,977人	95.5%

(6) 特養ホーム新規入居者数

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6年度	2	1	1	1	2	0	2	0	3	1	2	1	16
R5年度	1	0	1	1	0	1	0	1	0	1	1	2	9

(7) 特養ホーム新規入居前居住先

理由/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在宅	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	1	1	5
病院	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	1	0	4
他施設	2	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	5
ショート	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2

(8) 特養ホーム退居者数

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6年度	1	1	2	2	0	0	3	2	2	2	1	1	17
R5年度	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	1	2	9

(9) 特養ホーム退居理由

理由/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
施設内看取り	1	1	1	1	0	0	3	2	2	2	0	1	14
施設内急逝	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
長期入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
入院中死去	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

(10) 短期新入所規利用者数

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6年度	1	0	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	15
R5年度	1	2	0	0	1	0	1	1	0	4	1	3	14

(11) 特養圏域別利用者数（1日現在）

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
鷹栖	48	48	48	48	48	47	47	47	47	47	46	44	47.1
町外	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	2.6

(12) 短期入所圏域別利用者数（月間）

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
鷹栖	14	11	14	14	12	13	11	18	15	15	11	13	13.4
町外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(13) 面会状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
面会者件数	40	25	37	48	73	51	31	68	69	41	28	35	577
面会者延べ 人数(名)	52	32	52	52	99	66	36	85	68	54	41	60	697

※コロナにより面会場所を設けは短時間（15分以内）でしたが、途中からホールでの面会を実施した。

(14) 行事

実施日	行事名	内容
4/30.5/1	お花見ドライブ	午前、午後に分けてバレットヒルズに行き、気分転換を図る。
5/2.3.4	菖蒲湯	こどもの日に向けて実施し、季節を感じていただく。
5/15	北野小学校交流会	4年生とゲームや歌で楽しむ。
7/21	さつき祭	家族との交流。キッチンカーや三味線の出し物で楽しむ。
8/2	焼き肉会	北海道のジンギスカン、焼き鳥を楽しむ。
8/4	御神輿観覧	熱夏フェスタの御神輿を観覧
9/16	敬老の日 (新秋祭)	米寿、長寿のお祝いの方と入居者その家族で実施。 祝膳とデザートを入居者全員に用意する。
11/12.19.26	出前会	それぞれのユニットで各自が食べたいものを楽しむ。
12/24	寿司会	地元のお寿司屋さんのお寿司を楽しむ。
1/1～3	書き初め 福笑い	各ユニットで書き初め、福笑いを実施する。
1/10	新年会	鍋を各ユニットに総務職員も協力し振る舞う。獅子舞と宝引きを各ユニット回り実施。
2/3	節分	職員が鬼になり各ユニットを回る。

3/3	ひな祭り	総務職員がひな人形をホールに飾る。各ユニットで雛人形を折り紙で作成し飾る。
-----	------	---------------------------------------

(15) 諸会議

① リーダー会議

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第1金曜日 16:00～17:30	・利用者の状態把握とケア方針の決定 ・業績の把握と対策 ・業務改善 ・スタッフマネジメント	施設長・部長 主任・各リーダー	11回

② ユニット会議

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月各ユニット 1回 18:00～19:00	・利用者の状態把握とケア対応方針を決定 ・褥瘡ハイリスク者の把握とケア方針の決定 ・食事状況の把握と栄養マネジメント ・抑制廃止とその対策 ・本人、家族からの要望・苦情の把握と対策	部長、主任、栄養士、看護師、リーダー、ユニット職員	10

③ ナース会議

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月1回 月又は木 14:00～15:00	・入退院状況・新規入居、退去者状況の把握 ・褥瘡及びハイリスク者の把握と対策 ・排便コントロール状況と対策 ・向精神薬、眠剤、認知症改善について ・ケース検討、業務改善	全ナース 部長・主任	8

(16) 委員会活動

① 生産性向上推進委員会

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第1金曜日 16:00～17:30	・利用者の安全確保と介護サービスの質の向上 ・職員の負担軽減のための対策検討. ・介護機器の活用方法の見直しや、定期的な点検. ・職員に対する研修の企画・実施.	施設長・部長 主任・各リーダー	11

② 安全対策委員会

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第1金曜日 16:00～17:30	・安全管理対策の構築 ・ヒヤリハット事例の分析 ・再発防止策の検討 ・事故防止に関する研修 ・リスクマネジメント 以上の推進	施設長・部長 主任・各リーダー	11

③身体拘束・虐待防止委員会

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第1木曜日 16:00～17:30	・利用者の安全と人権擁護の観点からの支援実施 ・高齢者虐待の早期発見 ・職員の意識向上、職場環境の見直しと改善 ・虐待の防止と身体拘束防止	施設長・部長 主任・各リーダー	11

(17) 研修

月	会議・研修名	内容	担当
7月	食中毒研修	食中毒の原因、予防、冷蔵庫の掃除など	栄養士
8月	救急救命研修	転倒時の対応	主任
8月	PPE 研修	正しい感染予防衣の装着・物品確認	看護師
9月	ターミナルケア研修	看取りについて	看護師
10月	PPE 研修・感染症対策研修	インフルエンザ、ノロウイルス対応	看護師
11月	ターミナルケア研修	虐待の定義、マニュアルの確認他	相談員
1月	虐待・身体抑制廃止研修	虐待の定義、マニュアルの確認他	相談員
2月	救急救命研修	緊急時の対応	主任
3月	避難訓練（BCP）	避難訓練・避難時の職員対応	全員
8～1月	基礎介護研修	食事ケア、排泄ケア、入浴ケア、移乗ケア、医療、認知症ケア	法人全体

1. 総括(今年度の取り組みの成果)

令和 6 年度は、昨年度からのテーマ「安心して利用できるデイサービスづくり」と「活動の質の向上」に加え、「機能訓練の充実」に新たな重点を置いた。

機能訓練では、レッドコードを新たに導入し、専門的な運動プログラムを展開した。利用者の運動意欲が高まり、参加率が向上した。また、フィジカルチェックと個別のフィードバックを実施し、利用者や家族が身体機能の変化を実感できるようになった。これにより、リハビリのモチベーション向上に繋がった。特に、身体機能の改善が目に見える形で実感され、利用者の自信にもつながった。

環境面では、カフェスペースの整備に着手し、現在は準備段階ながら一部のスペースを活用してお茶の提供や創作活動を行うなど、試験的な運用を開始した。利用者同士が自然と会話を楽しむ姿も見られ、「くつろぎ」と「交流」の場としての可能性が感じられる取り組みとなった。特に、カフェスペースで行う制作レクリエーションでは、手先を使った作業を通じて認知機能の活性化や満足感が得られ、利用者の精神的な充実感を高める効果があった。今後、正式な完成に向けて、さらに整備を進めていく予定である。

午前と午後のレクリエーションは、スタッフ増員により多彩な活動を提供し、スポーツや季節行事、認知症予防を意識した頭の体操など、利用者の「楽しみ」と「挑戦」を支える内容で好評を得た。

年間の利用実績では、上半期は体調不良や天候等で稼働が伸び悩んだが、10 月以降は新規利用者の受け入れが進み、月ごとの利用者数・平均利用者数ともに着実に上昇した。特に 3 月には平均利用者数が 30 名となり、月間延利用者数は過去最高となった。これにより、年間延べ利用者数は前年度比 127%の増加を記録した。

介護保険収入は令和 5 年度 61,357,677 円に対し、令和 6 年度は 74,345,176 円と 12,987,499 円の増収となった。新たな取り組みが功を奏し、成果として表れる形となった。

2. 展望(次年度に向けて)

令和 7 年度は、以下の 3 つの重点項目を軸に、より質の高いサービス提供を目指す。

1. 身体機能のフィードバック強化

新たな評価機器を導入し、身体機能のより精緻な測定・分析を可能とする。これにより、利用者一人ひとりの状態に応じた個別リハビリプログラムの提供が可能となり、機能維持・改善に対するモチベーションの向上を図る。科学的根拠に基づくアプローチで、効果的な支援を実現する。

2. カフェスペースの有効活用

午後のくつろぎの時間にふさわしい空間として、カフェスペースの環境整備をさらに進める。利用者がリラックスし、自分らしい時間を過ごせるような、心地よく安心できる空間づくりを目指す。

3. 持続可能な運営体制の確立

効率的な運営と収支バランスの最適化に取り組み、安定したサービス提供を継続できる体制を構築する。費用管理の徹底と収入確保に努め、長期的な運営基盤を強化する。

さらに、定員を現行の 30 名から 34 名へと増員し、より多くの地域住民に利用してもらえる体制を整える。これにより、利用者の受け入れ体制を拡充し、地域包括ケアの推進及び地域に対する支援の幅をさらに広げていく。

3. 運営状況

(1) 業績

<事業収入>

目標介護保険収入 (A)	実際介護保険収入 (B)	達成率 (B)／(A)×100	前年度 介護保険収入(C)	伸長率 (B)／(C)×100
64,888千円	74,345千円	114.5%	61,358	121.1%

<1日の平均利用者数>

目標 平均利用者数(A)	実際 平均利用者数(B)	達成率 (B)／(A)×100	前年度 平均利用者数(C)	伸長率 (B)／(C)×100
25.5名	29.9名	117.2%	23.5名	127.2%

(2) 月別登録者数

単位：人

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6年度	120	122	120	125	123	117	127	134	134	134	136	140	1,532
R5年度	104	104	103	102	101	97	97	96	101	105	106	112	1,228

(3) 月別延べ利用者数

単位：人

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6年度	767	770	724	742	755	723	819	845	752	714	761	848	9,220
R5年度	573	625	595	625	623	601	619	581	565	552	620	674	7,253

(4) 月別稼働率

単位：%

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
R5年度	76.4	77.2	76.3	80.1	76.9	77.1	79.4	74.5	75.3	76.7	82.7	86.4	78.3
R6年度	98.3	95.1	96.5	91.6	93.2	96.4	101.1	108.3	100.3	99.2	105.7	108.7	99.5

(5) 1日平均利用者数（※午前午後短時間利用者を1名としてカウント）

単位：人

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
R6年度	29.5	28.5	29.0	27.5	28.0	28.9	30.3	32.5	30.1	29.8	31.7	32.6	29.9
R5年度	22.9	23.1	22.9	24.0	23.1	23.1	23.8	22.3	22.6	23.0	24.8	25.9	23.5

(6) 圏域別利用者数

単位：人

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
鷹栖	89	89	91	88	90	88	95	98	94	93	99	100	92.8
旭川	19	23	19	20	24	23	25	30	31	29	29	31	25.3

(7) 新規利用者の紹介先（※直接包括からの利用のみ包括の数字とする）

単位：人

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
町内居宅	6	2	1	2	2	1	4	5	4	1	6	4	38
町内包括	0	0	0	1	1	2	1	2	0	0	0	0	7
町外居宅	3	2	1	1	1	0	3	4	0	0	1	2	18
町外包括	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1	4
合計	9	4	2	4	4	3	9	11	4	2	8	7	67

(8) 要介護度別利用者数

単位：人

介護度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	13	12	13	14	15	13	18	18	16	16	19	21	188
要支援2	26	25	26	25	28	27	29	32	31	32	32	33	346
要介護1	43	47	44	42	41	41	44	47	47	45	47	50	538
要介護2	13	12	12	14	16	15	14	16	16	15	18	16	177
要介護3	8	9	7	6	6	7	8	7	9	9	7	6	89
要介護4	3	5	7	7	7	7	6	7	6	5	5	4	69
要介護5	2	2	1	0	1	1	1	1	0	0	0	1	10
合計	108	112	110	108	114	111	120	128	125	122	128	131	1,417

(9) 利用者年齢構成 (R7. 3. 31 現在)

単位：人

年齢	男性	女性	合計
60以下	0	1	1
61～64	0	0	0
65～69	0	4	4
70～74	2	7	9
75～79	6	6	12
80～84	9	22	31
85～89	11	24	35
90～94	7	28	35
95以上	2	10	12
合計	36	82	139
平均年齢	85.0歳	86.3歳	85.6歳
最低年齢	72歳	57歳	
最高年齢	102歳	100歳	

(10) 事故発生状況

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
転倒	4	0	1	1	2	1	1	3	0	1	3	0	17
転落	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
裂傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
異食・誤食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
打撲	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨折	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
原因不明の傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
爪切り	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
投薬管理ミス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
破損事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

衣服破損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	4	0	1	1	2	2	1	4	0	1	4	0	20

(11) 職員研修

< 苑内研修参加状況 >

日時	研 修 内 容	参加人数
4月15日	虐待予防研修	9名
5月20日	救命救急講習	9名
6月17日	マナーモラル研修、食中毒予防研修、感染症対策研修①	4名
9月5.10日	トランス研修（初級、中級）	5名
10月10.17日	食事ケア研修（初級、中級）	5名
10月28日	感染症対策研修②	8名
11月7.14日	認知症ケア研修（初級、中級）	8名
12月5.12日	医療ケア研修（初級、中級）	5名
1月9.16日	排泄ケア研修（初級、中級）	5名
2月28日	ストレスマネジメント研修	3名
3月12日	パワーハラスメント研修	2名

< 外部研修参加状況 >

日時	研 修 名	参加者
4月20.21日	全国高齢者ケア研究会	藤川・大矢
6月30日	在宅チーム勉強会	谷・藤川・大矢・大河原
7月9日	安全運転管理者研修	谷
10月9日	事業継続相談支援研修	谷・藤川・大矢
10月10.11日	デイサービス相談員研修	谷・大矢・古田
11月5日	事業継続相談支援研修	谷・藤川・大矢
11月16日	多職種協同による自立支援と重度化対応研修	谷・藤川・大矢
11月24日	在宅チーム勉強会	谷・藤川・大矢・大河原
12月10日	事業継続相談支援研修	谷・藤川・大矢
1月8日	事業継続相談支援研修	谷・藤川・大矢
2月7日	事業継続相談支援研修	谷・藤川・大矢
3月6.7日	事業継続相談支援研修	谷・藤川・大矢
3月15日	多職種協同による自立支援と重度化対応研修	谷・藤川・大矢

(12) デイサービスセンター会議実施状況

開催月	内 容	参加人数
4月15日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告・環境改善・事故報告・令和6年度行動計画について・虐待予防研修	8名
5月20日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価・救命救急講習	8名
6月17日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価・食中毒予防研修・感染予防研修・マナーモラル研修	8名
7月22日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・活動計画評価	9名
8月19日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	9名
9月30日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	9名
10月28日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価・感染予防研修	9名
11月25日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	9名
12月16日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	8名
1月27日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	9名
2月17日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	9名
3月25日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	9名

(13) ボランティア受け入れ状況

①ボランティア受入実績

(単位：人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	14
延べ人数	4	4	17	4	4	4	4	4	2	2	2	4	54

②ボランティア協力団体

団体名	活動内容
旭川けん玉サークル	けん玉の体験教室
学習療法サポーター	学習療法指導者
鷹栖混声合唱団	デイサービスでのコンサート

(14) 行事

※毎日イベント開催のため一部抜粋とする

日時	行事名	場所	担当者
4月18日	ハンドメイド	デイホール	岩井
5月2日	花見ツアー	パレットヒルズ	谷
6月19.20日	パークゴルフ大会	デイガーデン	大矢
7月8日	ボッチャ体験会	デイホール	大河原
8月27日	ホタテ祭り (BBQ)	デイガーデン	大矢
9月23日	ミステリーツアー	鷹栖町全域	谷
10月14日	リンゴ狩り	深川市	谷
11月9日	のど自慢予選会観覧	市民文化会館	谷
12月26～30日	季節風呂 (蜜柑風呂)	デイ大浴場	岩井
1月6.7日	新年会	デイホール	大矢
2月3日	節分	デイホール	岩井
3月17～19日	映画鑑賞会	デイ e 型ホール	岩井

4. 苦情の状況

(1) 苦情の内容と対応

受付日	内容	原因	改善状況
10月18日	法人にて米の寄付を利用者様宅にお願いしていた。その依頼文章が威圧的だとの苦情。	お願いの文章が、威圧的に伝わり、寄付が強制のように伝わってしまった。	文章が、威圧的であったことの、謝罪を行う。
11月7日	デイサービスから、小規模多機能へサービスを変えた利用者様より、移行したら身体機能が低下した。	移行の際に、利用者様のニーズの共有が、できていなかった。	移行の際は、事業所間の利用者の、ニーズの共有を行うようにする。

令和6年度 鷹栖町介護センターさつき苑事業報告

1. 総括（今年度の取り組みと成果）

本年度はスタッフの配置転換および増員により、7名体制での運営を展開した。ケアマネジメントにおいては、昨年度同様、1人あたり平均40名（たかほを除く）を担当し、重度化対応、カンファレンス、社内外研修、課内研修を通じて知識と実践力を高めた。

実務面では、健康管理（トータルケア、医療連携、各関係機関との連携強化）およびQOL向上を目的とした「活き活きはびねすプラン」の実施を通じ、地域の利用者に対する支援を推進した。

業績面では、平均登録者数204名で、目標より16名少なく、目標達成には至らなかった。収益面では、達成率88.1%、伸長率105%と前年を上回ったものの、目標には届かなかった。利用者動向においては、新規利用者数100名（前年比+9名）、入院者222名（+12名）、利用停止者54名（-6名）と、新規利用者は増加したが、入院者数の増加が大きく影響した。その一方で、退院支援に力を入れた結果、在宅復帰者は73名（+16名）と大きく伸びた。

目標未達の主因は、1名増員に伴い高めに設定した予算に対し、新規利用者の確保が不十分であったこと、ならびに入院者の増加による稼働率の低下が挙げられる。

地域貢献活動としては、出前講座およびヘルスリテラシー講座を計6回実施し、地域住民に対して介護に関する知識と技術の普及に努めた。また、旭川市立大学よりソーシャルワーク実習の受け入れを行い、Ⅰ区分1名、Ⅱ区分2名の学生を受け入れることができた。

2. 次年度にむけた展望

次年度のケアマネジメントの目標としては、引き続き多職種連携を重視し、ケアの質のさらなる向上を図る。平均登録者数220名の達成を目指し、各地区の地域包括支援センターや病院の地域連携室との関係強化に加え、ケアプランデータ連携システム等のICTツールを活用することで、連携体制の強化と業務の効率化を推進する。

昨年度1名が増員されたことを受け、チームワークのさらなる強化を図る。多様な課題を抱える利用者に対して、迅速かつ円滑な対応を行い、組織全体としての支援力の底上げを目指す。

症例検討では、積極的な事例提供を促進するとともに、外部研修やケアマネジャー同士の意見交換を通じて視野を広げ、実践力の向上を図る。経験豊富なスタッフが在籍している今こそ、基本に立ち返り、アセスメント、課題分析、多職種連携の質を見直し、利用者一人ひとりのニーズに応じた個別対応の強化を進める。ご本人の希望を最大限に尊重しながら、より質の高いサービスの提供を追求する。

地域貢献においては、「活き活きはびねすプラン」の継続実施に加え、地域とのコラボによるカフェ開催や、居宅支援事業所合同研修の主催を予定している。スタッフが主体的に考え、様々な活動を通じて学び、地域とのつながりを深めていくことで、地域に根差した存在としての進化を遂げる。

3. 運営状況

(1) 収益

目標介護保険収入 (A)	実際介護保険収入 (B)	達成率 (B) / (A) ×100	前年度 介護保険収入 (C)	伸長率 (B) / (C) ×100
32,861,000 円	28,937,950 円	88.1%	27,472,930 円	105%

(2) 居宅サービス利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
平成 29 年度	132	139	139	140	137	135	138	141	141	141	132	128	136
平成 30 年度	128	130	130	128	132	132	130	129	132	127	126	118	128
平成 31 年度	128	132	137	142	141	141	142	141	141	139	138	134	138
令和 2 年度	148	152	163	161	170	180	178	172	171	177	184	181	169
令和 3 年度	184	187	183	187	178	181	182	183	185	183	175	180	182
令和 4 年度	190	185	182	188	190	189	198	195	188	185	187	190	188
令和 5 年度	193	198	197	196	189	189	184	184	179	182	177	191	188
令和 6 年度	196	190	197	191	195	206	209	213	209	205	215	214	203

(3) 新規利用者数・停止者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
新規利用者	8	5	5	7	10	8	6	12	5	9	13	12	100
停止者	4	2	3	4	5	2	8	5	7	8	4	2	54

(4) 契約

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
町内地域包括	5	3	3	2	0	7	3	3	2	4	8	9	53
町外地域包括	0	0	0	0	5	3	2	0	1	0	4	0	15
病院地域連携室	0	0	0	3	1	2	2	1	0	0	3	0	12
本人・家族	3	0	0	1	1	4	0	1	0	0	0	0	10
居宅移行	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	1	0	5
法人職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域住民	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
再契約	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
老健施設	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
有料・共生会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2

(5) 解除理由

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
長期入院	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2
介護医療院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
町内入居	2	0	2	0	1	0	4	2	2	2	2	0	16
町外入居	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

老健入所	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
死去	2	2	0	1	3	0	1	1	5	3	2	1	16
在宅ターミナル	1	1	0	1	0	0	1	0	3	2	0	0	9
包括移行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
居宅移行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
自立	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小規模多機能	0	0	1	1	0	2	1	2	1	1	1	0	8

(6) 要介護度分布

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6
要支援 1	9	11	11	13	10	14	13	18	28	32	31	29	34
要支援 2	12	11	9	9	11	15	18	19	27	34	28	32	42
要介護 1	45	52	57	43	48	53	55	57	59	53	75	70	63
要介護 2	24	23	22	32	32	25	22	22	32	32	24	24	30
要介護 3	9	10	10	5	7	8	9	7	9	11	11	16	18
要介護 4	9	9	7	6	8	7	5	6	8	13	13	9	11
要介護 5	3	6	9	8	7	6	9	6	5	4	8	7	5
合計	111	122	125	116	123	128	131	135	168	179	190	187	203

※人数は、各年度の平均人数

(7) 圏域別利用者数（令和 6 年 3 月）

圏域	人数
春光・春光台	30
末広・東鷹栖	10
北星・旭星	4
新旭川・永山南	2
合計	46

(8) サービス種類別利用者人数（令和 6 年 3 月）

利用サービス	人数
訪問介護 介護 42 支援 12	54
訪問看護 介護 16 支援 3	19
通所介護 介護 67 支援 50	117
通所リハビリ 介護 14 支援 4	18
福祉用具貸与 介護 89 支援 49	138
訪問リハビリ 介護 24 支援 8	32
短期入所者生活介護 介護 12 支援 1	13
訪問入浴 介護 2	2
合計	393

(9) 苑内・苑外研修参加状況

① 苑内研修

月 日	内 容	講師等	参加者
6 月 30 日	在宅ケアチーム勉強会	高齢者ケア研修会	5
9 月 20 日	セルフマネジメント研修	施設長	1
9 月 5・12 日	基礎介護力研修初級（トランスファー）	大矢・大河原	5
10 月 10・17 日	基礎介護力研修初級・中級（食事）	能登	5
11 月 9・16 日	基礎介護力研修初級・中級（排泄）	室橋	5
11 月 7・14 日	基礎介護力研修初級・中級・（認知症ケア）	松原・佐々木	5
11 月 24 日	在宅ケアチーム勉強会	高齢者ケア研修会	5
12 月 5・12 日	基礎介護力研修初級・中級・（医療）	谷水・藤川	5
2 月 28 日	セルフケア研修	社会保険労務士倉雅彦氏	2
3 月 9 日	在宅ケアチーム勉強会	高齢者ケア研修会	5
3 月 12 日	ハラスメント研修	社会保険労務士倉雅彦氏	1

② 苑外研修

月 日	内 容	主催	参加者
5 月 23 日	鷹栖町基幹相談支援勉強会	鷹栖町役場健康福祉課	5
7 月 19 日	つながらん会～多職種連携～	旭川市包括・旭川医療センター	2
8 月 3 日	主任CMフォローアップ研修	北海道総合研究調査会	1
8 月 27 日	鷹栖町基幹相談支援勉強会	鷹栖町役場健康福祉課	5
9 月 13 日	大人の学び場講座・男性介護者カフェ	鷹栖町社会福祉協議会	3
9 月 21 日	人生会議市民講座	旭川医科大学病院	1
10 月 10 日	居宅合同研修	誠徳園・介護センター	6
10 月 16 日	マルベリー福祉用具展示会	マルベリーさわやかセンター	6
10 月 20 日	人生会議市民講座	旭川市	1
11 月 2 日	動機付け面接ワークショップ	医療SW協会	1
11 月 29 日	つながらん会～多職種連携～	旭川市包括・旭川医療センター	2
12 月 6 日	鷹栖町基幹相談支援勉強会	鷹栖町役場健康福祉課	5
1 月 8 日	主任介護支援専門員研修	北海道総合研究調査会	1
2 月 7 日	訪問診療と在宅看取りの実際	鷹栖町	5
2 月 17 日	旭川居宅連協研修・行政説明	旭川市・旭川居宅連絡協議会	2
2 月 18 日	鷹栖町基幹相談支援勉強会	鷹栖町役場健康福祉課	5
3 月 4 日	緩和ケア研修	旭川医科大学病院	1
3 月 12 日	ケアプランデータ連携研修	厚生労働省	2
3 月 14 日	神経難病研修	理学療法士会・医師会	3

(10) ケアマネ会議内容

月 日	内 容
4 月 2 日	活動計画確認 情報共有
4 月 9 日	ケアマネジメント研修 ～成年後見人制度～
4 月 16 日	事例検討
4 月 23 日	ミーティング
5 月 7 日	活動計画確認 情報共有
5 月 14 日	ケアマネジメントに関する研修 ～災害対策～
5 月 21 日	事例検討
5 月 28 日	ミーティング

6月4日	活動計画確認 情報共有
6月11日	ケアマネジメント研修 ～ケアプラン作成～
6月18日	事例検討
6月25日	ミーティング
7月2日	活動計画確認 情報共有
7月9日	事例検討
7月16日	ケアマネジメントに関する研修
7月23日	ミーティング
7月30日	ケアマネジメントに関する研修
8月8日	活動計画、情報提供
8月16日	ケアマネジメント研修～ハラスメント～
8月19日	事例検討
9月3日	活動計画確認 情報共有
9月10日	ケアマネジメント研修
9月17日	事例検討
9月24日	ミーティング
10月1日	活動計画確認 情報共有
10月8日	事例検討
10月15日	感染症研修
10月22日	ミーティング
10月29日	B C P研修
11月5日	活動計画確認 情報共有
11月12日	P P E研修
12月3日	活動計画確認 情報共有
12月10日	ケアマネジメント研修 ～介護保険法～
12月17日	事例検討
12月24日	ミーティング
1月7日	活動計画確認 情報共有
1月14日	ケアマネジメント研修 ～アセスメント～
1月21日	事例検討
1月28日	ミーティング
2月4日	活動計画、情報共有
2月11日	ケアマネジメント研修 ～スーパービジョン～
2月18日	情報共有・研修報告
2月25日	ミーティング
3月5日	活動計画確認 情報共有
3月11日	事業計画
3月18日	事例検討
3月25日	ミーティング

(11) 出前講座

月 日	内 容	講 師
4月～3月	ヘルスリテラシー講座～ACP～10回	佐々木
6月25日	認知症サポーター養成講座 鷹栖高校	山本
8月7日	15町内会様 ACP	佐々木
9月19日	ななかまど大学OB ACP	佐々木

10 月 17 日	ななかまど大学OB グループディスカッション	佐々木
11 月 18 日	認知症サポーター養成講座 地域住民	佐藤
3 月 12 日	介護の入門的研修 鷹栖高校	山本（裕）

令和6年度 多機能型グループホーム鷹栖なごみの家事業報告

1. 総括

令和6年度も昨年度に引き続き、以下の4つを重点目標として取り組んだ。①「知識・技術の専門性を高め、安全で根拠に基づく介護サービスの提供」。②「主体性を持って介護過程を展開し、利用者の満足度を高める」。③「職員のチームワークを高め、やりがいと働きがいのある職場づくり」。④「業務の標準化・見える化・効率化を図り、適正利益を確保する」。

(1) 知識・技術の専門性を高め、安全で根拠に基づく介護サービスの提供

毎月のカンファレンスを通じてケアの見直しと統一を図るとともに、困難ケースへの対応にも取り組み、状態悪化の予防に努めた。事故件数は分析と再発防止策の強化により、前年度比で20件の減少となった。

食事面では、ソフト食の提供や栄養補助食品の併用、ミキサー食の導入など、個別の状態に応じた食事形態を早期に見極めることで、嚥下・咀嚼が困難な入居者の食事摂取量を安定的に確保できた。

疾病管理については、既往歴再発による入院1名、誤嚥性肺炎による入院3名を確認。日常的な体調管理と医療機関との連携により早期対応に努めたが、入院日数は前年度より95日増加し106日となった。

感染症対策では、新型コロナウイルス対策を継続強化し、基本的な手洗い・うがい、日常的な設備の消毒、換気の徹底に加え、防護服の着脱訓練を毎月実施した。職員の私生活における感染予防意識の徹底も図った結果、感染症・集団感染ともにゼロを達成した。

非常災害対応に関しては、業務継続計画（BCP）の目的を再確認し、災害を想定した訓練を実施した。

(2) 主体性を持って介護過程を展開し、利用者の満足度を高める

介護過程（アセスメント、計画、実施、評価）の展開に力を入れて4年目となる。個別ニーズに基づくケア計画の実施により、ADLの維持やQOLの向上を図り、利用者の満足度向上に寄与した。

(3) 職員のチームワークを高め、やりがいと働きがいのある職場づくり

定期的な面談により不安や悩みの軽減を図ったが、退職者1名が発生した。有給休暇については取得日数にばらつきが見られたものの、全職員が5日以上を取得し、常勤職員全員が8日間の連続休暇を取得することができた。

介護ロボット（Hug）、見守りセンサー、介護ソフト（ほのぼのNEXT）を積極的に活用し、ケアの質向上と業務負担の軽減を推進した。また、常勤職員を対象にユニット間の勤務（夜勤除く）を行い、チームワークの強化と業務の効率化を図った。

(4) 業務の標準化・見える化・効率化を図り、適正利益を確保する

業務効率化の一環として、可能な業務は介護ソフトへ移行し、マニュアルやオペレーションシートの見直しにより業務分担を明確化した。これにより効率化が進んだ。

利益面では、入院による空床延べ日数が 106 日、退居から新規入居までの空床延べ日数が 141 日となり、年間平均稼働率は 95.5%と、目標の 98%を下回った。これは、退居後の迅速な新規入居対応ができなかったことが主な要因である。

2. 次年度に向けての展望

令和 7 年度も引き続き、以下の重点目標を掲げて具体的な計画に基づいた取り組みを推進する。①「専門的な知識・技術を活かし、安全で根拠に基づく介護サービスの提供」。②「自主性をもって介護過程を展開し、利用者の満足度を高める」。③「職員のチームワークを向上させ、やりがいと働きがいのある職場をつくる」。④「業務の標準化・見える化・効率化を図り、適正利益を確保する」。

ケアについては、ダブルチェックとカンファレンスを基本に据え、重度化する入居者への対応力を高める。ICT・IOT の活用を一層推進し、ケアの質向上と業務負担の軽減、業務効率のさらなる向上を図る。

介護過程の展開においては、自主性をもって取り組み、ADL の維持・QOL の向上を目指す。外出機会の確保や家族との交流を積極的に取り入れ、潤いのある生活環境の提供を目指す。

連続休暇（8 日間）の取得を維持し、常勤職員については夜間勤務も含めたユニット間の勤務を導入することで、チームワークの強化を図る。全事業所共通目標である「自ら学び・自ら考え・自ら動く」を職員一人ひとりが実践し、やりがいと働きがいのある職場づくりを進める。

経営面では、退居から新規入居までの空床期間を 7 日以内、入院延べ日数を 30 日以内に抑え、目標稼働率 98%（目標介護保険収入：89,455,247 円）を達成し、適正な利益の確保を目指す。

3. 業績報告

(1) 事業収入（介護保険収入）

事業名	目標収入 (A)	実際収入 (B)	達成率 (B)÷(A)×100	前年度収入 (C)	伸長率 (B)÷(C)×100
グループホーム事業	90,261千円	89,030千円	98.6%	93,082千円	95.6%

(2) ベッド稼働率

事業名	目標ベッド 稼働率(A)	実際ベッド 稼働率(B)	達成率 (B)÷(A)×100	前年度ベッド 稼働率(C)	伸長率 (B)÷(C)×100
グループホーム事業	98.0%	95.5%	97.4%	99.7%	95.7%

(3) 月別稼働率

単位：％

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
R6年度	100.％	95.3％	92.0％	93.4％	85.3％	86.1％	93.9％	100.％	99.8％	99.8％	100.％	100.％	95.5％
R5年度	100.％	99.6％	100.％	100.％	100.％	99.1％	100.％	99.3％	98.0％	100.％	100.％	100.％	99.7％

(4) 延べ入居者人数

事業名	目標延べ 入居者数(A)	実際延べ 入居者数(B)	達成率 (B)÷(A)×100	前年度実際延べ 入居者数(C)	伸長率 (B)÷(C)×100
グループホーム事業	6,570人	6,271人	95.4%	6,566人	95.5%

(5) 新規入居者数

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6年度	0	1	1	0	0	3	2	0	0	0	0	0	7
R5年度	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3

(6) 新規入居前居住先

理由/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在宅	0	1	1	0	0	3	2	0	0	0	0	0	7
病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
老健	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(7) 退居者数

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6年度	1	1	0	1	3	1	0	0	0	0	0	0	7
R5年度	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	3

(8) 退居理由

理由/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
施設内看取り	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3
長期入院	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	3
入院中死去	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

4. 運営状況

(1) 面会状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
面会者 実件数	53	41	30	43	30	19	22	26	17	18	18	30	347
面会者延べ 人数	65	43	31	48	38	29	27	37	19	21	22	38	418

(2) 諸会議

①リーダー会議

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第1木曜日 10:00～12:00	1) サービスの質の向上 2) 課題解決と業務改善 3) 業績と運営状況 4) リーダーの育成・連携強化 5) 情報共有	施設長 部長 課長 主任 リーダー	12回

②グループホーム会議

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第3火曜日 17:30～19:00	1) サービスの質の向上 2) 業務の質向上と効率化 3) 組織方針・理念の共有と浸透 4) 情報の共有と透明性の確保 5) 円滑な意思決定の推進 6) 職員の声を反映する場の提供	課長 主任 リーダー 介護職員	12回

(3) 委員会活動

① 身体拘束・虐待防止委員会

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第3火曜日 会議内にて実施	1) 身体拘束および虐待の防止 2) 職員の倫理意識と専門性の向上 3) 具体的事例の検討と助言 4) 利用者・家族の声を尊重する体制づくり 5) 外部機関との連携強化	課長 主任 リーダー 介護職員	12回

②生産性向上推進委員会

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第3火曜日 会議内にて実施	1) 限られた人材と資源の活用 2) 業務の「ムリ・ムダ・ムラ」の削減 3) ICT・介護ロボットの導入と定着支援 4) 職員の意識改革・主体性の向上 5) 利用者満足度とサービスの質の向上	課長 主任 リーダー 介護職員	12回

(4) 環境整備他

日 時	内 容	ユニット	業 者
4月上旬	上腕式血圧計・非接触体温計	和・洋	(株) SHINKO
4月上旬	ほのぼのシリーズソフトウェア一式	和・洋	(株) SHINKO
4月中旬	車イス用体重計	和・洋兼用	合同会社セカンドライフ
4月中旬	人感センサー取付け工事	和・洋	(株) 亀谷電設
4月中旬	単機能レンジ	和	(株) ヤマダデンキ
4月下旬	デジタルカメラ	和・洋	(株) ヤマダデンキ
4月下旬	炊飯器	洋	(株) ヤマダデンキ
4月下旬	スリーカーホン マイクスピーカー	全体	Amazon
4月下旬	ワイヤレステレビドアホン	和・洋	ヨドバシ
4月下旬	調理器具 (デジタル中心温度計)	和	(株) フジマック
4月下旬	食洗器部品交換	洋	パナソニックマーケティング
5月下旬	エアコン清掃	和・洋	旭川ヒューマンサービスセンター
6月上旬	小シンク混合水栓取替	和	(株) 齋藤工業所
6月中旬	低床テーブル	和	アイリスチトセ(株)
6月中旬	ソファ	和・洋	アイリスチトセ(株)
7月中旬	火災通報装置電池取替	洋	五光トータル防災
8月上旬	床暖系統空気抜き弁取替	洋	大洋設備(株)
8月中旬	移乗サポートロボット Hug バッテリー	和	(株) マルベリー
9月上旬	清掃床ワックス塗布	和・洋	旭川ヒューマンサービスセンター
9月中旬	看板修繕	和・洋	(株) ウッドパーツ
9月中旬	散水栓修理	和	(株) 齋藤工業所
9月中旬	灯油タンク洗浄	全体	澤井石油商事(株)
10月上旬	非常灯電池取替	全体	五光トータル防災
10月上旬	衣類乾燥機	洋	(株) ヤマダデンキ
10月下旬	洗濯機	和	(株) ヤマダデンキ

1 1月下旬	マジックブレット	和・洋	(株) ヤマダデンキ
1 2月下旬	オープンレンジ	洋	(株) ヤマダデンキ
1 月下旬	加湿器部品	和・洋	(株) ヤマダデンキ
1 月中旬	定量止水付水栓修理	洋	(株) 齋藤工業所

(5) ボランティア状況

家族ボランティアのみ受入

(6) 行事活動状況

日 時	行 事 名	場 所
5月3～5日	菖蒲湯	なごみの家
5月7日 5月8日	お花見ドライブ	パレットヒルズ
5月29日	なごみの家 20 周年式典	なごみの家
7月21日	さつき祭	さつき苑
8月29日	夏祭り	なごみの家
10月16日	紅葉狩り	パレットヒルズ 丸山貯水池
12月20～ 22日	ゆず湯	なごみの家
12月25日	クリスマス会	なごみの家
12月28日	忘年会	なごみの家
2月2日	節分	なごみの家
3月3日	ひな祭り	なごみの家

令和 6 年度
多機能型グループホーム鷹栖なごみの家
現況報告書

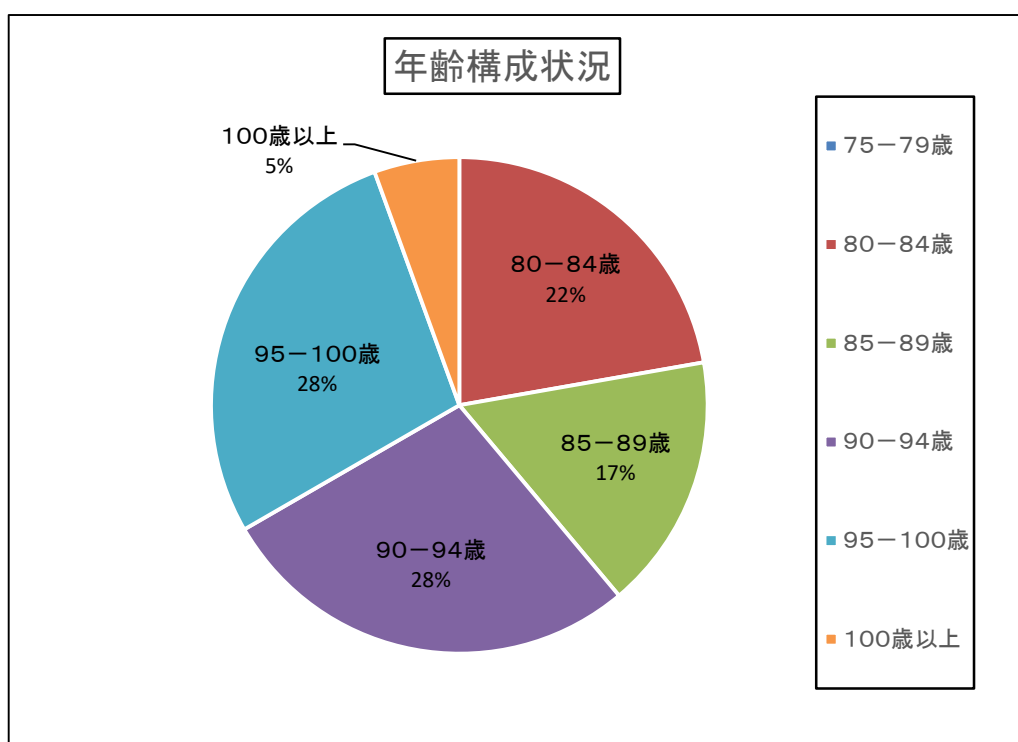
(自：令和 6 年 4 月 1 日 ～ 至：令和 7 年 3 月 3 1 日)

1 入退所状況

入所者数	退所者数	退所理由	在籍者数	男 性	女 性
7	7	老衰のためご逝去(3名) 長期入院のため退所 (4名)	18	4	14

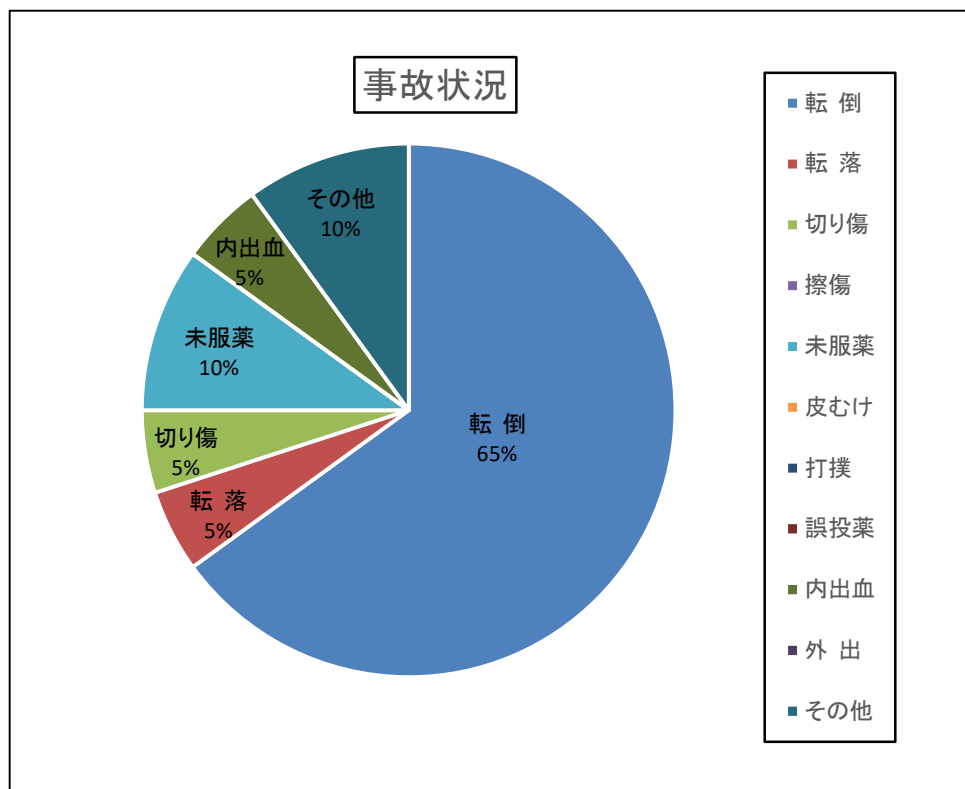
2 年齢別

	男 性	女 性	合 計
75－79歳	0	0	0
80－84歳	1	3	4
85－89歳	2	1	3
90－94歳	0	5	5
95－100歳	1	4	5
100歳以上	0	1	1
合 計	4	14	18
平均年齢	88	91.4	89.7
最高年齢	95	101	
最低年齢	84	80	



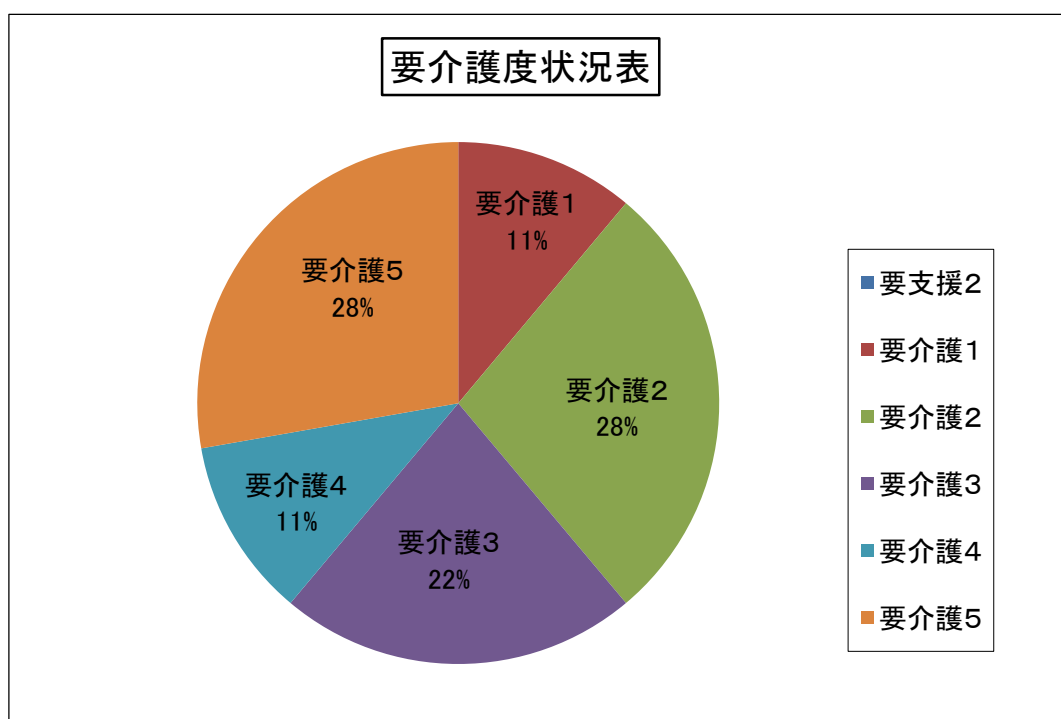
3 事故状況

	洋	和	合計
転 倒	4	9	13
転 落	0	1	1
切り傷	0	1	1
擦傷	0	0	0
未服薬	1	1	2
皮むけ	0	0	0
打撲	0	0	0
誤投薬	0	0	0
内出血	1	0	1
外 出	0	0	0
その他	0	2	2
合 計	6	14	20



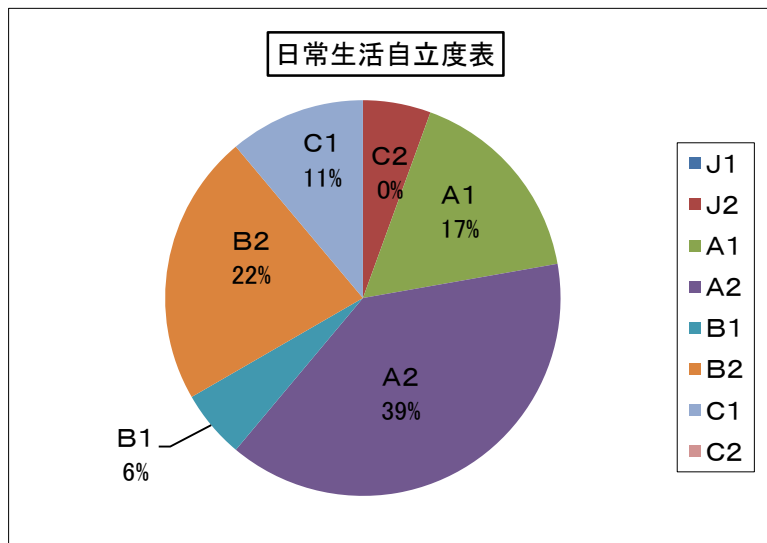
4 要介護度別

	男性	女性	合計	構成比
要支援2	0	0	0	0%
要介護1	0	2	2	11%
要介護2	1	4	5	28%
要介護3	0	4	4	22%
要介護4	1	1	2	11%
要介護5	2	3	5	28%
合 計	4	14	18	100%



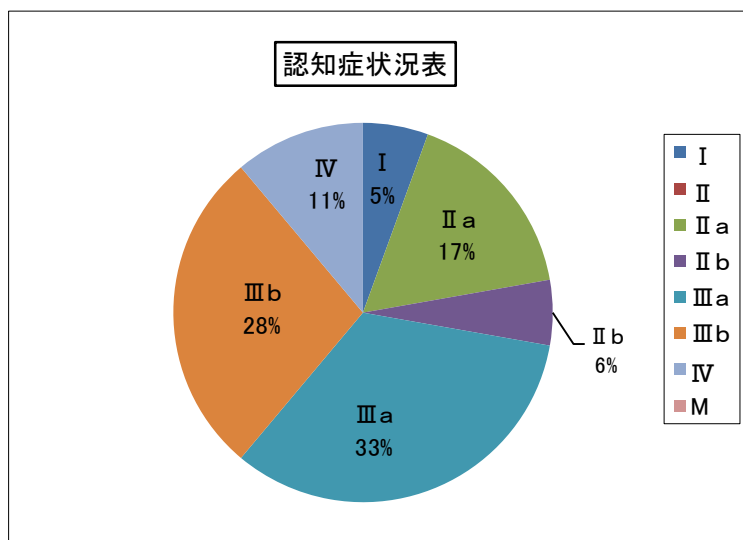
5 日常生活自立度

	洋	和	合計	構成比
J1	0	0	0	0%
J2	0	1	1	6%
A1	2	1	3	17%
A2	4	3	7	39%
B1	0	1	1	6%
B2	3	1	4	22%
C1	0	2	2	11%
C2	0	0	0	0%



6 認知症状況

	洋	和	合計	構成比
I	0	1	1	6%
II	0	0	0	0%
II a	3	0	3	17%
II b	0	1	1	6%
III a	2	4	6	35%
III b	3	2	5	29%
IV	1	1	2	12%
M	0	0	0	0%

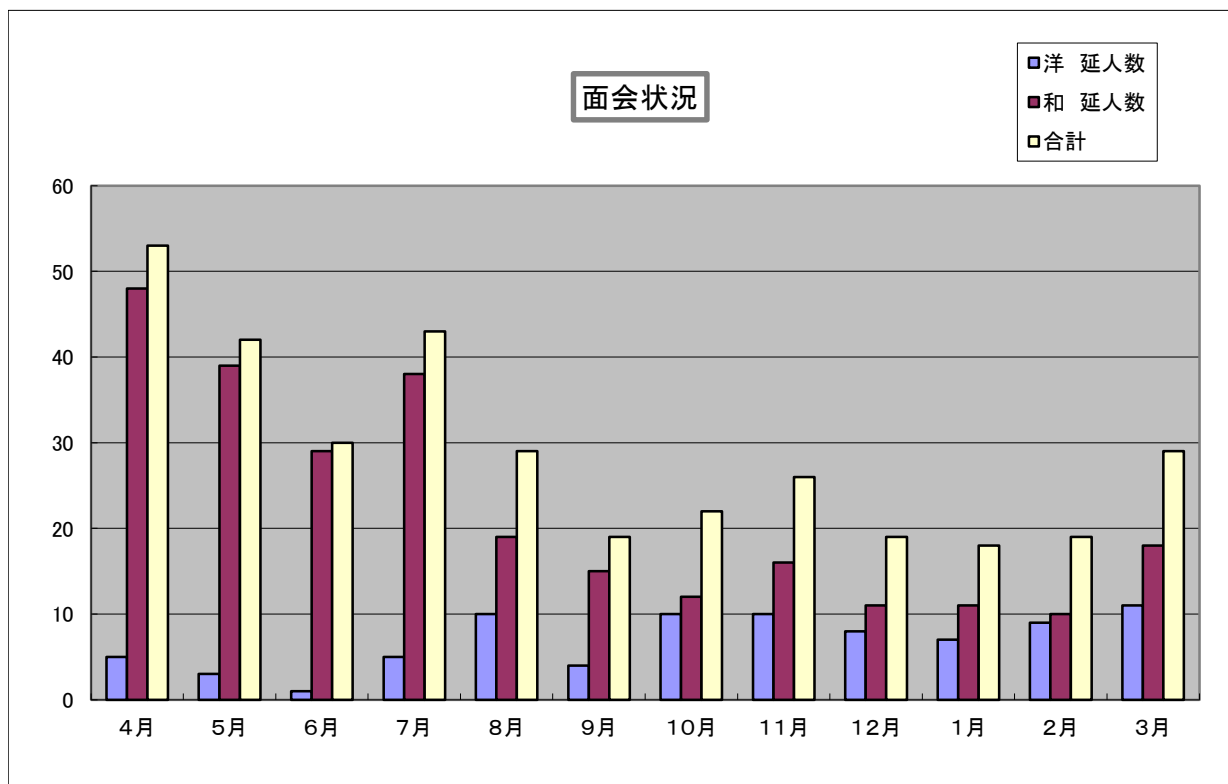


7 入院状況

	実人数	延日数
整形外科系	0	0
精神科系	1	0
内科系	1	61
消化器系	0	0
脳神経系	2	45
合計	4	106

8 面会状況

	洋 延人数	和 延人数	合計
4月	5	48	53
5月	3	39	42
6月	1	29	30
7月	5	38	43
8月	10	19	29
9月	4	15	19
10月	10	12	22
11月	10	16	26
12月	8	11	19
1月	7	11	18
2月	9	10	19
3月	11	18	29
合計	43	266	349



令和 6 年度 小規模多機能ホーム鷹栖なごみの家事業報告

1. 総括

令和 6 年度は昨年同様、(1) 知識・技術の専門性の向上を図り安全で根拠に基づく介護サービスの提供、(2) 主体性を持って介護過程を展開し利用者の満足度を高める、(3) 職員のチームワークが向上しやりがいと働きがいのある職場をつくる、(4) 業務の標準化・見える化・効率化を図り、適正利益を確保する、の 4 つの重点目標を掲げ、事業運営に取り組んだ。

(1) 「知識・技術の専門性の向上を図り安全で根拠に基づくサービスの提供」

毎月の小規模会議、リーダー会議、定期的な在宅勉強会においてカンファレンスを実施し、ケアの見直しと改善を図った。統一したケアを実践するため、職員間の情報共有にも努めた。困難ケースについては随時ケースカンファレンスを実施し、ケア方針を多職種で協議したうえで、状態の維持・向上に努めるとともに、家族への報告・助言・協力依頼を行った。

事故件数は 4 件で、昨年度より 2 件減少したものの、薬に関する事故が前年と同様に 2 件発生し、完全な再発防止には至らなかった。

食事に関しては、出前や外食など選択肢を楽しめる取り組みは未実施であったが、嗜好を反映した季節感ある食事や、見た目にも楽しめるおやつを提供に努めた。

感染症対策については、手洗い・うがいの徹底、室温・湿度管理、換気、消毒の励行、ご利用者やご家族の協力を得たうえで、送迎時の健康観察記録や車両・物品の消毒を継続した。しかし、上期に新型コロナウイルスによる集団感染が発生した。

疾病管理においては、健康状態の把握や医療機関との連携に努めたが、長期入院等により登録終了者が 4 名となった。昨年度と比較し 2 名の減少ではあったものの、情報収集や対応の質は十分であったとは言えない。

(2) 「主体性を持って介護過程を展開し利用者の満足度を高める」

利用者の ADL や QOL の向上に向けた介護過程の展開においては、計画・実施を行えた職員もいたが、内容が抽象的で評価につながらないケースが多かった。全職員による取り組みには至らず、課題が残る結果となった。

学習療法は昨年度の 3 名に対し、本年度は目標である 5 名に実施できた。学習療法サポーターの協力は引き続き得られなかったが、職員のみで支援を行った。

アクティビティについては、感染予防に配慮しながら少人数での外出行事を実施した。ドライブ、変わり湯、ペーパークラフト等の製作活動も継続し、利用者の満足度向上に寄与した。一方で、大型行事は感染対策を優先した結果、実施には至らなかった。

(3) 「職員のチームワークが向上しやりがいと働きがいのある職場をつくる」

退職者ゼロを目指し、定期的な面談を継続して職員の不安の解消や目標設定に努め、

目標を達成した。常勤職員は全員が 8 日間の連続休暇を取得し、リフレッシュにつながった。また、非常勤職員も含め、有給休暇の 5 日以上取得を実現した。

チーム目標を「楽しみのある生活」と定め、利用者・職員ともに日々のレクリエーションや行事に楽しんで参加できるよう、チームで取り組んだ。

(4)「業務の標準化・見える化・効率化を図り適正利益を確保する」

ケアアシスタントの増員により、間接業務の分担が可能となった。業務内容についても会議で見直し・検討・改善を行い、業務日誌への記録を通じて業務の振り分けと効率化を図った。

今年度の新規登録者は 10 名、登録終了者は 11 名（うち長期入院 4 名、特養入所 4 名、グループホーム入所 3 名）であり、平均登録者数は 19.7 名にとどまった。目標登録人数には届かず、介護保険収入も大きく目標を下回った。

2. 次年度に向けての展望

令和 7 年度は、今年度実施することができなかった活動内容を、確実に実施できるよう、より具体的に生活の中での楽しみづくりにつながる計画を立て取り組む。

働きやすい職場づくりのため、生産性向上を意識した取り組みを行い、ケアの質の向上・業務の効率化を図り、昨年同様リフレッシュ休暇（8 連休）の取得を継続する。

『自ら学び・自ら考え・自ら動く』を職場目標にかかげ「介護過程の展開」を職員一人ひとりが根拠に基づき、「計画・実践・評価」まで自ら進んで取り組み、職員・利用者共に、楽しみ・やりがい・達成感を感じられる暮らしづくりに取り組む。

また、利用者の在宅生活ができる限り継続できるよう、生活状況・身体状況の確認をはじめ、介護者の介護力の把握と介護力向上のための助言・指導を行う。多職種協働での健康状態の把握・悪化の予測をし、医療連携を密に行うことで入院による登録終了者を減らし、平均登録者数 24 名を目標に掲げ、適正利益の確保を図る。

地域の中での小規模多機能居宅介護の在り方、役割を踏まえ地域で必要とされる拠点を目指す。

3. 運営状況

(1) 事業収入

目標介護保険収入 (A)	実際介護保険収入 (B)	達成率 $(B)/(A) \times 100$	前年度 介護保険収入(C)	伸長率 $(B)/(C) \times 100$
66,431 千円	60,948 千円	91.7%	59,228 千円	102.8%

(2) 平均登録者数

目標 平均登録者数(A)	実際 平均登録者数(B)	達成率 $(B)/(A) \times 100$	前年度 平均登録者数(C)	伸長率 $(B)/(C) \times 100$
24 名	19.8 名	82.5%	20.6 名	96.1%

(3) 月別登録者数

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
R6年度	21	21	20	21	20	19	20	17	18	20	20	20	19.8
R5年度	21	21	21	20	19	20	18	18	21	24	23	21	20.6

(4) 新規利用者の紹介先（※直接包括からの利用のみ包括の数字とする）

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
町内居宅	0	0	0	1	0	1	1	1	1	2	1	1	0.8
町内包括	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
町外医療機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
合 計	0	0	0	2	0	1	1	1	1	2	1	1	0.8

(5) 停止者数

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6年度	0	1	1	0	1	2	0	3	1	0	1	0	10
R5年度	1	1	1	1	1	2	1	1	0	3	2	0	14

(6) 停止理由

理由/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在宅看取り	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
介護施設入居	0	1	1	0	0	2	0	2	0	0	1	0	7
有料入居	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長期入院	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	3
入院中死去	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(7) 要介護度別利用者数

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
要支援1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護1	8	8	8	11	10	10	9	9	9	11	12	10	9.6
要介護2	4	4	4	4	4	4	5	5	4	3	4	6	4.3
要介護3	6	6	5	3	5	4	4	4	3	2	3	3	4.0
要介護4	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	0	0.8
要介護5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
合計	21	21	20	21	21	20	20	20	17	18	21	20	19.8

(8) 諸会議

①リーダー会議

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第1木曜日 10:00～12:00	1) サービスの質の向上 2) 課題解決と業務改善 3) 業績と運営状況 4) リーダーの育成・連携強化 5) 情報共有	施設長 部長 課長 主任 リーダー	12回

②小規模会議

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第3火曜日 17:30～19:30	1) サービスの質の向上 2) 業務の質向上と効率化 3) 組織方針・理念の共有と浸透 4) 情報の共有と透明性の確保 5) 円滑な意思決定の推進 6) 職員の声を反映する場の提供	課長 主任 リーダー 介護職員	12回

(9) 委員会活動

①生産性向上推進委員会

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第3火曜日 会議内にて	1) 限られた人材と資源の確保 2) 業務の「ムリ・ムダ・ムラ」の削減 3) ICT・介護ロボットの導入と定着支援 4) 職員の意識改革・主体性の向上 5) ご利用者満足度とサービスの質の向上	課長 主任 リーダー 介護職員	12回

②身体拘束・虐待防止委員会

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第3火曜日 会議内にて	1) 身体拘束および虐待の防止 2) 職員の倫理意識と専門性の向上 3) 具体的事例の検討と助言 4) 利用者・家族の声を尊重する体制づくり 5) 外部機関との連携強化	課長 主任 リーダー 介護職員	12回

(10) 事故状況

月 日	内 容	結 果
4月 2日	誤投薬（79才・女性）	特変なし
5月29日	転倒（90才・女性）	嘔吐、「頭を打った」と話され、緊急外来受診。検査結果、異常なし
8月 2日	転倒（91才・女性）	特変なし

1 1月23日	転倒（90才・女性）	右額にぶつけた傷あり、その後異常なし
3月10日	未服薬（79才・女性）	特変なし
3月28日	転倒（87才・男性）	特変なし

(11) 行事活動報告

日 時	行 事 名	場 所
4月24日 ～5月3日	桜湯	なごみの家
4月29日	花見・ドライブ	花咲公園 護国神社
5月2日	花見・ドライブ	パレットヒルズ
5月3日	花見・ドライブ	鷹栖神社 療育園
5月3日～4日	外注おやつ	なごみの家
5月4日	ドライブ	鷹栖町内（北野地区）
5月4日～6日	菖蒲湯	なごみの家
6月27日～30日	バラ湯	なごみの家
7月25日～31日	ラベンダー湯	なごみの家
8月6日	熱夏フェスタ（御神輿見学）	なごみの家
8月24日～27日	ミント湯	なごみの家
9月16日～17日	外注おやつ	なごみの家
9月18日	阿久津様米寿＋敬老写真	なごみの家
10月23日～26 日	りんご湯	なごみの家
10月26日	外出（カフェ）	Café いちやりば
10月27日	外出（カフェ）	Café いちやりば
10月31日	外出（カフェ）	Café いちやりば
11月1日	外出（カフェ）	Café いちやりば
11月2日	外出（カフェ）	Café いちやりば
11月8日	外出（カフェ）	Café いちやりば
11月20日～23 日	みかん湯	なごみの家
11月28日	出 前	なごみの家
12月22日～26 日	柚子湯	なごみの家
12月23日～24 日	クリスマス（ケーキ）	なごみの家
12月26日	忘年会	なごみの家

12月27日～31日	ご当地温泉の湯	なごみの家
1月15日～21日	変わり湯（大人のバスクリン）	なごみの家
1月25日	中華まんの日	なごみの家
2月3日	節分 豆まき	なごみの家
2月26日～29日	ばら湯	なごみの家
3月22日～28日	金木犀の湯	なごみの家

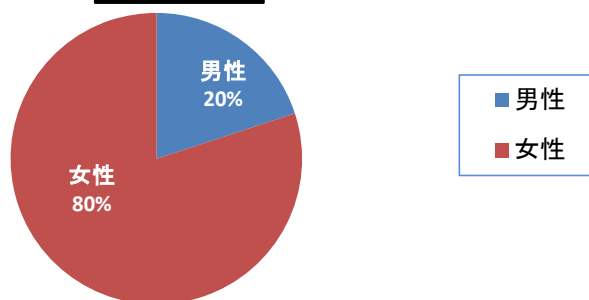
令和 6 年度
小規模多機能ホーム鷹栖なごみの家
現況報告書

（自：令和 6 年 4 月 1 日 ～ 至：令和 7 年 3 月 3 1 日）

1. 利用登録者（令和7年3月31日現在）

男性	女性	合計
4	16	20

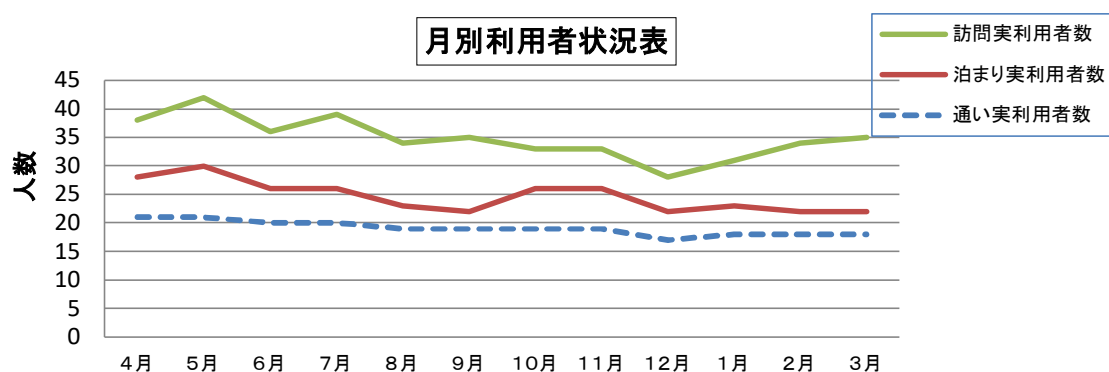
男女構成比



2. 月別利用者状況

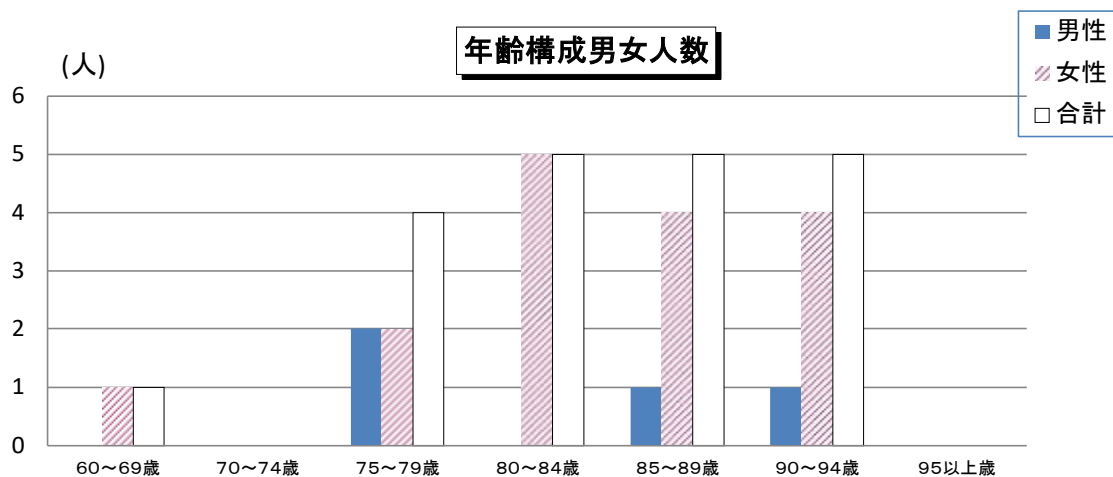
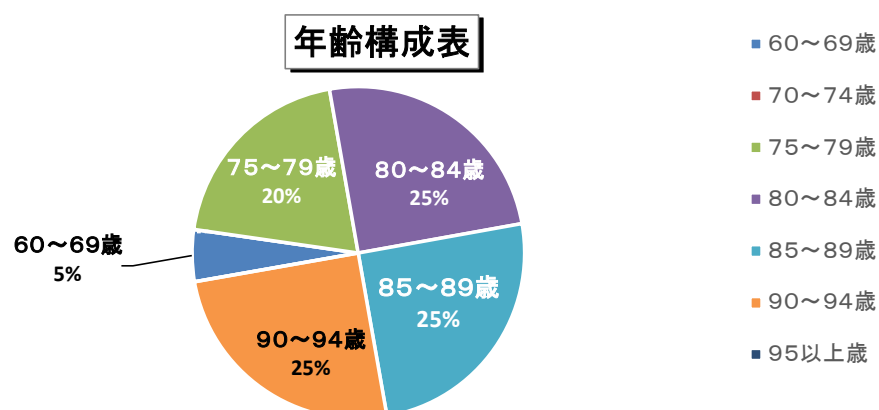
月	通い実利用者数	泊まり実利用者数	訪問実利用者数	入院者	停止者	月初登録者数
4月	21	7	10	0	0	21
5月	21	9	12	0	1	20
6月	20	6	10	3	1	20
7月	20	6	13	1	0	20
8月	19	4	11	2	1	20
9月	19	3	13	2	2	18
10月	19	7	7	2	1	20
11月	19	7	7	0	3	17
12月	17	5	6	1	1	17
1月	18	5	8	0	0	22
2月	18	4	12	0	1	20
3月	18	4	13	0	0	21
平均	19.1	5.6	10.2	0.9	0.9	19.7

月別利用者状況表



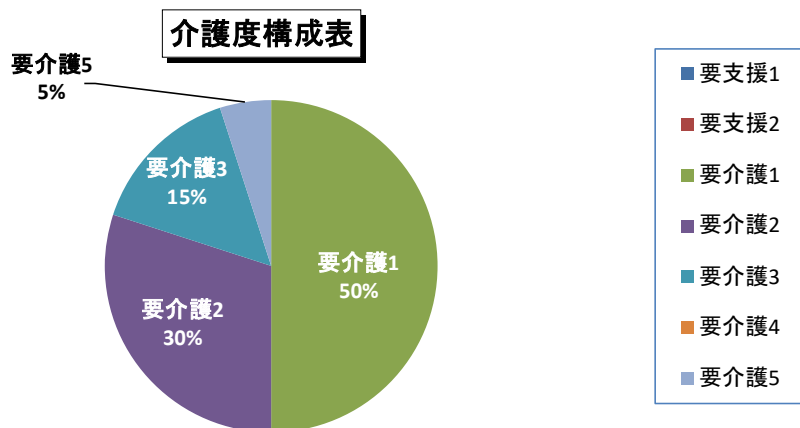
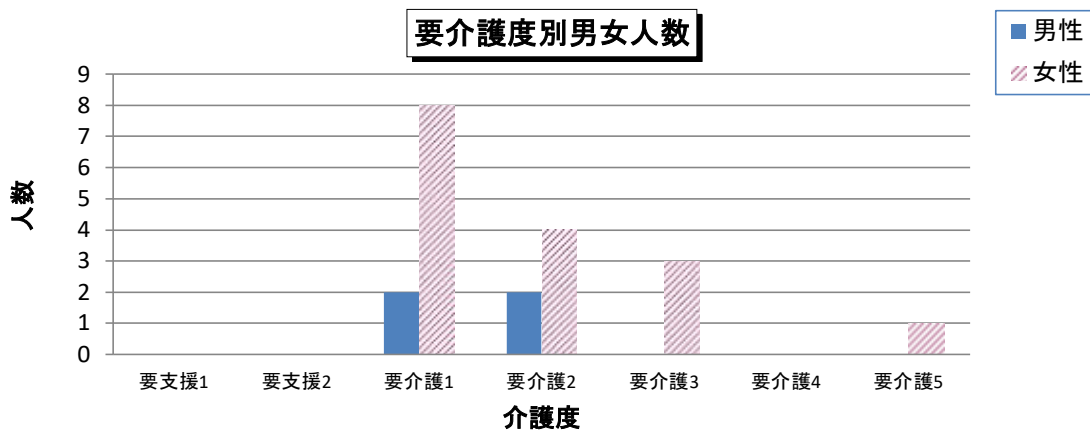
3. 年齢

年齢	男性	女性	合計
60～69歳	0	1	1
70～74歳	0	0	0
75～79歳	2	2	4
80～84歳	0	5	5
85～89歳	1	4	5
90～94歳	1	4	5
95以上歳	0	0	0
合計	4	16	20
平均年齢	84.8	84.1	84.2
最高年齢	92	92	92
最低年齢	77	68	68



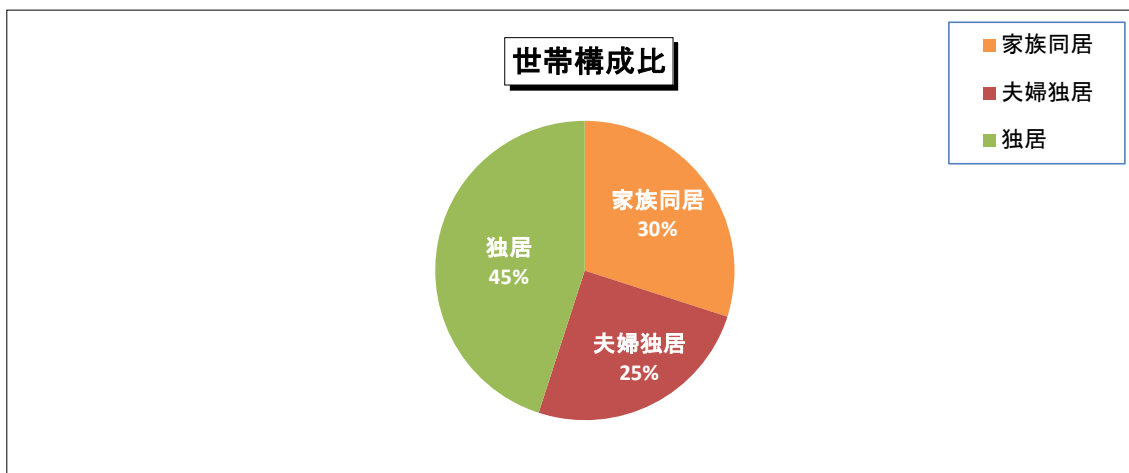
4. 要介護度別

介護度	男性	女性	合計	構成比
要支援1	0	0	0	0%
要支援2	0	0	0	0%
要介護1	2	8	10	50%
要介護2	2	4	6	30%
要介護3	0	3	3	15%
要介護4	0	0	0	0%
要介護5	0	1	1	5%
合計	4	16	20	100%



5. 世帯構成

家族同居	夫婦独居	独居	合計
6	5	9	20



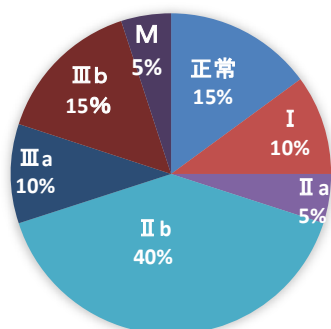
6. ADL(日常生活動作)状況

分類	自立	一部介助	全介助	合計
移動(歩行)	17	1	2	20
排泄	12	7	1	20
入浴	3	16	1	20
衣類の着脱	16	3	1	20
食事	19	1	0	20

7. 認知症高齢者の日常生活自立度状況

認知度	人数
正常	3
I	2
II	0
II a	1
II b	8
III	0
III a	2
III b	3
IV	0
M	1
合計	20

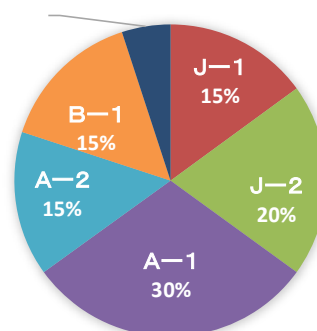
認知症高齢者の日常生活自立度比



8. 障害老人の日常生活自立度状況

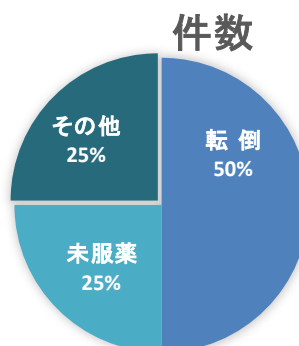
自立度	人数
自立	0
J-1	3
J-2	4
A-1	6
A-2	3
B-1	3
B-2	1
C-1	0
C-2	0
合計	20

障害老人の日常生活自立度比



9. 事故状況

内容	件数
転 倒	2
転 落	0
切り傷	0
表皮剥離	0
未服薬	1
誤飲	0
投薬忘れ	0
誤投薬	0
打撲	0
外 出	0
その他	1
合 計	4



令和6年度 地域密着型特別養護老人ホーム んくもりの家えん 事業報告

1. 総括（今年度の取り組みの成果）

令和6年度は、昨年同様「良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る」を基本方針として、(1)多職種協同でケアを提供し、健康で豊かな暮らしをつくる、(2)感染症や災害対策などの予防・防災意識を高める、(3)自主性・主体性を持って介護過程を展開し利用者の満足度を高める、(4)チームワークの向上とICTの活用を通じて職場環境の改善を図る、(5)適正収益の確保の5つを重点目標に取り組みを行った。

(1)「多職種協同でケアを提供し、健康で豊かな暮らしをつくる」

入居者の健康維持を目的に、日々のケアチェックの徹底、多職種カンファレンスの定期実施、個別の食事形態および必要水分量の見直しを行った。嚥下機能に課題のある入居者に対しては、食事摂取状況の観察を通じて支援体制を強化し、介護・看護・栄養の各部門の連携により、ソフト食から常食への移行を実現した。これにより、食事を楽しむ入居者の笑顔が増え、生活の質の向上を実感できた。また、ご家族の希望に沿ったケア提供にもつながった。さらに、定期的な血液検査および健康診断の実施により、疾病の早期発見・予防に資するケアの継続を図った。

入院に関しては、延べ入院日数を50日以内とする目標を掲げたが、結果は入院者9名、延べ196日となり、目標達成には至らなかった。既往症の悪化や再発による長期入院が多く、退去につながる事例もみられた。

(2)「感染症や災害対策などの予防・防災意識を高める」

感染症予防として、職員の手洗い・うがい・手指消毒の徹底を図った。その結果、新型コロナウイルスによるクラスターは発生しなかったが、1月にはインフルエンザウイルスによる職員・入居者の感染が発生し、クラスターとなった。約1か月間にわたり感染が継続したが、幸いにも全員が軽症であり、入院することなく終息に至った。

(3)「自主性・主体性を持って介護過程を展開し利用者の満足度を高める」

担当職員による8件の介護過程を展開し、各入居者のADL・QOL向上を目指した。これにより、対象入居者のみならず、他の入居者にも波及する形で、楽しみある生活づくりが促進された。また、新型コロナウイルス流行により中止していた地域サポーターによる学習療法を、本年度は3名の入居者に対して再開することができた。

(4)「チームワークの向上とICTの活用を通じて職場環境の改善を図る」

シルエット見守りセンサーを入居者の状態に応じて導入したことで、職員の業務負担が軽減され、より適切なタイミングでの支援が可能となった。

加えて、職員が安心して働ける環境づくりとして、個々のライフスタイルに応じた勤務調整や、計画的なリフレッシュ休暇（8連休・3連休）の取得を推進した結果、令和6年度における退職者はゼロとなった。

(5)「適正収益の確保」

特養事業における目標稼働率は98%（目標介護保険収入107,323,000円）と設定したが、実績としては稼働率96.0%（107,332,100円）にとどまった。これは、長期入院による退去が多く、その後の新規入居までの空床期間が平均19日と長引いたことが要因であり、適正なベッドコントロールが課題として残った。

2. 展望（次年度に向けて）

令和7年度においても、今年度と同様の5つの重点目標を掲げ、より具体的な計画を策定・実行することにより、確実な成果を目指す。

ケアに関しては、基本となるダブルチェック体制を継続するとともに、体調不良が見られた場合は原則7日以内に多職種カンファレンスを実施し、早期対応の徹底と医療機関との連携強化により、入院期間の短縮を図る。

入居者の暮らしにおいては、施設内の活動に加え、四季の移ろいを感じられる外出行事を積極的に計画・実施し、地域とのつながりを重視した「平穏で楽しみや喜びのある暮らし」の実現を目指す。

職場環境については、ICT・介護ロボットのさらなる利活用によりケアの質向上と業務負担の軽減を図るとともに、職員同士が互いに支え合い、一人で悩みを抱え込まない体制を整えることで、働きやすさとやりがいの向上に努める。

収益面では、退去から新規入居までを原則7日以内とし、稼働率98%（目標介護保険収入108,120,000円）の達成を図る。また、未然に防げる事故の減少と、再発リスクの高い疾患を抱える入居者への予防的ケアを実践することで、延べ入院日数50日以内の実現を目指す。

3. 業績報告

(1) 事業収入（介護保険収入）

目標収入 (A)	実際収入 (B)	達成率 $(B)/(A) \times 100$	前年度収入 (C)	伸長率 $(B)/(C) \times 100$
107,323千円	107,332千円	100.0%	103,032千円	104.2%

(2) ベッド稼働率

目標ベッド 稼働率(A)	実際ベッド 稼働率(B)	達成率 $(B)/(A) \times 100$	前年度ベッド 稼働率(C)	伸長率 $(B)/(C) \times 100$
98.0%	96.0%	98.0%	95.4%	100.6%

(3) 月別稼働率

単位：％

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
R6年度	100	98.9	95.7	96.3	98.4	95.0	91.9	93.7	94.7	95.0	97.0	96.1	96.0
R5年度	95.0	94.5	98.8	97.9	95.0	99.0	91.9	91.7	91.8	92.7	96.2	100	95.4

(5) 延べ入居者人数

目標延べ 入居者数(A)	実際延べ 入居者数(B)	達成率 (B)÷(A)×100	前年度実際延べ 入居者数(C)	伸長率 (B)/(C)×100
7,154人	7,011人	98.0%	6,981人	100.4%

(6) 新規入居者数

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6年度	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	1	5
R5年度	0	1	0	0	0	1	0	1	1	1	2	0	7

(7) 新規入居前居住先

理由/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在宅	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	3
病院	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
老健	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(8) 退居者数

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6年度	0	0	1	0	0	0	2	0	0	1	1	0	5
R5年度	0	0	0	0	1	0	1	0	3	0	1	0	6

(9) 退居理由

理由/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
施設内看取り	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長期入院	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	3
入院中死去	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2

4. 運営状況

(1) 面会状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
面会者件数	36	39	34	34	57	27	41	35	31	29	36	65	464
面会者延べ 人数(名)	47	53	49	45	85	43	49	44	44	33	45	97	634

(2) 外出・外泊状況

年月	外出回数 (回)	外泊回数 (回)
令和 6 年 4 月	1	0
5 月	0	0
6 月	1	0
7 月	0	0
8 月	1	0
9 月	0	0
10 月	0	0
11 月	2	0
12 月	0	0
令和 7 年 1 月	0	0
2 月	0	0
3 月	0	0
合計	5	0

(3) ボランティアの受け入れ

①ボランティア受け入れ実績

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
団体数	0	0	1	0	0	1	2	0	1	1	1	0	7
延人数	0	0	17	0	0	3	5	0	10	9	12	0	56

②ボランティア協力団体一覧

団体名	活動・協力内容
ぬくもり友の会	・ 除雪
絵画サークル虹の会	・ 花壇整備
	・ 絵画展示

(4) 行事

日 時	行 事 名	場 所
令和 6 年 5 月 1 日	えん開設記念日	そら・はなリビング
令和 6 年 5 月 12 日	母の日	そら・はなリビング

令和 6 年 6 月 15 日	円山幼稚園運動会見学	円山幼稚園グラウンド
令和 6 年 6 月 15 日	花壇整備	えん庭
令和 6 年 6 月 16 日	父の日	そら・はなリビング
令和 6 年 7 月 21 日	焼肉際	そら・はなリビング
令和 6 年 8 月 4 日	北野神社祭	えん駐車場
令和 6 年 8 月 3 日	夕涼み会	えん駐車場
令和 6 年 9 月 4 日	敬老の日	そらリビング
令和 6 年 10 月 25 日	収穫祭	そら・はなリビング
令和 6 年 10 月 27 日	ネイルを楽しもう	そら・はなリビング
令和 6 年 11 月 10 日	のど自慢回覧外出	旭川市民文化会館
令和 6 年 11 月 15 日	秋の運動会	そらリビング
令和 6 年 5 月 1 日	えん開設記念日	そら・はなリビング
令和 6 年 12 月 27 日	忘年会	そら・はなリビング
令和 6 年 12 月 24 日	クリスマス会	そら・はなリビング
令和 7 年 1 月 1 日	書初め	そら・はなリビング
令和 7 年 2 月 3 日	豆まき	そら・はなリビング
令和 7 年 3 月 3 日	ひな祭り	廊下・リビング

(5) リーダー会議 (計 9 回)

月日	議題内容	参加人数
令和 6 年 4 月 24 日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項()・スタッフマネジメント	12 名
令和 6 年 5 月 24 日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項(なし)・スタ	10 名

	スタッフマネジメント	
令和6年6月28日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項(なし)・スタッフマネジメント	12名
令和6年7月24日	・コロナ蔓延により、会議未実施。書面にて周知。	0名
令和6年8月21日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項(環境整備について、9月視察について)・スタッフマネジメント	10名
令和6年9月27日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項(排泄誘導時間見直しについて)	12名
令和6年10月25日	・コロナ蔓延により、会議未実施。書面にて周知。	0名
令和6年11月22日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項(麦飯・玄米粥について)・スタッフマネジメント	11名
令和6年12月2日	・令和7年度事業計画策定会議	8名
令和7年1月24日	・インフル蔓延により、会議未実施。書面にて周知。	0名
令和7年2月27日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項(特養委員会について)・スタッフマネジメント	9名
令和7年3月21日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項(特養入浴設備工事について調理工程の見直し)・スタッフマネジメント	8名

(6) 特養会議 (計 11 回)

月 日	議題内容	参加人数
4月8日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開・その他(接遇研修、満足度調査の結果に	11名

	について)	
5月13日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開・その他(オムツ取り扱いについて、職員制服について、職員紹介ボードについて)	11名
6月10日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開・その他(食中毒予防研修、キックオフミーティング、衣替えについて、医療物品について)	9名
7月8日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他(虐待予防研修、預金取扱について)	11名
8月5日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他(ターミナルケア研修、発注書・納品書取扱について)	11名
9月9日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他(ターミナルケア研修)	12名
10月7日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開、その他(感染予防研修、介護記録方法について)	13名
11月11日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画につ	10名

	いて・介護過程の展開、その他(事業アンケートについて、洗濯物について)	
12月9日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開、その他(朝食の調理について、電動シェーバー取扱について)	12名
1月6日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開、その他(行方不明マニュアルについて、薬の確認方法について、リフレッシュ休暇について)	9名
2月5日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開、その他(パット形態の更新について、志知課長療養について)	9名
3月4日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開、その他(調理方法の見直しについて、浴室工事について)	7名

(7) 給食会議 (計 11 回)

月 日	議 題 内 容	参加人数
4月25日	・コロナ蔓延のため、会議未実施、書面にて通知	0名
5月16日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(人事異動に伴う今後の体制について)	7名
6月20日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(食中毒予防研修)	7名
7月20日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(朝食の調理員の欠員補充について、スタッフ勤続10年表彰実施)	7名

8 月 22 日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(希望休の日数について)	8 名
9 月 26 日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(納品物について)	8 名
10 月 31 日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(生ごみバケツについて、お米の寄贈品について)	7 名
11 月 28 日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(食洗器の不調について、お米の使用順番について、年末年始に伴う在庫確認について)	7 名
12 月 19 日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(年末年始に伴う在庫確認について、検食について、生ごみバケツについて)	5 名
1 月 23 日	・インフル蔓延のため、会議未実施。書面にて周知。	0 名
2 月 20 日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(なし)	7 名
3 月 6 日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(調理方法の見直しについて、配送業者変更について)	8 名

(8) 入院状況

病院名	診療科目	症状・病名	入院日	退院日	日数
市立病院	皮膚科	左下肢蜂窩織炎	5 月 16 日	5 月 24 日	8
医療センター	消化器内科	胆嚢炎	6 月 4 日	6 月 26 日	22
医療センター	消化器内科	血便、内痔核	8 月 14 日	8 月 20 日	6
赤十字病院	HCU	左肺膿瘍	8 月 26 日	10 月 17 日	52
市立病院	皮膚科	左下肢蜂窩織炎	9 月 13 日	9 月 20 日	7
市立病院	神経内科	脳出血	9 月 30 日	10 月 23 日	23
市立病院	泌尿器科	右尿管結石・腎盂腎炎	11 月 22 日	12 月 19 日	27
吉田病院	内科	腹水精査	12 月 19 日	1 月 23 日	35
森山病院	脳神経外科	脳幹梗塞	2 月 27 日	3 月 25 日	26

					196
--	--	--	--	--	-----

(9) 通院状況

病院名	診療科目	計 (人)	病院名	診療科目	計 (人)
浅井医院	内科	2	旭川脳神経外科	脳神経外科	2
旭川赤十字病院	呼吸器内科	1	大雪病院	整形外科	4
	整形外科科	1		脳神経外科	1
市立旭川病院	循環器内科	1	高桑整形外科永山CL	整形外科	9
	胸部外科科	1	相木整形外科医院	整形外科	1
	皮膚科	5	なかの呼吸器内科CL	呼吸器内科	6
旭川医療センター	神経内科	4	永山腎泌尿器科CL	泌尿器科	16
	消化器内科	4	北彩都病院	泌尿器科	1
厚生病院	泌尿器外科	1	中根皮膚科医院	皮膚科	5
圭泉会病院	精神科	9	もとまち皮膚科CL	皮膚科	4
森山病院	整形外科	19	いずみ眼科	眼科	2
	脳神経外科	1	林歯科医院	歯科	23
森山メモリアル病院	外科	4	クリア歯科	歯科	2
	整形外科	13			

令和 6 年度 地域密着型特別養護老人ホーム

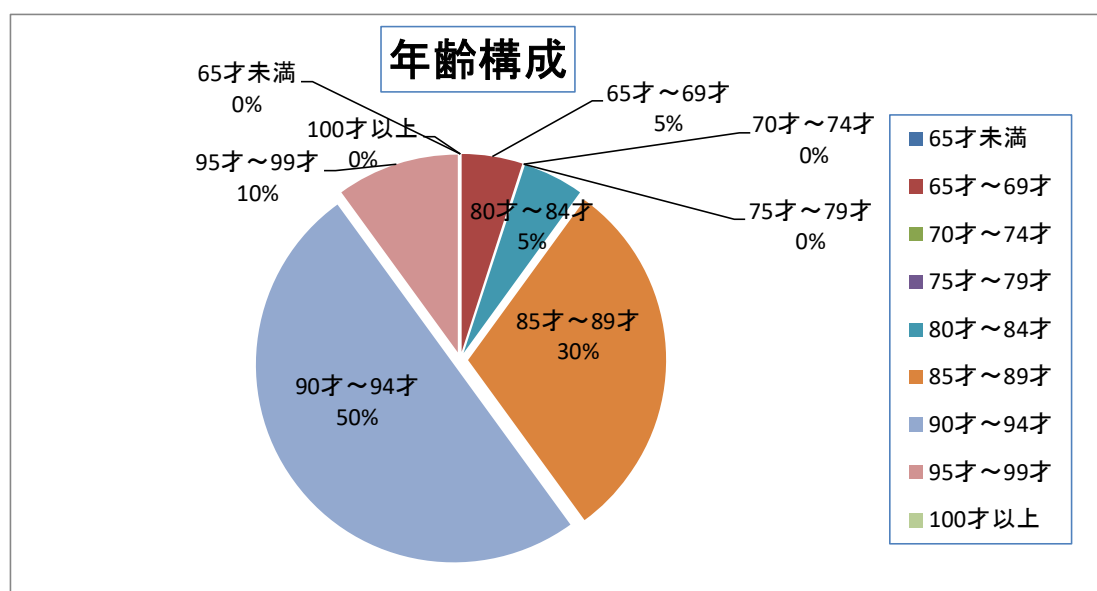
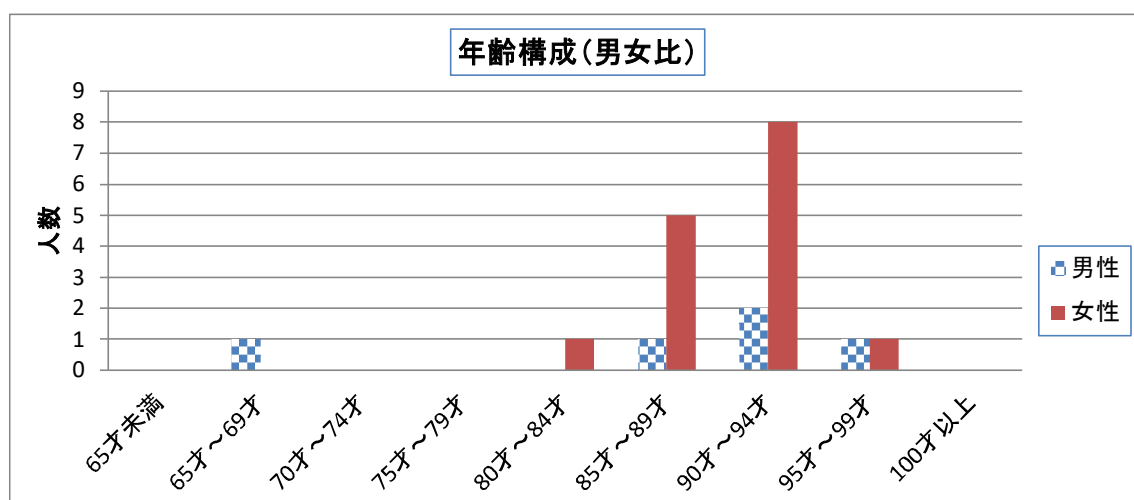
ぬくもりの家えん

現況報告書

(自：令和 6 年 4 月 1 日 ～ 至：令和 7 年 3 月 31 日)

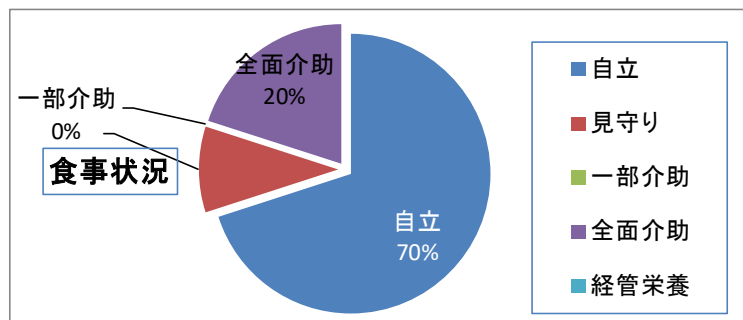
1.入居者年齢構成(令和7年3月31日現在)

	在 籍 者			
	男性	女性	計	
65才未満	0	0	0	【最高年齢】 男性 95歳 女性 96歳 【最低年齢】 男性 67歳 女性 82歳 【平均年齢】 男性 84.8歳 女性 88.7歳 全体 87.5歳
65才～69才	1	0	1	
70才～74才	0	0	0	
75才～79才	0	0	0	
80才～84才	0	1	1	
85才～89才	1	5	6	
90才～94才	2	8	10	
95才～99才	1	1	2	
100才以上	0	0	0	
計	5	15	20	



2.食事状況(令和7年3月31日現在)

	自立	見守り	一部介助	全面介助	経管栄養	合計
男性	1	2	0	2	0	5
女性	13	0	0	2	0	15
合計	14	2	0	4	0	20



3.移動状況(令和7年3月31日現在)

	歩行		杖	歩行器など		車いす使用		合計
	自立	要介助	自立	自立	要介助	自立	要介助	
男性	0	2	0	0	1	0	2	5
女性	0	0	0	0	4	1	10	15
合計	0	2	0	0	5	1	12	20

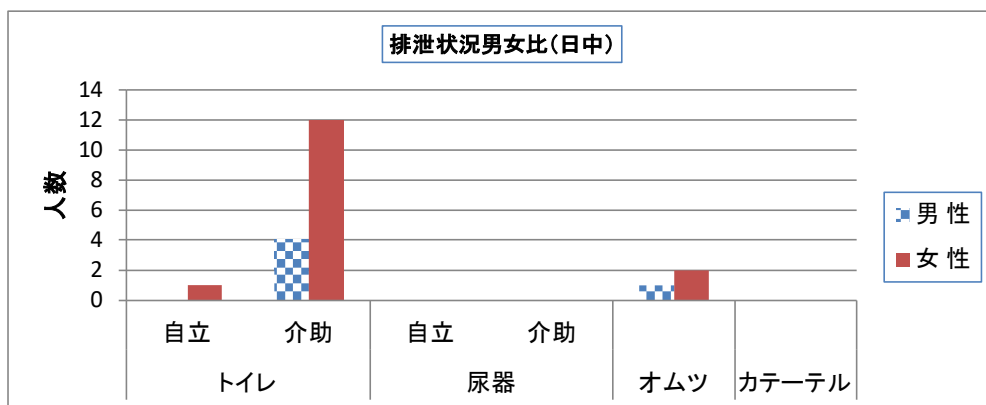
4.入浴状況(令和7年3月31日現在)

	一般浴		車いす浴	合計
	自立	介助		
男性	0	2	3	5
女性	0	7	8	15
合計	0	9	11	20

5.排泄状況(令和7年3月31日現在)

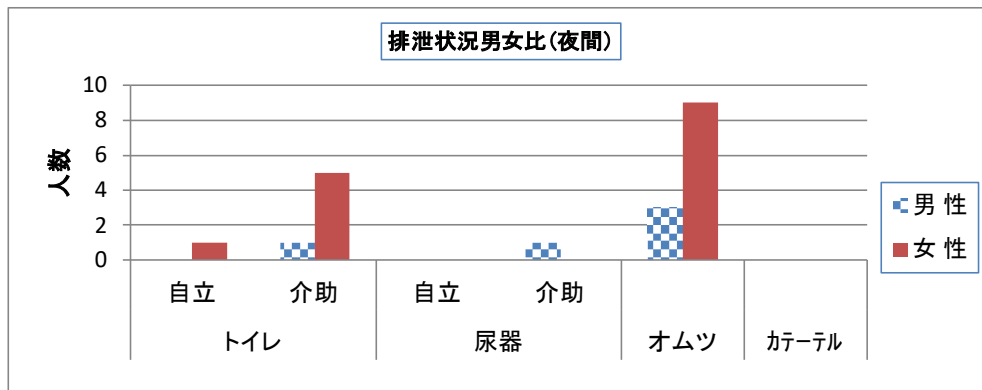
日中

	トイレ		尿器		オムツ	カテーテル	計
	自立	介助	自立	介助			
男性	0	4	0	0	1	0	5
女性	1	12	0	0	2	0	15
計	1	16	0	0	3	0	20



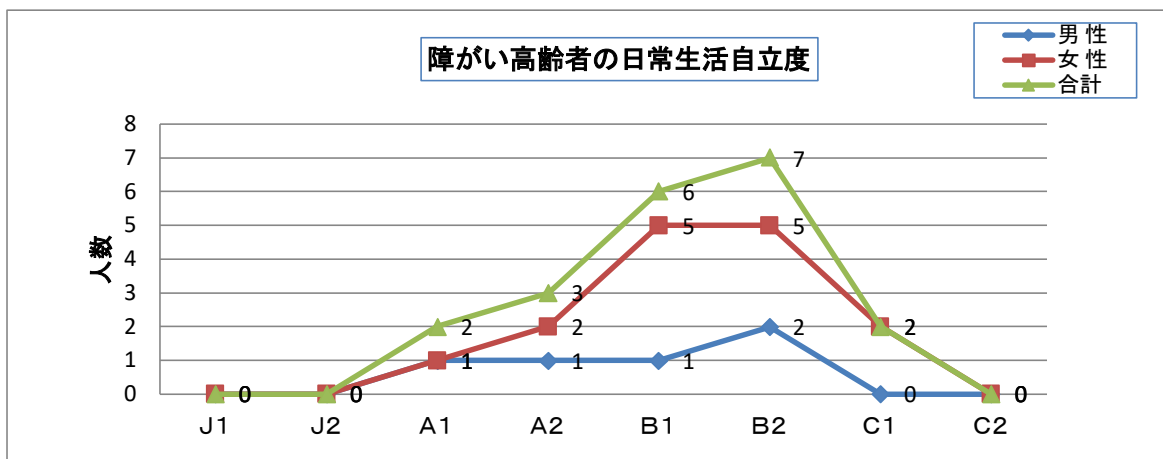
夜間

	トイレ		尿器		オムツ	カテーテル	計
	自立	介助	自立	介助			
男 性	0	1	0	1	3	0	5
女 性	1	5	0	0	9	0	15
計	1	6	0	1	12	0	20



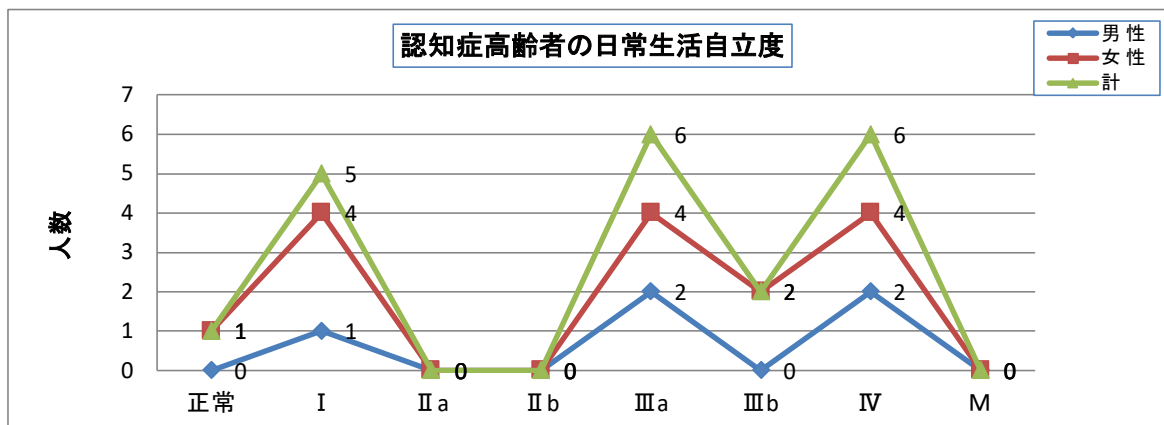
6.身体状況(障がい高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)判定)

	J 1	J 2	A 1	A 2	B 1	B 2	C 1	C 2	計
男 性	0	0	1	1	1	2	0	0	5
女 性	0	0	1	2	5	5	2	0	15
合計	0	0	2	3	6	7	2	0	20



7.認知症状況(認知症高齢者の日常生活自立度判定)

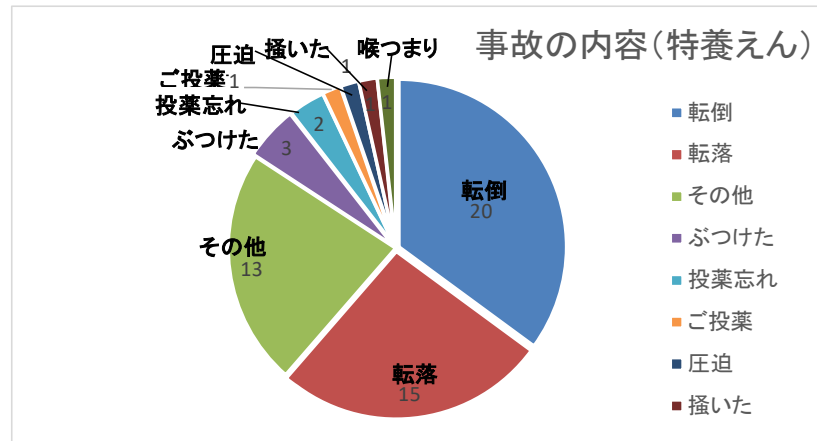
	正常	I	II a	II b	III a	III b	IV	M	計
男 性	0	1	0	0	2	0	2	0	5
女 性	1	4	0	0	4	2	4	0	15
計	1	5	0	0	6	2	6	0	20



8.事故の状況

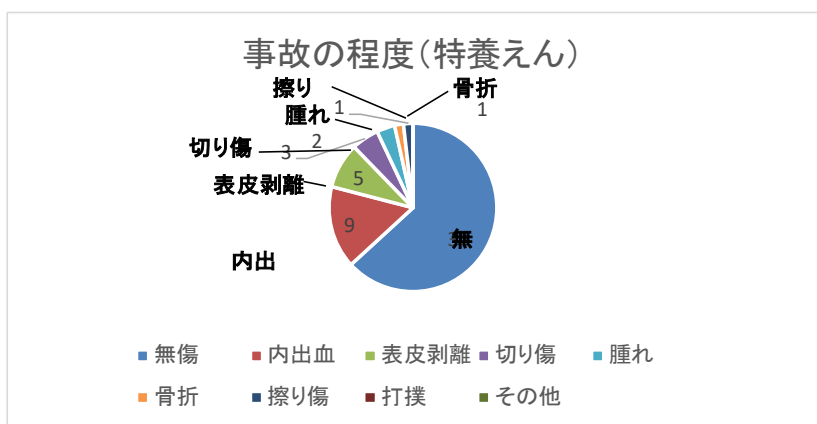
(1)内容

内 容	件数
転倒	20
転落	15
その他	13
ぶつけた	3
投薬忘れ	2
ご投薬	1
圧迫	1
搔いた	1
喉つまり	1
誤飲（誤嚥）	0
異食	0
	57



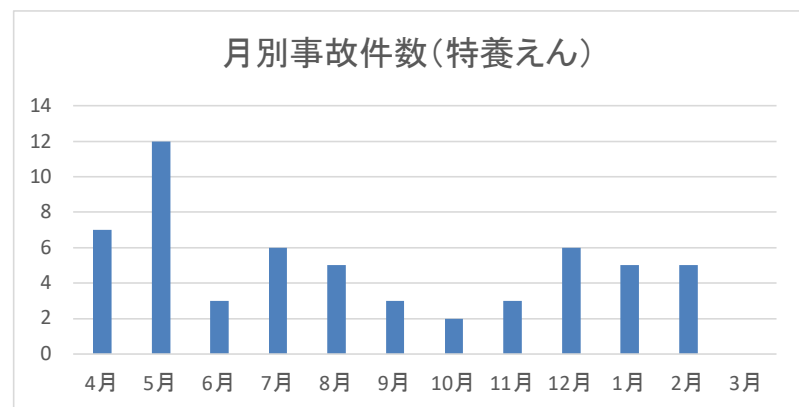
(2)程度

内 容	件数
無傷	36
内出血	9
表皮剥離	5
切り傷	3
腫れ	2
骨折	1
擦り傷	1
打撲	0
その他	0
	57



(3)月別発生件数

発生月	件数
4月	7
5月	12
6月	3
7月	6
8月	5
9月	3
10月	2
11月	3
12月	6
1月	5
2月	5
3月	0
	57



9. 入院状況

	病院名	診療科目	症状・病名	入院日	退院日	日数
1	旭川赤十字HP	SCU	尿管結石・胆石・胆嚢炎	5月2日	5月15日	12
2	旭川赤十字HP	泌尿器科	左腎尿管結石	6月13日	6月21日	7
3	旭川赤十字HP	SCU	胆石・胆嚢炎	7月18日	8月20日	33
4	大雪HP	整形外科	左 THA Ope	10月10日	11月2日	22
5	医療センター	消化器内科	貧血	10月12日	12月16日	65
	市立HP	皮膚科	類天疱瘡・血糖コントロール	11月29日	12月16日	17
14						
15						
						156

10. 通院状況

病院名	診療科目	計(人)	病院名	診療科目	計(人)
浅井医院	内科	8	森山メモリアル病院	リハビリ科	3
旭川赤十字病院	口腔外科	1		整形外科	12
	泌尿器科	2	大雪病院	整形外科	3
市立旭川病院	総合内科	3	高桑整形外科永山CL	整形外科	2
	婦人科	4	たかはし整形外科CL	整形外科	1
	皮膚科	13	片山整形リウマチ科CL	リウマチ科	3
旭川医療センター	神経内科	3	もとまち皮膚科CL	皮膚科	2
	消化器内科	5	永山腎泌尿器科CL	泌尿器科	4
	循環器内科	1	なかの呼吸器内科CL	呼吸器内科	5
圭泉会病院	精神科	3	林歯科医院	歯科	61
森山病院	整形外科	16	クリア歯科	歯科	6
	救急外来	1			

令和6年度 小規模多機能ホームぬくもりの家えん事業報告

1. 総括

昨年度に引き続き『良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る』を基本方針とし、①新型コロナウイルス等の感染症予防に取り組み、集団感染ゼロを目指す②介護過程の展開に取り組み、利用者のみならずスタッフもやりがいや達成感、楽しみを感じられる暮らしづくりに努める③ICTを活用した職場環境改善を図り、楽しくやりがいを持って働くことのできる職場づくりを目指す④適正利益の確保の4つを重点目標として取り組んだ。

①の感染症予防では、対策の基本である手洗い・手指消毒・うがいの励行、1時間毎の換気および消毒対応を続けていたが、7月に利用者9名・スタッフ5名が罹患する集団感染が発生し、通い・泊まりサービスの受け入れを1週間中止した。引き続き基本的な感染症対策を怠らず体調管理・確認を徹底し、集団感染ゼロを目指す。

②の介護過程の展開については、1名ずつではあるが計画通りに実施できた。介護過程の展開を通してアセスメントの重要性を学び、利用者への理解を深めることの楽しさと難しさを知り、考え実践した結果利用者に現れる変化からさらなる検討へとつなげていく流れをつかむことができた。

③では、ICTの導入により医療連携や他サービス事業所への情報提供を正確かつ速やかに行うことができ、業務の効率化につながっている。ただし、記録の漏れが目立つこともあり、システムの利便性だけに頼らない基本的な考え方については随時スタッフ間で共有していく必要がある。

事故に関して「昨年度より事故件数20%減少」と「薬に関する事故を30%減少」を目標に取り組んだ結果、昨年度の事故件数35件を大幅に下回る16件に留まった。薬の事故に至っては、昨年度の14件から3件まで減らすことができた。服薬事故の原因分析と再発防止策を徹底するとともに、利用者の服薬情報の周知・共有を強化したことが事故の減少・防止につながった。

転倒に関しては骨折・入院につながってしまったケースがあった。環境整備の調整中に起きた事故もあり、リスクを感じた時点ですぐに動く瞬発力を持って対応・連携し、判断や対応が後手に回らないようにすることで、同様の事故を防ぐ。

④の適正利益確保については、目標平均登録者数を23.5名としたが、平均登録者数21.7名と目標には及ばず。介護保険事業収入は63,058,556円（前年比105.4%）と目標は上回っているものの、登録数の減少は否めない。適正利益確保のため、次年度も引き続き平均登録者数23.5名を目標に掲げ、介護度の見直しを積極的に行うことで安定した運営をすすめる。

新規利用者は9名で、全て法人居宅および地域包括支援センターからの紹介だった。その中でも、地域包括支援センターへの情報共有によりサービス利用へとつながったケ

ースもあった。今後も積極的に地域に潜む課題に目を向け、他事業所との連携を強化する。今年度は継続泊まりから入居へ至るケースも多く、在宅生活の継続には周囲の支えだけでは不十分であり、安全安心な住まいが必要不可欠であることが理解できた。今後も突発的な泊まり対応だけではなく、その後を見据えた受け入れ方も積極的に行う。

停止者 12 名中、約半数の 5 名が併設の地域密着型特養及びグループホームへ入居となった。今後も必要なタイミングでの入居が叶い、スムーズに移り住むことができるよう、居宅・医療機関等と連携を図りながら、新規利用者および待機登録者の確保に努める。

その他働きやすい職場づくりの取り組みでは、前年度同様リフレッシュ休暇（8 日間）と 3 連休の取得を計画・実施することができた。

2. 次年度に向けて

令和 7 年度も引き続き新型コロナウイルス等の感染症予防に取り組み、集団感染ゼロを目指す。介護過程の展開に取り組み、利用者のみならずスタッフもやりがいや達成感、楽しみを感じられる暮らしづくりに努める。

引き続き ICT を活用した職場環境改善を図り、生産性向上についての正しい理解をスタッフ全員が持ち、楽しくやりがいを感じながら働くことのできる職場づくりを目指す。

適正利益確保のため、引き続き平均登録者数 23.5 名を目標に掲げる。安定した運営につなげるため、必要に応じて区分変更を積極的に勧め、状態に合った介護度。また、地域ケア会議へ出席し、法人居宅や包括支援センターとの情報共有を密にする。新規利用の相談を受けた際は柔軟かつ迅速に受け入れに向けて動き、居宅や包括支援センターのケアマネジャーが自信を持って薦めたい・安心して任せたいと思える、信頼のおける事業所を目指す。

3. 運営状況

（1）事業収入

目標介護保険収入 (A)	実際介護保険収入 (B)	達成率 (B) / (A) × 100	前年度 介護保険収入 (C)	伸長率 (B) / (C) × 100
60,577,000 円	63,058,556 円	104.1%	59,780,924 円	105.4%

（2）平均登録者数

目標 平均登録者数 (A)	実際 平均登録者数 (B)	達成率 (B) / (A) × 100	前年度 平均登録者数 (C)	伸長率 (B) / (C) × 100
24.0 名	21.7 名	90.4%	22.9 名	94.7%

（3）月別登録者数

年度/月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
R6 年度	23	23	23	24	24	20	21	21	21	20	20	20	21.7
R5 年度	21	21	23	23	24	24	24	23	23	22	23	24	22.9

(4) 新規利用者の紹介先 (※直接包括からの利用のみ包括の数字とする)

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
町内居宅	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0.3
町内包括	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0.4
町外医療機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	0	2	0	2	0	2	1	0	0	0	0	2	0.7

(5) 停止者数

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6年度	1	1	0	1	4	1	1	0	1	0	2	0	12
R5年度	0	1	0	0	0	0	1	1	1	1	0	1	6

(6) 停止理由

理由/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在宅死去	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
介護施設入居	0	0	0	0	3	1	1	0	0	0	2	0	7
有料入居	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長期入院	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
入院中死去	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1

(7) 要介護度別利用者数

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
要支援1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0.5
要支援2	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1.1
要介護1	12	11	9	10	9	7	9	9	9	8	8	9	9.2
要介護2	6	5	8	8	8	9	8	7	7	7	5	4	6.8
要介護3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	4	3	2.7
要介護4	0	1	0	0	0	0	0	1	1	2	2	2	0.8
要介護5	0	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0.7
合 計	23	23	23	24	24	20	21	21	21	20	20	20	21.7

(8) 小規模多機能ホーム会議開催状況

月 日	議 題 内 容	出席者
4月10日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・抑制廃止の取り組み・事故の検討・医療関係・マナーモラル・利用者の疾病について 研修：介護過程の展開	8名
5月15日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・抑制廃止の取り組み・事故の検討・医療関係・マナーモラル・各委員会のメンバー変更・事業計画、活動計画について	9名
6月12日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・抑制廃止の取り組み・事故の検討・医療関係・マナーモラル・食事形態・介護過程の展開について 研修：食中毒予防	7名
7月10日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・抑制廃止の取り組み・事故の検討・医療関係・マナーモラル・離設時対応マニュアルの再確認・脱水・介護過程の展開について 研修：身体拘束・虐待予防（1回目）	8名
8月7日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・抑制廃止の取り組み・事故の検討・医療関係・マナーモラル・服薬方法・実績入力・介護過程の展開について	8名
9月4日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・抑制廃止の取り組み・事故の検討・医療関係・マナーモラル・介護過程の展開について 研修：ターミナルケア	8名
10月9日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・抑制廃止の取り組み・事故の検討・医療関係・マナーモラル・新規利用者・記録方法について 研修：感染症予防	9名
11月13日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・抑制廃止の取り組み・事故の検討・医療関係・マナーモラル・インフルエンザ予防接種について 研修報告（認知症介護実践リーダー研修）	8名
12月10日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・抑制廃止の取り組み・事故の検討・医療関係・マナーモラル・介護過程の展開	8名
1月7日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・抑制廃止の取り組み・事故の検討・医療関係・マナーモラル・利用者泊まり利用・介護過程の展開について	8名

2月5日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・抑制廃止の取り組み・医療関係・マナーモラル・感染症予防・介護過程の展開について 研修：身体拘束・虐待予防（2回目）	5名
3月5日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・抑制廃止の取り組み・医療関係・マナーモラル・介護過程の展開・間接業務について	6名

（9）委員会活動

①生産性向上推進委員会

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第1水曜日 18:00 ～ 18:15	ICTを活用し、スタッフがより働きやすい環境の実現を目指すとともに、利用者の満足度向上につなげる。生産性向上の取り組みを通じて、スタッフの知識や技術・モチベーションの向上を促す。	7名	12回

②安全対策委員会

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第1水曜日 17:45 ～ 18:00	自宅内及び施設内におけるヒヤリハットをピックアップし、事故につながる環境を見直すことで事故を未然に防ぐ。 事故原因の究明を行い、対策の周知徹底を促す。	4名	12回

③身体拘束・虐待防止委員会

開催日時	目 的	出席者	開催実績
毎月第1水曜日 18:00 ～ 18:15	利用者の尊厳を守り、その人らしい生活を支援する。身体拘束・虐待予防についての研修を定期的実施し、利用者本位のケアを提供するための意識を高める。	7名	12回

（10）小規模多機能ホーム行事活動報告

月 日	行 事 名	場 所
5月1日	開設記念日	小規模リビング
5月2～4日	花見	北野神社、パレットヒルズ
6月14日	花壇整備	えん花壇
6月15日	円山幼稚園運動会応援	円山幼稚園グラウンド
7月9日	さつき祭	見学中止
7月11日	焼肉昼食会	てくてく
8月4日	北野神社祭、獅子舞見学	えん駐車場
8月8～10日	えんまつり	てくてく
9月18～20日	買い物ツアー	コープさっぽろ春光店

10月25日	収穫祭	小規模リビング
11月27～29日	りんご湯	小規模浴室
12月21～23日	ゆず湯	小規模浴室
12月25日	クリスマス会	てくてく
12月28日	忘年会	てくてく
1月4～5日	初詣	鷹栖神社
2月3日	節分	小規模リビング
3月2～4日	ひなまつり	小規模リビング
3月12～15日	さくら湯	小規模浴室

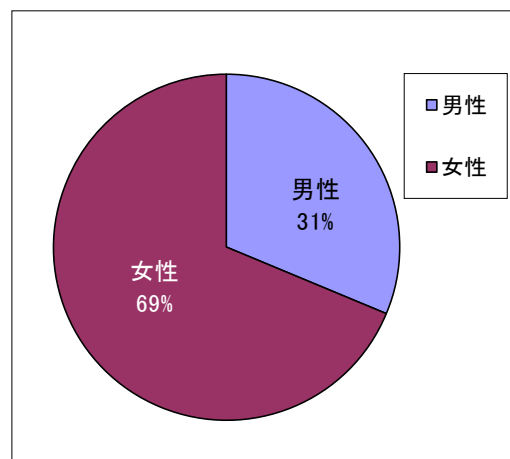
令和 6 年度

小規模多機能ホームぬくもりの家えん 現況報告書

(自：令和 6 年 4 月 1 日 ～ 至：令和 7 年 3 月 31 日)

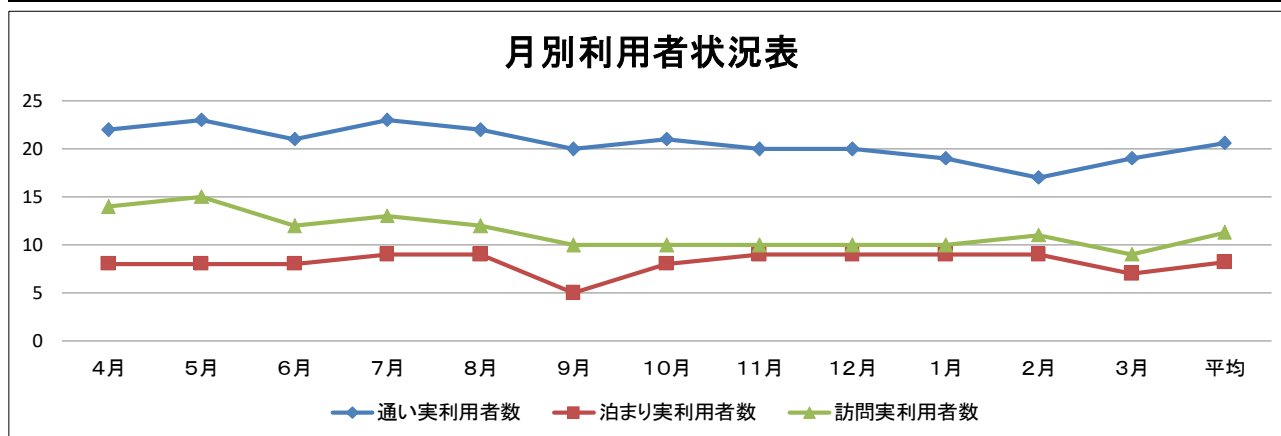
1. 利用登録者（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

男性	女性	合計
10	22	32



2. 月別利用者状況

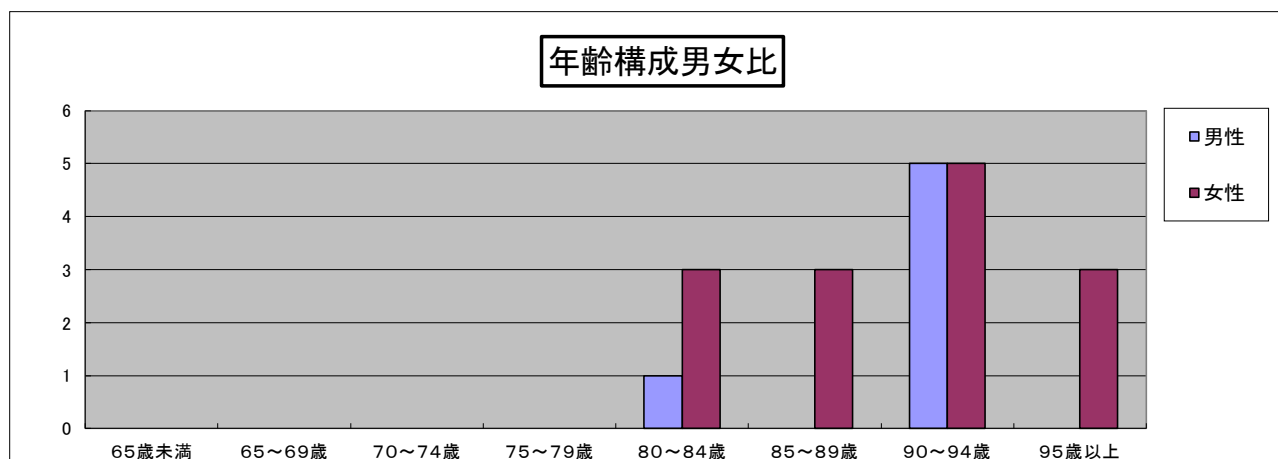
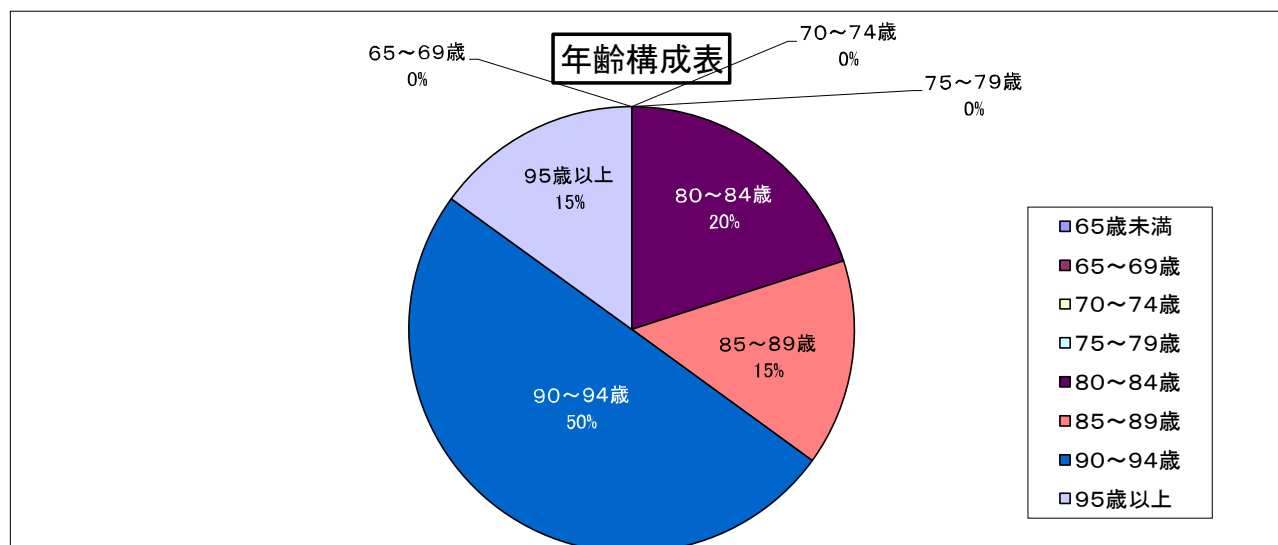
月	通い実利用者数	泊まり実利用者数	訪問実利用者数	入院者	休止者	停止者
4月	22	8	14	1	0	1
5月	23	8	15	3	0	1
6月	21	8	12	1	0	0
7月	23	9	13	3	0	1
8月	22	9	12	2	0	4
9月	20	5	10	0	0	1
10月	21	8	10	0	0	1
11月	20	9	10	2	0	0
12月	20	9	10	3	0	1
1月	19	9	10	0	0	0
2月	17	9	11	0	0	2
3月	19	7	9	1	0	0
平均	21	8	11	1	0	1



3. 年齢

(令和7年3月31日 現在)

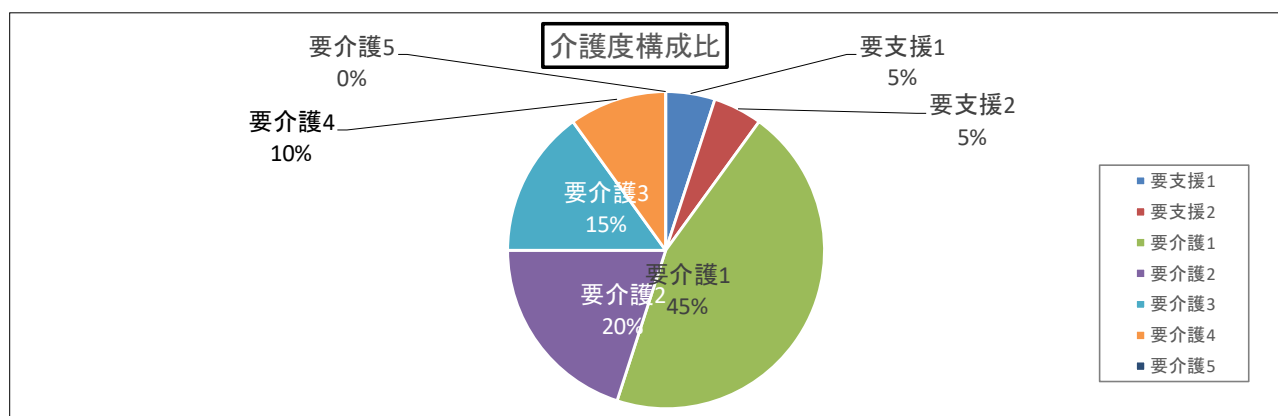
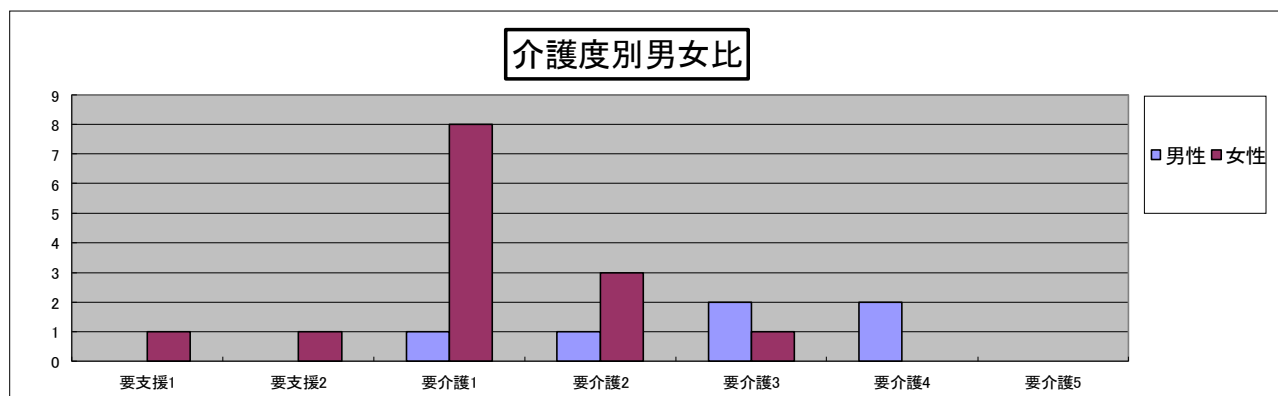
	男性（人）	女性（人）	合計（人）
65歳未満	0	0	0
65～69歳	0	0	0
70～74歳	0	0	0
75～79歳	0	0	0
80～84歳	1	3	4
85～89歳	0	3	3
90～94歳	5	5	10
95歳以上	0	3	3
合計	6	14	20
平均年齢	90.6歳	84.4歳	87.5歳
最高年齢	94歳	102歳	
最低年齢	83歳	81歳	



4. 要介護度別

(令和7年3月31日 現在)

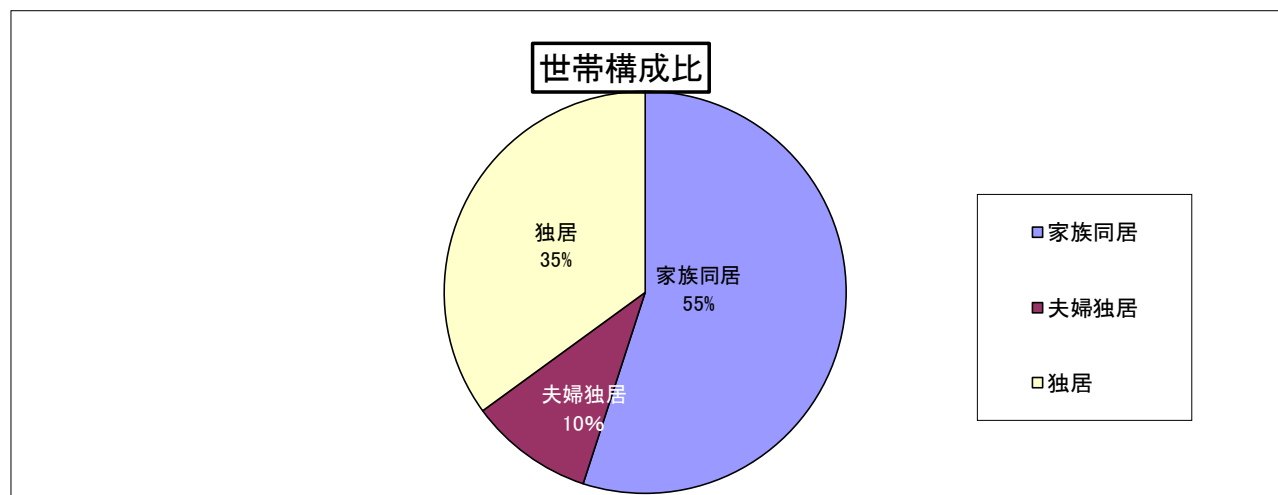
	男性	女性	合計	構成比
要支援1	0	1	1	5%
要支援2	0	1	1	5%
要介護1	1	8	9	45%
要介護2	1	3	4	20%
要介護3	2	1	3	15%
要介護4	2	0	2	10%
要介護5	0	0	0	0%
合計	6	14	20	100%



5. 世帯構成

(令和7年3月31日 現在)

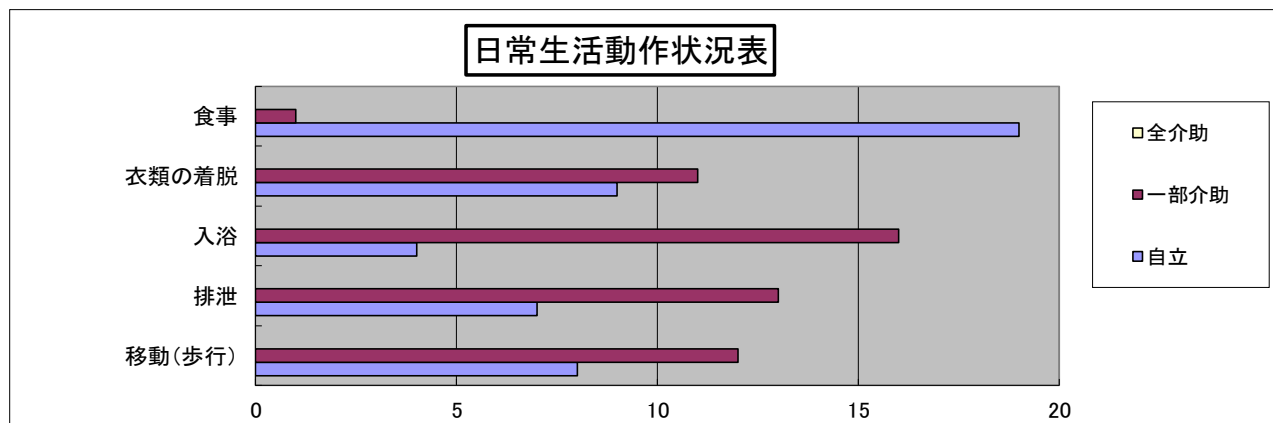
家族同居	夫婦独居	独居	合計
11	2	7	20



6. ADL(日常生活動作)状況

(令和7年3月31日 現在)

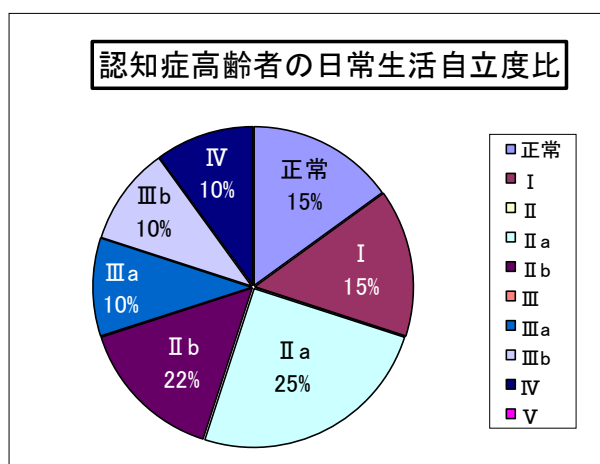
	自立	一部介助	全介助	合計
移動(歩行)	8	12	0	20
排泄	7	13	0	20
入浴	4	16	0	20
衣類の着脱	9	11	0	20
食事	19	1	0	20



7. 認知症高齢者の日常生活自立度状況

(令和7年3月31日 現在)

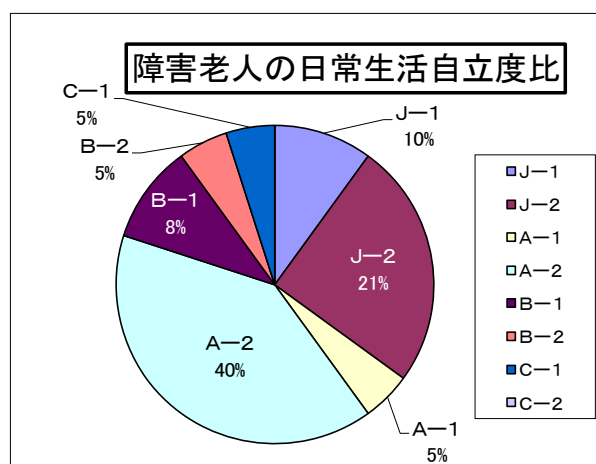
認知度	人数
正常	3
I	3
II	0
II a	5
II b	3
III	0
III a	2
III b	2
IV	2
V	0
合計	20



8. 障害老人の日常生活自立度

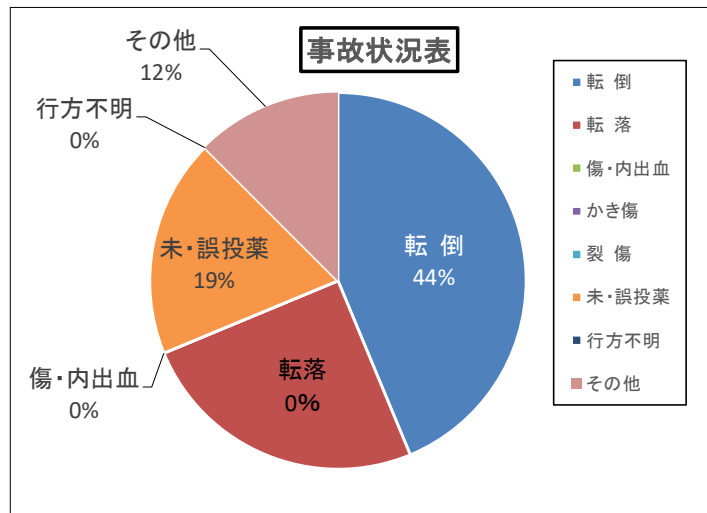
(令和7年3月31日 現在)

自立度	人数
J-1	2
J-2	5
A-1	1
A-2	8
B-1	2
B-2	1
C-1	1
C-2	0
合計	20



8. 事故状況（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

内容	件数
転 倒	7
転 落	4
傷・内出血	0
かき傷	0
裂 傷	0
未・誤投薬	3
行方不明	0
その他	2
合 計	16



令和6年度 サービス付き高齢者向け住宅ぬくもりの家たかほ 事業報告

1. 総括（今年度の取り組みの成果）

本年度は、「良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る」を基本方針として取り組みを進めた。

入居者の ADL および QOL 向上については、平均要介護度が昨年度の 1.06 から 1.12 へと上昇した。これは、継続して実施している「あったかす体操」、職員によるボランティアの体操教室、支援員による昼食前の体操および嚥下体操の成果と考えられる。また、入居者の 61%（11 名）が併設のフィットネス倶楽部を継続利用しており、この点も好影響を与えていると推察される。

事故件数は昨年度の 10 件から 12 件へと増加した。うち 92%が単独転倒であり、そのうち 2 件が骨折による入院・退去につながった。室内環境や福祉用具の見直しについては、法人内の理学療法士の協力を得ながら、より積極的に介入していく必要性を再認識した。今後も入居者の状態把握および職員間での情報共有を徹底し、事故の未然防止に努める所存である。

新型コロナウイルス感染症対策としては、全入居者の検温、館内の消毒、手洗い・うがい、手指消毒、体調管理を徹底してきた。しかし、7 月に 1 名、12 月に 3 名の感染が発生した。引き続き、衛生管理および健康観察を徹底してまいりたい。

入院に関する年間目標（延べ入院者数 5 名以内、延べ入院日数 80 日以内）は未達成であった。実績は、延べ入院者数 11 名（昨年度 7 名）、延べ入院日数 144 日（昨年度 112 日）であった。

退去者数は 6 名（昨年度 3 名）であり、主な理由は骨折、基礎疾患の治療、認知症の進行、施設入所であった。今後も体調管理、ADL 維持、住環境整備に努めるとともに、関係事業所およびかかりつけ医との情報共有・連携を強化し、在宅生活の継続支援を図っていく。

本年度も懇談会を年 2 回開催し、職員とご家族との意見交換を実施した。また、入居者と共に館内清掃やプランター植えを行い、運営への参画を促した。

入居者の生活の楽しみづくりとしては、季節ごとの創作活動のほか、あったかす体操指導士と連携して「たかほリンピック」（さんま焼きゲーム、ボール投げゲームなど）を実施した。また、花火大会や北野サロンでの創作物展示なども行った。さらに、地域の協力を得て 4 年ぶりに開催された「ほろ酔いマルシェ出張版」にて夕食会を実施し、七夕の「ろうそくだせ」では地域住民や子どもたちとの交流を楽しむことができた。

認知症総合支援事業として「認知症カフェ（デコぼん茶屋）」を 11 回開催（うち 1 回は感染症により中止）。地域住民の得意なことを生かした創作活動を通じて、役割の創出や自己表現の機会を提供した。また、介護相談の場面もあり、今後はさらに多くの参加を促すための工夫が必要と考える。

「ちょっと大丈夫かな食堂」は、鷹栖町社会福祉協議会との協働により、地域住民と計画・開催（5 月）。たかほ入居者 8 名が役割を担い、達成感を得る機会となった。加え

て、「ぬくもりの家えん」の朝市では、地域住民の勧めにより入居者が 2 回にわたり創作物の販売を行い、自身の作品が購入される喜びを感じることができた。これは次年度以降の生活意欲にもつながっている。

地域貢献として、外出や交流の機会づくりを目的に、昼食弁当を週 3 回・1 日 7 食限定で提供した。町内会長・民生委員に事業の趣旨を説明したが、定期的な利用は 2 家族にとどまっている。

認知症予防として実施した学習療法は、入居者 9 名に対し、地域の学習療法サポーター 9 名が対応した。新たに 2 名のサポーターが研修を修了し登録された。入居者の延べ実施回数は 446 回（昨年度 406 回）、サポーターの延べ参加回数は 228 回（昨年度 208 回）であり、双方にとってやりがいと楽しみのある活動であった。

また、地域住民を対象とした学習療法無料体験会も開催し、16 名が参加したが、学習療法の継続参加やサポーター登録には至らなかった。

適正な利益確保に関しては、平均稼働率 95.4%と、目標の 97%には届かなかった。最大で 11 名の待機登録者がいたものの、保留中の返答も多く、入居申込者への定期的な状況確認や意向確認の必要性を認識した。併せて、継続的な PR 活動の強化も求められる。

2. 展望（次年度に向けて）

次年度も引き続き、入居者の自立生活の継続を目指し、ADL・IADL・QOL の維持向上に努める。安心して長く暮らせる住宅機能を維持するため、必要なサービスを丁寧に見極め、迅速な対応を徹底する。

「楽しみ」と「役割」のある生活を支えるために、地域住民やサロンと連携し、入居者個々の能力や興味に応じた活動機会を提供する。町内会との行事計画や作品展示も継続する。

健康管理においては、日々の体調管理に加え、変化に気づく視点を養い、他事業所との連携を強化して入居者の健康維持に努める。

事故対策については、骨折事故ゼロを目標とし、身体機能維持に向けた運動機会の確保やフィットネスクラブの新規登録者の増加を図る。併せて、訪問リハビリ、福祉用具専門相談員、法人 PT の協力を得ながら、個々の生活環境の見直しを積極的に実施していく。

地域貢献としては、昼食弁当事業の利用促進を図り、より多くの住民に活用してもらうことでフレイル予防につなげたい。また、学習療法については、入居者のみならず地域住民にも広く周知・実施し、認知症の進行予防に努める。

適正利益の確保に向けては、安定した待機登録者の確保および次期入居者への迅速な打診を通じ、空室期間の短縮を目指す。入居者確保のため、地域包括支援センターおよび居宅介護支援事業所への営業活動を計画的に実施し、年間 18 名の入居達成・維持（目標稼働率 97%、17.5 戸）を目指す。

3. 運営状況

(1) 事業収入（介護保険収入）

目標収入 (A)	実際収入 (B)	達成率 (B)÷(A)×100	前年度収入 (C)	伸長率 (B)÷(C)×100
25,913,000円	25,310,730円	97.7%	26,401,912円	95.9%

(2) ベッド稼働率

目標ベッド 稼働率(A)	実際ベッド 稼働率(B)	達成率 (B)÷(A)×100	前年度ベッド 稼働率(C)	伸長率 (B)÷(C)×100
94.0%	95.4%	101.5%	97.7%	97.6%

(3) 月別稼働率

単位：％

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
R6 年度	100	100	100	100	100	88.9	88.9	94.4	94.4	94.4	94.4	88.9	95.4
R5 年度	100	100	100	100	88.9	100	94.4	100	94.4	100	100	94.4	97.7

(4) 新規入居者数

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6 年度	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	1	4
R5 年度	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	3

(5) 新規入居前居住先

理由/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在宅	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	3
病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
老健	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1

(6) 退居者数

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6 年度	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	1	1	6
R5 年度	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	3

(7) 退居理由

理由/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護施設入居	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	1	4
他有料入居	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長期入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入院中死去	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2

(8) 行事

日 時	行 事 名	場 所
令和 6 年 4 月 21 日	北野東町内会クリーン作戦と花壇整地作業	町内会花壇
令和 6 年 5 月 26 日	町内会花植え	町内会花壇
令和 6 年 6 月 1 日	家族懇親会&窓拭き清掃・花壇整備	食堂&館内・たかほ花壇
令和 6 年 8 月 3 日	きたの de 縁日観覧	Da マルシェ駐車場
令和 6 年 8 月 5 日	七夕&花火の会	たかほ駐車場
令和 6 年 8 月 7 日	ろうそくだせ	あえーる
令和 6 年 9 月 4 日	焼き肉の会	あえーる
令和 6 年 9 月 14 日	朝市で販売「たかほマルシェ」	えん駐車場
令和 6 年 9 月 21 日	ほろ酔いマルシェ出張版	あえーる
令和 6 年 10 月 4 日	鷹栖高校生と創作 たかほリンピックゲーム物品	あえーる
令和 6 年 10 月 9 日	たかほリンピック	食堂
令和 6 年 10 月 12 日	朝市で販売「たかほマルシェ」	えん駐車場
令和 6 年 11 月 6 日	キッチンカー（アイス）を楽しもう！	あえーる
令和 6 年 11 月 9 日	のど自慢予選会観覧	旭川市民文化会館
令和 6 年 12 月 14 日	サロン展示物 毛糸のブローチづくり	食堂
令和 6 年 12 月 24 日	クリスマス会	食堂
令和 6 年 12 月 25 日	しめ縄飾りづくり	食堂
令和 7 年 2 月 8 日	北野サロン展示物 画用紙ステンドグラス作成	食堂
令和 7 年 2 月 3 日	豆まき	各居室・館内
令和 7 年 3 月 2 日	ひな祭りお茶会	食堂

(9) ボランティア受け入れ実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	3	3	3	3	4	4	3	3	3	3	3	4	39
延人数	43	41	36	33	33	34	35	37	27	35	34	37	425

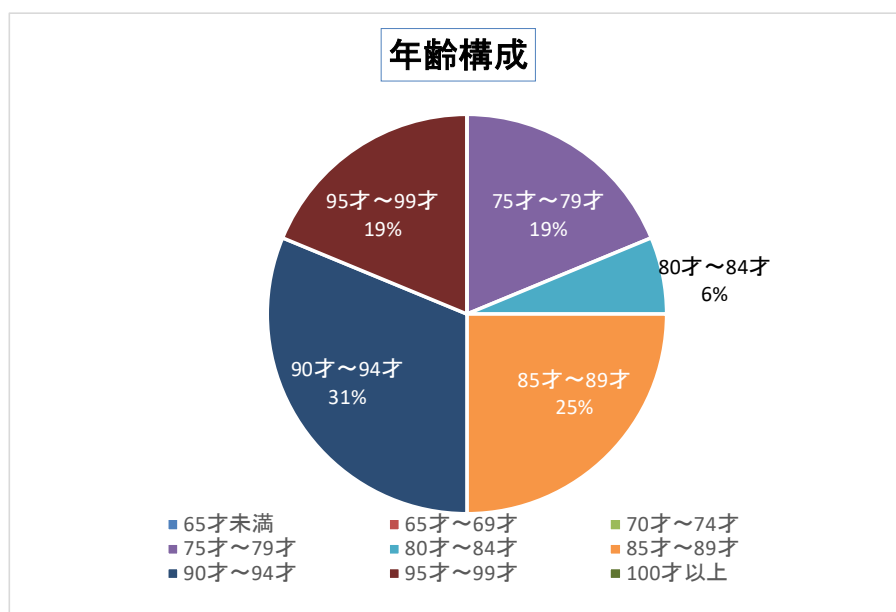
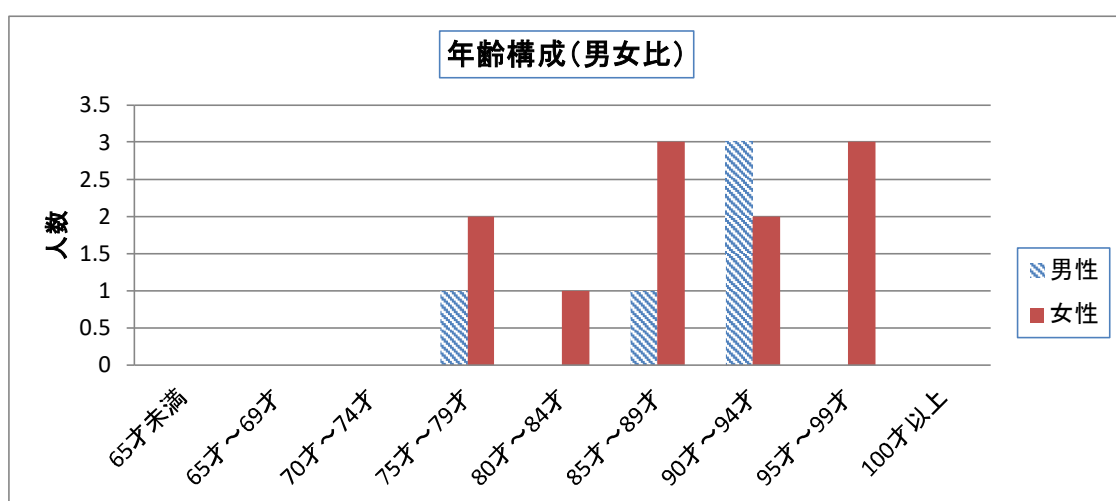
(10) たかほ会議 (計 12 回)

月 日	議題内容	参加人数
令和 6 年 4 月 17 日	・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 (今年度の活動計画書配布) ・設備管理対応 ・今月、来月の予定 (家族懇親会開催・くもん学習療法について)	3 名
令和 6 年 5 月 8 日	・入居者の状況 (新規入居者等) ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理 (電気保安点検) ・今月、来月の予定 (学習療法・ちょっと大丈夫かな食堂・朝市販売について)	3 名
令和 6 年 6 月 19 日	・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理 ・今月、来月の予定 (学習療法・入居者の役割・配食弁当について)	4 名
令和 6 年 7 月 10 日	・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理 ・今月、来月の予定 (新規入居者について・花火の会・ほろ酔いマルシェ出張版・焼き肉の会について)	4 名
令 6 年 8 月 7 日	・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理 ・今月、来月の予定 (災害時の対応・事故・たかほボランティア活動について・入居者の役割等について)	4 名
令和 6 年 9 月 11 日	・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理 ・今月、来月の予定 (くもん学習療法・くもんサポーター配食弁当・入居者の役割作りについて)	3 名
令和 6 年 10 月 2 日	・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理 (事務所フィットネス側扉修繕・居室 FF ストープエラーメッセージ部品交換) ・今月、来月の予定 (くもん学習療法サポーター養成講座・配食弁当・入居者の役割作りについて)	3 名
令和 6 年 11 月 13 日	・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況	3 名

	・設備管理（居室 FF ストープ点検・居室黒カビ） ・今月、来月の予定（学習療法・入居者の役割作りについて）	
令和 6 年 12 月 18 日	・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理（居室 FF ストープ点検業者について） ・今月、来月の予定（学習療法・昼食弁当について） ・業務変更・改善事項	3 名
令和 7 年 1 月 8 日	・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理 ・今月、来月の予定（新規入居者について・入居者の役割） ・業務変更・改善事項	3 名
令和 7 年 2 月 12 日	・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理 ・今月、来月の予定（学習療法・昼食弁当・北野サロン役割づくりでサロン展示物作成について）	2 名
令和 7 年 3 月 12 日	・入居者の状況 ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理（トイレ修繕・ダウンライトについて） ・事故について ・今月、来月の予定（学習療法・昼食弁当・サロン展示物について） ・業務変更・改善事項	3 名

1.入居者年齢構成(令和6年3月31日現在)

		在 籍 者			【最高年齢】 男性 94 歳 女性 97 歳 【最低年齢】 男性 77 歳 女性 76 歳 【平均年齢】 男性 88.8歳 女性 88.6歳 全体 88.7歳
		男性	女性	計	
65才未満		0	0	0	
65才～69才		0	0	0	
70才～74才		0	0	0	
75才～79才		1	2	3	
80才～84才		0	1	1	
85才～89才		1	3	4	
90才～94才		3	2	5	
95才～99才		0	3	3	
100才以上		0	0	0	
計		5	11	16	



2.食事状況(令和6年3月31日現在)

		自立	見守り	合計
男性		5	0	5
女性		11	0	11
合計		16	0	16

3.移動状況(令和6年3月31日現在)

		歩行		杖	歩行器など		車いす使用		合計
		自立	要介助	自立	自立	要介助	自立	要介助	
男性		1	0	0	4	0	0	0	5
女性		5	0	0	6	0	0	0	11
合計		6	0	0	10	0	0	0	16

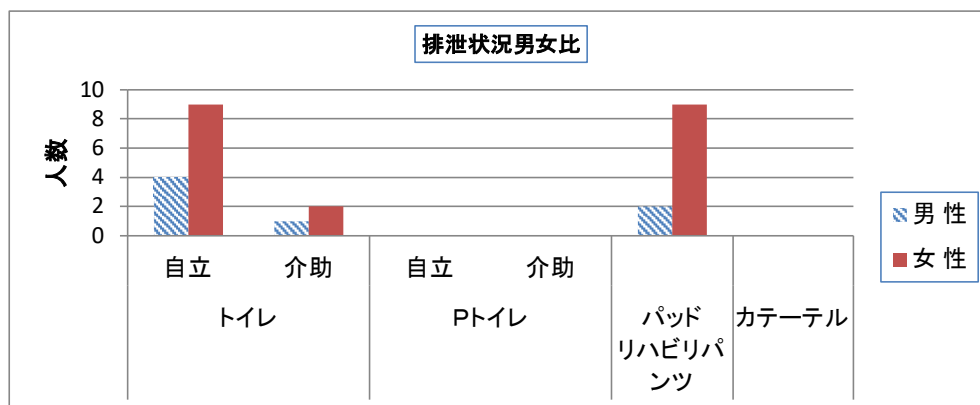
4.入浴状況(令和6年3月31日現在)

		一般浴		車いす浴	合計
		自立	介助		
男性		1	4	0	5
女性		3	8	0	11
合計		4	12	0	16

5.排泄状況(令和6年3月31日現在)

		トイレ		Pトイレ		パッド リハビリパン ツ	カテーテ ル	計
		自立	介助	自立	介助			
男性		4	1	0	0	2	0	7
女性		9	2	0	0	9	0	20
計		13	3	0	0	11	0	27

※重複あり

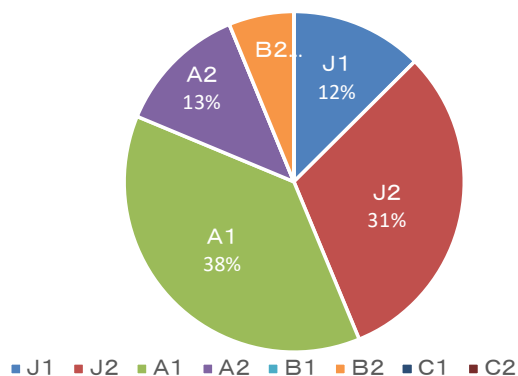


※重複あり

6.身体状況(障がい高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)判定)

	不明	J 1	J 2	A 1	A 2	B 1	B 2	C 1	C 2	計
男 性	0	0	3	1	1	0	0	0	0	5
女 性	0	2	2	5	1	0	1	0	0	11
合 計	0	2	5	6	2	0	1	0	0	16

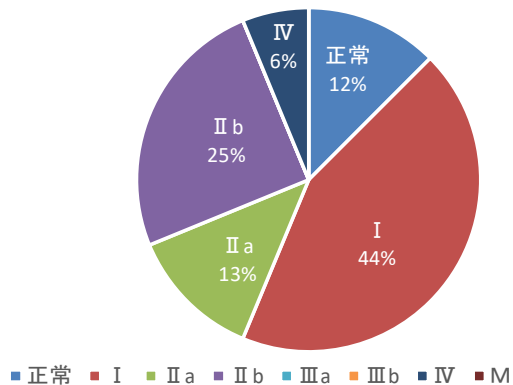
障がい高齢者の日常生活自立度



7.認知症(精神)状況(認知症高齢者の日常生活自立度判定)

	不明	正常	I	Ⅱ a	Ⅱ b	Ⅲ a	Ⅲ b	Ⅳ	M	計
男 性	0	0	2	1	2	0	0	0	0	5
女 性	0	2	5	1	2	0	0	1	0	11
計	0	2	7	2	4	0	0	1	0	16

認知症高齢者の日常生活自立度



令和 6 年度鷹栖町ヘルパーステーションさつき苑事業報告

1. 総括(今年度の取り組みの成果)

令和 6 年度も、「良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る」という基本方針のもと、各種取り組みを推進した。

「良いケア」の観点では、利用者の自立支援を重視し、個々のニーズや生活場面に応じた支援内容を訪問介護計画書に的確に反映し、共に行うケアの実践に努めた。これにより、自立支援の取り組みを着実に進めることができた。また、全利用者に対する訪問介護計画書及びモニタリングを、滞りなく作成・実施することができた。

月例の会議では、困難事例に関する意見交換を行い、サービス提供方法の共有・統一・改善に取り組んだ。さらに、事業所内研修において講師を担当する機会を設け、サービス提供責任者としての伝達力や指導力の向上を図る機会となった。

「良い職場」づくりに関しては、ICT の活用をさらに進め、音声入力導入により業務効率化を推進した。また、職員全員が長期休暇を取得できるよう体制を整備し、働きやすい職場環境の構築に努めた。勤務体制も個別の事情に配慮した柔軟なものとし、チームとして協力体制を築いた。

「良い経営をみんなの力で創る」については、前年度に引き続き、同法人の居宅介護支援事業所はもとより、鷹栖町や近隣市の地域包括支援センターとの連携強化を継続的に図ることができた。

なお、今年度の満足度調査において、「支援の統一」に関する項目で「やや不満」との回答が 4 件あり、昨年度より 3 件増加した。この結果を真摯に受け止め、チーム内で根拠を共有したうえで、統一的かつ質の高い支援の提供に努める必要があると考える。

感染症対策においては、訪問時の感染予防策を継続的に実施し、利用者および職員双方が安心してサービスを提供・利用できる体制を維持した。昨年度に引き続き、大規模な食事会の開催は見送り、茶話会においても飲食を控える方針を継続した。

一方で、新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行したことを踏まえ、新たな取り組みとして地域交流を目的とした外出支援企画を実施した。これは、町内で一人暮らしをしており、外出や買い物が困難な高齢者を対象とし、カフェでの交流機会を提供するとともに、帰りに自ら商品を選び購入できるよう支援を行った。参加者からは高評価を得ており、今後も意欲の向上と自立支援につながる有意義な取り組みとして継続を予定している。

今年度の大きな反省点としては、事故の件数が増加したことである。中でも職員の確認不足による服薬に関する事故が目立った。次年度は、確認の徹底と注意力の向上を図り、再発防止に努める。

業績面では、年間訪問件数が前年度 10,335 件から減少し、令和 6 年度は 9,691 件にとどまった。目標件数には 269 件届かず、達成には至らなかった。また、新規利用者数は前年度が 32 名であったのに対し、令和 6 年度は職員不足の影響もあり 24 名に減少した。加えて、休止者やサ

ービス停止者も多く、全体の件数増にはつながらなかった。次年度は、茶話会を通じたヘルパー周知活動および、居宅介護支援事業所や地域包括支援センターとの連携強化に一層注力し、利用促進を図る。

2. 展望（次年度に向けて）

令和7年度の目標として、「自ら学び、自ら考え、自ら動く」を掲げ、以下の3点に重点的に取り組む。

第一に「自ら学ぶ」では、現在の知識や技術に満足せず、常に学び続ける姿勢を持ち、新たな知見を柔軟に受け入れ、自己研鑽を重ねることを目指す。

第二に「自ら考える」では、利用者本位のケアを実践するために、自ら課題を見出し、改善策を提案し、日々のケアに反映させていく。

第三に「自ら動く」では、責任を他者に委ねることなく、自らの役割を果たし、率先して行動することにより、組織全体としての最善の改善を追求していく。

この三つの姿勢を全職員で共有し、地域に信頼される事業所づくりを進めていく。

3. 運営状況

（1）業績

目標収益（A）	実際収益（B）	達成率 (B)/(A)×100	前年度収入（C）	伸長率 (B)/(C)×100
36,008,000 円	34,962,550 円	97.1%	37,514,780 円	93.2%

（2）平均登録者数

目標月間 平均利用者数(A)	実際月間 平均利用者数(B)	達成率 (B)/(A)×100	前年度月間 平均利用者数(C)	伸長率 (B)/(C)×100
80.5 名	77.2 名	95%	93.8 名	82%

（3）月別利用者数

単位：人

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
R6年度	86	85	83	81	76	74	75	76	75	70	72	73	77.2
R5年度	93	95	99	101	98	94	98	94	91	92	84	87	93.8

（4）圏域別利用者数

単位：人

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
鷹栖町	34	34	30	29	27	26	27	27	26	26	27	29	28.5
旭川市	52	51	53	52	49	48	48	49	49	44	45	44	48.5
合計	86	85	83	81	76	74	75	76	75	70	72	73	77.2

（5）新規利用者の紹介先（※直接包括からの利用のみ包括の数字とする）

単位：人

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
町内居宅	1	1	0	1	0	1	0	1	1	1	0	3	10

町内包括	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
町外医療 機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	3	1	1	1	1	1	2	1	0	0	2	13
合 計	1	4	1	2	1	3	1	3	2	1	0	5	24

(6) 圏域別新規利用者数

単位：人

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
鷹栖町	1	1	0	1	0	2	0	1	1	1	0	3	11
旭川市	0	3	1	1	1	1	1	2	1	0	0	2	13
合計	1	4	1	2	1	3	1	3	2	1	0	5	24

(7) 停止者数

単位：人

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6年度	3	2	1	4	4	5	4	4	3	1	1	0	32
R5年度	2	3	1	4	4	3	3	4	3	5	5	1	38

(8) 停止理由

単位：人

理由/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在宅看取り	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	4
介護施設居	1	0	0	1	1	3	3	1	0	0	0	0	10
有料入居	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
長期入院	0	1	1	2	2	2	1	3	0	1	0	0	13
入院中死去	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2
転居	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
合計	3	2	1	4	4	5	4	4	3	1	1	0	32

(9) 要介護度別利用者数

単位：人

年度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
要支援1	22	22	23	23	22	23	23	24	25	23	24	23	23.1
要支援2	21	19	19	20	19	17	16	16	15	15	15	14	17.2
要介護1	26	25	24	21	21	21	22	23	22	21	21	23	22.5
要介護2	9	10	9	10	8	8	8	8	8	7	8	9	8.5
要介護3	4	5	4	2	1	1	0	0	0	0	0	0	1.3
要介護4	1	1	1	1	1	1	2	2	2	1	1	1	1.3
要介護5	3	3	3	4	4	3	4	3	3	3	3	3	3.3
合計	86	85	83	81	76	74	75	76	75	70	72	73	77.2

(10) 茶話会開催状況

日程・地区	鷹栖地区	鷹栖地区	春光
	6月9日	6月9日	7月9日
参加人数	10名	8名	9名

(11) 長寿のお祝い開催状況

日程・地区	鷹栖町	旭川市
	9月15日	9月15日
参加人数	2名	2名

(12) ヘルパー研修開催状況

開催日	テーマ	講師	参加人数
4月25日	法令遵守・高齢者虐待防止法・予防対策	米澤	10人
5月23日	苦情対応	伊藤	7人
6月25日	在宅課カンファレンス	米澤	1人
6月20日	食中毒の予防研修	己上	7人
7月12日	救急救命講習	消防	6人
7月17日	救急救命講習	消防	3人
7月25日	ミニ研修（ベッド上でのオムツ交換）	深瀬	7人
8月22日	自然災害研修（BCP）	米澤	7人
9月26日	ミニ研修（訪問介護の掃除）	伊藤	7人
9月5日14日	トランスファー研修（中級）	大矢・大河原	7人
10月10日	食事ケア研修（中級・初級）	能登・米澤	4人
10月17日	食事ケア研修（中級・初級）	能登・米澤	2人
10月24日	感染対策研修	藤川	9人
11月7日14日	認知症ケア研修（中級・初級）	松原・佐々木	9人
11月24日	在宅課カンファレンス	米澤	1人
12月5日12日	医療研修（中級・初級）	谷水・藤川	9人
12月10日	自然災害訓練	米澤	9人
1月9日16日	排泄ケア研修（中級・初級）	佐藤・室橋	9人
3月27日	感染予防訓練	米澤	7人

(13) 外部研修参加状況

開催日	内容	参加者
4月22日・23日	第14回 全国先端ケア研究会オンライン	米澤
8月6日・7日	令和6年度全道ホームヘルプサービス研究発表会	米澤・深瀬
10月5日	令和6年度多職種協同による自立支援と重度化対策・重度化予防研修	米澤
10月29日	令和6年度全道ヘルパー研修	伊藤・藤木
11月16日	令和6年度多職種協同による自立支援と重度化対策・重度化予防研修	米澤
12月20日	法定義務化研修（事業継続計画 BCP、防止、	全職員
1月15日	感染症の予防・蔓延対策研修	全職員
2月15日	上川地区別資質向上研修	米澤・鈴木 小笠原
2月20日	高齢者虐待防止	全職員
2月28日	セルフケア研修	米澤・藤木 伊藤・深瀬
3月16日	パワハラ研修	米澤
3月15日	令和6年度多職種協同による自立支援と重度化対策・重度化予防研修	米澤
3月28日	介護施設における「引き算の経営」 ～D X化&業務の見直しによる新たな価値の創造～	米澤

(14) ヘルパー会議開催状況

開催日	内容	参加者
4月25日	① 業績報告・活動報告進捗状況・業務改善（令和6年度活動計画、事業計画について）②高齢者虐待・身体拘束について③ケースカンファレンス④事故報告（0件）⑤ご家族からの要望（1件）苦情（0件）⑥その他（今月の目標・先月の評価）	8名
5月23日	① 業績報告・活動報告進捗状況・業務改善（令和5年度活動報告、事業報告について）②高齢者虐待・身体拘束について③ケースカンファレンス④事故報告（0件）⑤ご本人からの要望（1件）・苦情（0件）⑥その他（今月の目標・先月の評価）	8名
6月20日	① 業績報告・活動報告進捗状況・業務改善（第1回、2回茶話会の報告、第3回茶話会について）②高齢者虐待・身体拘束について③ケースカンファレンス④事故報告（1件）⑤ご本人からの要望（0件）・苦情（0件）⑥その他（今月の目標・先月の評価）	7名

7月25日	① 業績報告・活動報告進捗状況・業務改善（第3回茶話会の報告） ②高齢者虐待・身体拘束について③ケースカンファレンス④事故報告（1件）⑤ご本人からの要望（0件）・苦情（2件）⑥その他（今月の目標・先月の評価）	8人
8月22日	① 業績報告・活動報告進捗状況・業務改善（BCP計画での連絡の確認、利用者名簿、対応確認）②高齢者虐待・身体拘束について③ケースカンファレンス④事故報告（0件）⑤ご本人からの要望（0件）・苦情（0件）⑥その他（今月の目標・先月の評価）	8人
9月26日	① 業績報告・活動報告進捗状況・業務改善（ミニ研修）②高齢者虐待・身体拘束について③ケースカンファレンス④事故報告（1件）⑤ご本人からの要望（0件）・苦情（0件）⑥その他（今月の目標・先月の評価）	9人
10月26日	① 業績報告・活動報告進捗状況・業務改善（第3回茶話会について、個別外出計画について）②高齢者虐待・身体拘束について③ケースカンファレンス④事故報告（1件）⑤ご本人からの要望（0件）・苦情（0件）⑥その他（今月の目標・先月の評価）	8人
11月22日	① 業績報告・活動報告進捗状況・業務改善（令和6年度全道ヘルパー研修の報告）②高齢者虐待・身体拘束について③ケースカンファレンス④事故報告（1件）⑤ご本人からの要望（0件）・苦情（0件）⑥その他（今月の目標・先月の評価）	9人
12月19日	① 業績報告・活動報告進捗状況・業務改善（ ）②高齢者虐待・身体拘束について③ケースカンファレンス④事故報告（1件）⑤ご本人からの要望（0件）・苦情（0件）⑥その他（今月の目標・先月の評価）	9人
1月15日	① 業績報告・活動報告進捗状況・業務改善（ ）②高齢者虐待・身体拘束について③ケースカンファレンス④事故報告（1件）⑤ご本人からの要望（0件）・苦情（1件）⑥その他（今月の目標・先月の評価）	9人
2月20日	① 業績報告・活動報告進捗状況・業務改善（ ）②高齢者虐待・身体拘束について③ケースカンファレンス④事故報告（1件）⑤ご本人からの要望（0件）・苦情（0件）⑥その他（今月の目標・先月の評価）	9人
3月19日	① 業績報告・活動報告進捗状況・業務改善（ ）②高齢者虐待・身体拘束について③ケースカンファレンス④事故報告（1件）⑤ご本人からの要望（0件）・苦情（0件）⑥その他（今月の目標・先月の評価）	8人

(15) 事故発生状況

	令和 4 年	令和 5 年度	令和 6 年
私物破損	4 件	7 件	5 件
訪問忘れ	0 件	1 件	1 件
苦情	3 件	0 件	4 件
救急搬送	0 件	0 件	1 件
車両関係	2 件	3 件	2 件
転倒など	0 件	5 件	3 件
投薬忘れ	0 件	1 件	4 件
誤投薬	0 件	0 件	3 件
死亡発見	0 件	0 件	0 件
その他	0 件	2 件	0 件
合計	9 件	19 件	23 件

(16) 令和 6 年度私物破損・事故内容

発生日	内容	原因	対策
4 月 25 日	薬カレンダー内に前日の夕薬（下剤）が残っているのを発見。	前日の朝の訪問時と夕方訪問時の支援内容確認と手順のミス。	支援内容、手順を事前に確認し把握する。
6 月 14 日	掃除機使用时、ヘッド裏側の破損とホース部分の亀裂を発見。いつ生じたものかは不明。	使用時の負荷、劣化によるもの。	使用前後の確認と、取り扱いの注意。
6 月 22 日	訪問時に玄関入った所に尻もちをついており、痛み強く聞かれ救急搬送。	家族の送り出し後に単独で転倒。	福祉用具使用の声掛け、促し。
7 月 13 日	訪問時に応答なく、家族へ連絡し一緒に入室すると、テレビ前で転倒されているのを発見。	前日の夜間にふらつき転倒し、痛み強く動けずにいた。	歩行や動作時にふらつき、転倒が予測される時には、杖や歩行器使用の提案を早期に行う。
7 月 15 日	調理後の片付けの際に壁に立て掛けたまな板がシンクと壁の隙間に落下し取り出せない状態となった。	落下せずに立て掛けられるスペースがあったにも関わらず、壁側に立て掛けたため。	状況をよく確認し、予測をする事を習慣化しながら、行動・対応する。

8月25日	前日の夕薬がカレンダー内に残っていたが、日付を確認せずに当日分と思い込み、当日の夕薬セットしておらず未服用。	カレンダー内の残薬と袋から出す際に日付けの確認を怠った。	カレンダー内に残薬があれば、必ず手に取り日付の確認を行い残薬の袋に入れる。袋から薬を出す際、本人にセットしてもらう際にも日付を目視で確認する。
9月5日	トイレ掃除の際にブラシケースを破損。	劣化によるもの。	取り扱い時に不具合や、劣化が見られた際には、早期に本人や家族へ状態を伝え購入を依頼する。
9月12日	訪問日を勘違いし予定の確認を怠ったため、薬セットしていただく日数が不足し、翌日が未服用となっていた。	カレンダーでの予定、サービス提供の日時の確認不足。事前の情報確認不足。	事業所の訪問日の把握、支援内容の確認を事前に行う。退室前に再度確認する。
10月21日	社用車に乗り込む際にナンバープレートの一部がめくれている状態となっているのを発見する。	駐車中に接触事故にあった。	車輛への乗車前後は車輛の確認を怠らない。
11月13日	点耳薬を誤って、点眼する。	点耳薬と点眼薬の袋が誤って逆に収納されており、使用時に容器を確認しなかった。	使用時には、容器も確認する。
11月20日	利用者宅の洗面台清掃時に、排水栓の一部が外れてしまう。	劣化による破損。	使用前に状態の確認を行い、不具合があればその場でお伝えする。
11月23日	入浴時に前日の貼り薬を剥がさず、浴後に重複して薬を貼った。	入浴前に剥がすことをしなかった。	入浴前に必ず剥がす。
12月9日	調理中に目を離したところ鍋を焦がした。	鍋を火にかけた状態で側を離れた。	調理中は側から離れない。
1月22日	訪問先で車周りを確認した際に、右の前輪のタイヤガードが外れているのを発見する。	タイヤ周りに付着した雪や氷がガード内に入り込み不可がかった。	こまめにタイヤ周りの雪や氷を取り除く。

2月6日	ご本人から援助員へヘルパーが来ていないと話があり、援助員から居宅事業所へ連絡が入り、確認なくキャンセルしていたことが発覚した。	訪問した際に受診のメモがあり、本人に確認。入院するとの言葉聞かれたため、ケアマネジャーに確認をせず、訪問をキャンセルした。	受診や入院の話があった際は、必ずケアマネジャーへの確認を行う。
2月18日	薬カレンダーのポケット内に前日の1錠が残っているのを発見する。	薬を取り出す際のポケット内の確認と手渡す際の錠剤の確認を行わなかった。	カレンダーから取り出す際にポケット内を確認、手渡す薬の確認を行う。
3月4日	夕食後に就寝薬を誤って服用した。	ご本人が薬をセットした際にヘルパーが確認を怠り、夕薬と就寝薬の入れ違いに気付かなかったため、誤って服薬した。	ご本人が行う際にも、正しく行えているかを最後まで目視で確認を行う。
3月11日	ゴミ出し後一緒に歩行している際に、路面舗装の亀裂に躓き転倒した。	足元の確認、声掛け、一部介助を行っていなかった。	自宅周囲の路面状態と、利用者の歩行状態を把握し、声掛けや支える介助を行う。

(17) 令和6年度苦情内容

発生日	内容	原因	改善状況
7月18日	ヘルパーが来た際に勝手に冷蔵庫を開けられ、嫌だった。	状態の変化から必要性のない支援内容が計画書に入ったままだった。支援として本人と一緒に確認することとなっていたが、ヘルパーが単独で冷蔵庫内を確認した。	モニタリングだけではなく、口頭でもケアマネジャーへ支援内容の見直しを提案していく。出来ていない支援内容は会議の中で情報共有し、見直しをする。
7月31日	事業所が変わる時には事前に教えてほしかった。	利用者への説明と了承を得る前に、事業所の人員の都合で2名での対応が困難となったことを居宅へ相	居宅への相談前に、利用者本人、家族への説明を行い了承を得てから、移行の話を進める。

		談し、他事業所へ受け入れの調整を勧めた。	
9月17日	買い物代行の内容変更に伴う説明を電話で済ませず、自宅に来て説明するべきだ。	変更時の説明を電話で行ったが、不十分だった。	変更時には、対面でサービス提供責任者から説明を行う。
1月23日	職員の会話、事業所の対応に矛盾や不満を感じた。	滞在中のご家族への確認、説明が不十分であった。	会話では相手の言葉を繰り返すことで確認をする。援助に関しては、ご理解を頂くよう十分な説明対応を行う。

(18) 訪問内容別活動時間

訪問内容	令和5年度月平均時間	令和6年度平均時間
身体介護	487	404
生活援助	59	37
複合介護	201	162
介護予防訪問介護（独自Ⅰ）	140.3	124
介護予防訪問介護（独自Ⅱ）	81.8	64
介護予防訪問介護（独自Ⅲ）	18.9	14
私的契約	9	10

令和6年度 総合事業（一般介護予防事業）事業報告

1. 総括（今年度の取り組みの成果）

令和6年度は、「地域介護予防活動支援事業」「地域リハビリテーション活動支援事業」「介護予防普及啓発支援事業」「在宅医療・介護連携推進事業」「法人自主事業」の5事業に取り組んだ。フィットネス倶楽部コレカラ（以下、コレカラ）の実利用者数は197名（前年比106%）、延べ利用者数は8,098名（前年比105%）となり、着実な利用増がみられた。

1）地域介護予防活動支援事業

コレカラにおいては、介護予防を目的としたフィットネス機器によるサーキットトレーニングを実施した。令和6年3月末時点の登録者数は475名（男性124名、女性351名）で、4月より29名増加した。月間実利用人数は平均97.9名（前年比107%）であり、無料体験会やバス利用の周知など、広報活動を積極的に行ったことが奏功したと考える。65歳以上の実利用者数は184名であり、町高齢者人口の8.0%を占め、厚生労働省が掲げる「通いの場参加率目標の8%」の目標を達成した。特に北野地区では、125名（高齢者人口の12.1%）が参加した。昨年度より増加し、北野地区における通いの場への高い参加率に寄与した。

また、住民主体の介護予防活動の推進を目的とし、鷹栖町オリジナルの介護予防体操「あったかすりハビリ体操」の普及・啓発と、あったかすりハビリ体操指導士（以下、体操指導士）の養成・活動支援を行った。令和6年度は鷹栖地区にて「あったかすりハビリ体操指導士養成講座」を開催し、新たに6名を養成、登録者数は53名となった。体操指導士の活動場所は、体操サークルや老人会、高齢者住宅、ぬくもりの家たかは等多岐にわたり、年間の体操教室開催回数は306回（前年比109%）、延べ2,394名（前年比117%）と増加した。また、体操指導士同士の連携強化と指導内容の復習を目的として、復習会および交流会を開催した。交流会について、上川管内で活動する体操指導士が集まり、指導内容の復習や情報交換を行った。鷹栖町からは4名が参加し、鷹栖町での取り組みを発表するなど、自分たちの活動を振り返る良い機会になった。

2）地域リハビリテーション活動支援事業

新規利用者29名およびレッドコード利用者を対象に、体力評価を実施した。測定項目にはフレイル判定が含まれており、フレイル該当者・予備軍を早期把握することができた。地域包括支援センターや居宅介護支援事業所等からの地域在住高齢者の生活・環境調整に関する相談は13件であった。住宅環境への助言や福祉用具の選定支援を通して、地域在住高齢者の安全かつ自分らしく生活するための支援ができた。

また、町の「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施」の一環として、昨年に引き続き町の特定健診（鷹栖地区）においてフレイル検診を実施した。22名が参加し、フレイルハイリスク者を抽出することができた。また、その情報は保健推進係、地域包括支援センター、社会福祉協議会と共有し、専門職の支援や通いの場参加へとつなげることができた。

8団体に対してフレイル予防に関する講話を実施した。テーマは「社会参加」「認知症」「運動習慣」など多角的視点からフレイル予防を啓発できる内容とし、通いの場におけるフレイル予防を推進することができた。

3) 介護予防普及啓発支援事業

レッドコード教室は、上半期、下半期ともに9クラス72名が参加した。1回あたりの平均利用者数は平均6.6名（前年比108%）であり、昨年度より増加した。お盆時期の運動不足対策として、公式LINEにて運動プログラムを配信する「運動習慣化プログラム」を行った。36名が参加し、運動習慣の定着に寄与することができた。

コレカラサポーターは、実活動者数15名、延べ活動時間は124時間であった。今年度は体操教室活動支援やデイ勤務等で理学療法士が不在であった28日間すべてをサポーターのみで運営を担った。住民主体の介護予防を推進するとともに、理学療法士は地域の通いの場における介護予防活動に注力することができた。地域住民に向けて住民参加型介護予防に関する研修会を開催した。「社会参加の重要性」について講演し、参加者2名が体操指導士養成講座への受講につながった。

4) 在宅医療・介護連携推進事業

地域住民および医療介護関係者を対象とした研修会を1回開催した。まるまめ在宅診療所の松本学也医師を講師に招き、「訪問診療と在宅看取りの実際」と題して講演を実施した。参加者は町民63名、町内在宅医療に関わる歯科医師、訪問看護師、理学療法士、保健師、介護支援専門員等28名の計91名であった。予想を超える町民の参加があり、「訪問診療」や「在宅看取り」への関心の高さが示された。講演内容は、病期・疾病ごとの事例提示を交えたものであり、町民にとって訪問診療や在宅看取りのことを理解しやすく、終末期に向けた自己決定を考える契機になった。専門職との意見交換会では、鷹栖町の在宅医療の現状と課題を共有し、多職種連携の重要性を再確認する機会となった。また、講師と連携を深めることができたこと、町内の専門職や行政間の共通理解が進んだことも成果としてあげられる。

5) 法人自主事業

「あったかす健康手帳」は8名の方が継続利用し、日々の健康データ（血圧、体温、体重等）を自己管理することで、健康意識の向上につながった。コレカラ公式ラインの登録者は169名（前年比117%）に達した。

また、5年ぶりにヘルスリテラシー講座をレッドコード教室にて再開した。テーマは「認知症」「水分」「低栄養」「便秘」「社会参加」「フレイル」「地域包括支援センターの役割」に加え、新たに「ターミナルケア」を追加した。各専門職（介護士、看護師、ケアマネジャー、栄養士、保健師、理学療法士）が講師を担当し、最新の知見および現場経験に基づいた15分間のミニ講座を実施し、延べ538名が受講した。

春・冬の年2回「コレカラ大掃除」を開催し、延べ32名の利用者が参加した。さらに、たかほと合同で、ボランティア交流会を5年ぶりに開催し、コレカラサポーター、体操指導士、くもんサポーター計18名が参加した。クイズ大会や意見交換会を通じて交流を深め、日頃の感謝の意を伝える場になった。

6) その他

厚生労働省主催「第13回 健康寿命をのばそう！アワード（介護予防・高齢者生活支援分野）」において、「地域を巻き込むあったかすな住民参加型介護予防」というコレカラの取り組みが「厚生労働省老健局長 優良賞」を受賞した。

2. 展望（次年度に向けて）

令和7年度は「地域介護予防活動支援事業」「地域リハビリテーション活動支援事業」「介護予防普及啓発支援事業」「在宅医療・介護連携推進事業」「法人自主事業」の5事業に取り組む。

1) 地域介護予防活動支援事業

コレカラでのサーキットトレーニングの運動指導を継続し、登録者、実利用者数の増加に向けた広報活動を展開する。特に利用中止した方への利用再開を促すために、無料体験会などのイベントと連動した情報発信を行う。あったかすりハビリ体操では体操指導士養成講座を継続開催し、新たな体操指導士の養成を図るとともに、その後の住民主体の体操教室の立ち上げまで支援する。また、既存の体操指導士に対しては定期的なミーティングや復習会、他地域との交流を通じたフォローアップを行い、住民主体の介護予防活動を推進する。事業の効果検証として、ご利用者の生活状況や身体機能に関する調査を行い、学術大会にて演題発表を行う。

2) 地域リハビリテーション活動支援事業

コレカラ利用者への定期的な身体機能評価を継続し、評価結果に基づき、個人の身体機能に合わせた運動指導を行う。また、体力評価においてハイリスクと判定された方の情報を地域包括支援センターや社会福祉協議会と共有し、適切なサービスを提供できる支援体制の構築を図る。さらに、地域包括支援センターや居宅介護支援センターからの相談に対して、地域在住高齢者の身体機能や生活環境の評価および助言を提供する。リハビリ体操教室などの通いの場が増加傾向にある中で、その活動を持続可能なものにするためには、専門職の支援が不可欠である。体力測定会や健康講話、健康相談を実施し、通いの場におけるフレイル対策を推進する。

また、高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施に向けて、町の特定健診と連動してフレイルチェックを実施し、ハイリスク者に対して介護予防事業への参加を促し、運動機会を提供する。

3) 介護予防普及啓発支援事業

レッドコード教室での運動指導を継続する。サポーターの活動を継続するとともに、復習会を開催し、活動への意欲向上を支援する。公式ラインを活用した「毎日運動プロジェクト」を実施し、利用者の運動習慣定着を図る。さらに住民参加型介護予防の推進を目的に、住民向けの研修会を開催する。

4) 在宅医療・介護連携推進事業

鷹栖町の在宅医療・介護の連携を推進するために、関係者向けの研修会や情報交換の場を設ける。加えて、住民への啓発を目的とした研修会を開催し、在宅医療・介護に関する理解を深める機会を提供する。

5) 法人自主事業

より多くの高齢者のヘルスリテラシー向上を目的として、通いの場におけるヘルスリテラシー講座を開催する。また、互助の促進を目的に、ボランティア交流会や大掃除などの活動を実施していく。さらに、多世代交流や交通手段の工夫を取り入れたイベントを通じて、高齢者の社会参加を促進する。公式ラインの運用を継続し、コレカラの臨時休館情報や健康に関する情報を速やかに発信する。

6) まとめ

アフターコロナの現在、コレカラを中心に住民の運動習慣やサポーター・体操指導士の活動が広がりをみせている。今後さらにフレイル対策を展開していくためには、老人会やサロン、サークル活動などの「通いの場」において、多職種が連携して関わるのが重要である。こうした取り組みを通じて、より多くの元気高齢者を巻き込みながら、行政や社会福祉協議会と協力し、住民主体の介護予防を推進できるよう尽力していく。

3. 業績報告

1) 地域介護予防活動支援事業

(1) サーキットトレーニング

① 登録者数

(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男 性	116	115	115	115	115	115	115	116	118	124	124	124
女 性	330	328	331	331	333	333	336	337	340	348	350	351
計	446	443	446	446	448	448	451	453	458	472	474	475

② 実利用者数

(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年比
男 性	14	12	12	12	14	12	15	18	17	15	12	16	14.1	92%
女 性	76	79	77	77	69	64	84	88	89	97	105	101	83.8	111%
計	90	91	89	89	83	76	99	106	106	112	117	117	97.9	107%

(2) あったかすりハビリ体操指導士

① 指導士活動実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
登録者 (名)	47	47	47	47	47	47	47	47	53	53	53	53		
実人数 (名)	15	19	15	15	18	12	18	17	17	19	19	16	200	124%
延べ 活動時間 (時間)	63	67	67	62	62	57	65	65	48	57	56	78	747	115%

② 地域での体操教室実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
教室数 (回)	29	27	26	23	23	25	26	26	21	24	29	27	306	109%
参加者数 (名)	225	228	201	155	151	204	207	218	156	172	225	212	2394	117%

2) 地域リハビリテーション活動支援事業

(1) 体力評価

(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男 性	5	2	0	0	1	0	5	5	2	1	0	0
女 性	67	3	2	1	2	0	38	33	2	1	1	2
計	72	5	2	1	3	0	43	38	4	2	1	2

(2) 関係者から理学療法士への相談対応

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	2	0	2	2	2	1	0	1	1	0	1	1	13

3) 介護予防普及啓発支援事業

(1) レッドコード教室

(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年比
登録者数	72	72	72	72	72	72	72	72	72	72	72	72		
実人数	72	71	71	71	68	71	71	72	69	72	71	70	70.8	100%
1回平均利用者数	7.0	6.7	6.5	6.4	5.9	6.7	6.4	7.3	6.2	6.7	7.1	6.7	6.6	108%

※ 上半期・下半期ともに9クラス、1クラス8名で運営

(2) コレカラサポーター

① サポーター活動実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
登録者 (名)	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40		
実人数 (名)	6	3	3	13	11	5	8	10	6	6	10	12	93	91%
延べ 活動時間 (時間)	6	6	9	19	15	5	8	11	6	6	14	19	124	85%

4) 自主事業

(1) 公式LINE 登録者

(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	前年比
登録者数	145	147	148	150	152	154	156	162	162	162	165	169	117%

4 イベント・視察等

実施日	イベント名	概要
4月1日	令和6年度上半期レッドコード開始	・9クラス72名参加
4月5日	コレカラ視察	・上野文規氏、美瑛慈光会 安倍相談役
4月12日	中央体操教室活動支援	・体操指導士4名、参加者10名 ・体操教室初回
4月17日	15町内会体操教室活動支援・講話	・体操指導士1名、参加者8名 ・講話テーマ「在宅介護サービス」
4月23日	第96回総合事業会議	・実績報告 ・コレカラ利用停止者への対応
4月30日	高齢者住宅R2体操教室活動支援	・体操指導士1名、参加者8名
5月9日	木曜体操教室活動支援・講話	・体操指導士3名、参加者7名 ・講話テーマ「在宅介護サービス」
5月14日	中央体操教室活動支援	・体操指導士6名、参加者4名 ・さつき会広報取材
5月15日	春のコレカラ大掃除	・ご利用者14名参加
	ゆかいな仲間たち体操教室活動支援 ・講話	・体操指導士2名、参加者6名 ・講話テーマ「在宅介護サービス」
5月22日	第97回総合事業会議	・実績報告 ・コレカラ利用停止者への対応
6月5日	特定健診でのフレイル検診	・鷹栖地区の特定健診にて実施 ・コレカラサポーター3名、理学療法士 ・体力評価、フレイルチェック ・22名参加
6月8日	コレカラ視察	・全国老協会長 大山氏、蓬愛会総合施設長
6月11日	中央体操教室活動支援	・体操指導士4名、参加者7名
6月28日	第98回総合事業会議	・実績報告 ・在宅医療介護連携推進研修会について ・体操指導士養成講座について
6月8日	コレカラ体験	・鷹栖町婦人ボランティア15名参加 ・レッドコード、サーキット、くもん学習療法体験
7月9日	中央体操教室活動支援	・体操指導士4名、参加者6名
	体操指導士ミーティング	・体操指導士5名参加 ・昨年度の実績報告、各教室の実施報告 ・今年度の取組や情報共有
7月30日	コレカラ視察	・新十津川町社会福祉協議会3名

実施日	イベント名	概要
7月31日	第99回総合事業会議	・実績報告 ・下半期レッドコード教室申込みについて ・体操指導士養成講座について
8月7日	ろうそく出せ	・幼稚園児8名、教諭1名、サポーター3名、理学療法士参加 ・ぬくもりの家たかほや近隣宅へ訪問
8月19日	コレカラ視察	・厚生労働省3名、道庁1名、上川振興局2名
8月27日	中央体操教室活動支援	・体操指導士4名、参加者6名
	体操指導士復習会	・体操指導士10名参加 ・リハビリ体操復習、体操実技練習
8月28日	第100回総合事業会議	・実績報告 ・下半期レッドコード教室申込みについて ・体操指導士養成講座について
9月2日	健康ひろばでの健康講話	・計3クラス、25名が参加 ・講話テーマ「最新の介護予防」
9月8日	コレカラ視察	・ひだまり5名、誠心福社会2名
9月9日	コレカラ視察	・WJU見学会参加者30名
9月18日	令和6年度下半期レッドコード教室抽選会	・9クラス80名申込み
9月24日	中央体操教室活動支援	・体操指導士1名、参加者7名
9月25日	第101回総合事業会議	・実績報告 ・体操指導士養成講座について ・健康ひろばについて
10月1日	令和6年度下半期レッドコード開始	・9クラス72名参加
10月2日	令和6年度あったかすりハビリ体操指導士養成講座開始	・10～12月にサンホールはびねすにて開催 ・6名が参加
10月4日	上川管内指導士大交流会	・上川管内体操指導士参加 ・鷹栖は体操指導士4名 ・体操復習、活動報告、意見交換
10月15日	中央体操教室活動支援	・体操指導士5名、参加者7名 ・読み合わせ型開始
10月16日	第2回全国シルバーリハビリ体操指導士連合会交流会 in 茨城	・鷹栖からは体操指導士4名、理学療法士がオンライン参加
10月24日	木曜体操教室活動支援	・体操指導士3名、参加者8名
10月28日	令和7年度総合事業策定会議	・参加者：大矢、大河原 ・今年度の振り返りと次年度の事業案

実施日	イベント名	概要
10月31日	第102回総合事業会議	・実績報告 ・社会参加・フレイルに関する調査
11月8日	介護の魅力フェア in 鷹栖	・フレイルチェックブース
11月14日	コレカラ視察	・旭川大学1年20名参加
11月20日	15町内会体操教室活動支援	・体操指導士1名、参加者9名、養成講座受講者5名
11月26日	中央体操教室活動支援	・体操指導士5名、参加者11名
	第103回総合事業会議	・実績報告 ・在宅医療・介護連携研修会について
11月29日	第13回 健康寿命をのばそう！アワード（介護予防・高齢者生活支援分野）表彰式	・日経ホール（東京）」にて開催 ・「地域を巻き込むあったかすな住民参加型介護予防」というコレカラの取り組みが「厚生労働省老健局長 優良賞」を受賞 ・尾上部長参加
12月11日	冬のコレカラ大掃除	・ご利用者18名参加
12月17日	中央体操教室活動支援	・体操指導士6名、参加者12名 ・松下元気氏によるあったかすりハビリ体操生演奏
12月25日	第104回総合事業会議	・実績報告 ・在宅医療・介護連携研修会について ・無料体験会について
12月28日～1月3日	年末年始休館	
1月15日	はびねす体操教室立ち上げ支援	・体操指導士5名 ・読み合わせ型
1月17日	鷹栖町保健推進委員協議会全体研修会での講話	・保健推進委員21名参加 ・講話テーマ「最新の介護予防」
1月21日	中央体操教室活動支援	・体操指導士5名、参加者14名
1月22日	第105回総合事業会議	・実績報告 ・在宅医療・介護連携研修会について ・無料体験会について
1月29日	はびねす体操教室立ち上げ支援	・体操指導士5名
2月7日	在宅医療・介護連携推進研修会	・講師：松本学也氏（まるまめ在宅診療所） ・講演テーマ「訪問診療と在宅看取りの実際」 ・町民63名、専門職28名の計91名参加

実施日	イベント名	概要
2月12日	はびねす体操教室立ち上げ支援	・ 体操指導士5名
	フレイル会議	・ 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施について検討 ・ 保健推進係保健師、地域包括保健師、理学療法士参加
2月19日	コレカラ無料体験会	・ ご利用者37名が参加 ・ 講師：小橋氏（北都保健福祉専門学校、理学療法士） ・ 講演テーマ「腰痛ケアを学ぼう」 ・ お口の健康チェック、栄養ブース他
2月21日	令和7年度さつき会事業計画ヒアリング（総合事業）	・ 事業計画、予算案
2月25日	中央地区体操教室活動支援	・ 体操指導士5名、参加者13名
	第106回総合事業会議	・ 実績報告 ・ R7上半期レッドコード教室について ・ ヘルスリテラシー講座について
2月26～27日	コレカラ視察	・ 真誠会3名
3月12日	はびねす体操教室立ち上げ支援	・ 体操指導士4名
3月16日	喜楽会での健康講話	・ 25名参加 ・ 認知症に関する講話、デイクティビティ体験
3月17日	介護に関する入門的研修講師	・ 鷹栖高校1年生 ・ フレイル、起居動作の介助方法について
	月曜体操教室活動支援	・ 体操指導士5名、参加者7名
	令和7年度上半期レッドコード教室抽選会	・ 9クラス83名申込み
3月25日	ボランティア交流会	・ ボランティア18名参加 ・ 活動報告、クイズ大会、意見交換会
	第107回総合事業会議	・ 実績報告 ・ コレカラバス利用について ・ 来年度の事業について ・ ヘルスリテラシー講座について
3月26日	はびねす体操教室立ち上げ支援	・ 体操指導士4名 ・ 体操教室の周知方法、会場使用料の確認

令和6年度 給食部門 事業報告

1. 総括

令和6年度は、「住民参加による元気づくり・生涯活躍の場づくり」を基本方針とし、「地域食堂」の月1回の開催を通じて、アクティブシニアの生涯活躍の場の提供と、地域住民の健康促進を目指して取り組んだ。

地域食堂については、開催曜日を木曜日に固定することで地域住民への認知度が向上し、集客の増加に成功した。また、町内バスを利用してフィットネスに通う高齢者に対し、運動後の栄養補給として食事を提供する体制を整え、継続利用につなげることができた。さらに、食堂を外出の楽しみとして活用する利用者も増加し、地域の憩いの場として一定の役割を果たしていると捉えている。

「健康料理教室」については、より多くの住民の参加を促すため、あえーる以外の地域施設での開催を企画したが、地域行事等との日程重複により、集客が見込めず中止となった。一方で、外部講師（企業栄養士）を招いた新たな形式の教室を実施することができ、新しい試みとして評価している。しかしながら、全体として参加者数は減少傾向にあり、今後の重要な課題であると認識している。

2. 次年度へ向けて

次年度においては、健康料理教室の参加者拡大を重要課題と位置づけ、地区担当者の協力を得ながら、あえーる以外の会場での開催を計画する。あわせて、男性を対象とした料理教室の企画にも着手し、地域住民の多様なニーズに応じた内容とする。

また、鷹栖町教育委員会が運営する「たかす健康ポイント」の対象施設として登録することで、料理教室への参加動機を高め、より多くの住民が参加しやすい体制の構築を図る。さらに、社会福祉協議会等との連携を深め、地域全体での健康づくりと交流促進に貢献する。

3. 健康料理教室（地域における公益的な活動）

実施日	内容	献立	講師	参加人数
5/24	地中海食で認知症予防	魚介のカレー豆乳クリームパスタ キャロットサラダ ブリスボール	己上	7名
7月	未実施	参加者少数のため中止		
9/6	自宅で簡単に作れる 栄養満点ごはん	鮭としらすの混ぜごはん すまし汁 かにかまの卵豆腐	己上	4名

		胡瓜とちくわのマヨ和え		
11/2	腸を整え 免疫力を上げよう	ごはん れんこんとごぼうのハンバーグ きのこの梅おかかごま和え 麴甘酒とさつま芋のスープ	鈴木	7名
1/17	より良い睡眠のため の健康管理	ジョアで ブルーベリーレアチーズ	ヤクルト	5名
3/21	健康おやつ	バナナココアベイクドオーツ	鈴木	4名

4. 地域食堂（地域における公益的な活動）

	献立	提供食数	実施者
4/25	春の彩りごはん あさりのすまし汁 春の炊き合わせ ファイバーサラダ	25食	己上 鈴木 住民協力者2名
	ロールケーキ（いちご）	17食	
5/30	米飯 味噌汁 キャベツ入りメンチカツ 若布と葱のポン酢和え	29食	己上 鈴木 住民協力者2名
	ヨーグルトババロア	15食	
6/27	ふきの炊き込みごはん 味噌汁 ほっけの山椒焼き ほうれん草のお浸し 胡瓜の浅漬け	27食	己上 鈴木 住民協力者2名
	パウンドケーキ	17食	
7/18	ピリ辛冷やし中華 茄子とピーマンの味噌炒め 冷凍マンゴー	26食	己上 鈴木 住民協力者2名
	レモンのマフィン	9食	

8/22	コーンと枝豆の混ぜごはん 味噌汁 茄子とズッキーニの肉巻き 冷奴	22 食	己上 鈴木 住民協力者 2 名
	アールグレイのパンナコッタ	14 食	
9/9	スープカレー ライス 野菜サラダ	30 食	己上 鈴木 住民協力者 3 名
	NAMA 果のゼリー (既)	30 食	
10/17	秋おこわ きのこの味噌汁 伏見卵 小松菜の胡麻和え	31 食	己上 住民協力者 3 名
	柿のムース	18 食	
11/28	豚肉とひじきの混ぜごはん 具沢山味噌汁 煮豆腐のきのこあんかけ ヤーコンとりんごのサラダ	31 食	己上 鈴木 住民協力者 3 名
	スイートポテト	21 食	
12/19	豆乳担々麺 海鮮焼売 彩りサラダ	24 食	己上 鈴木 住民協力者 1 名
	スフレチーズショコラ (既)	10 食	
1/30	オープンいなり寿司 豚汁 冷奴 白菜のゆず和え	31 食	己上 鈴木 住民協力者 2 名
	蜜柑のパウンドケーキ	18 食	
2/20	米飯 わかめスープ 煮込みハンバーグ ジャーマンポテト 野菜サラダ	27 食	己上 住民協力者 3 名
	台湾カステラ (既)	17 食	

3/13	かき揚げ丼 具沢山味噌汁 卵豆腐 胡瓜の酢の物	33 食	己上 住民協力者 4 名
	ティラミス風ムース（既）	18 食	